

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

平成 23 年度～平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究成果報告書概要

- 1 学校法人名 学校法人 関西大学 2 大学名 関西大学
- 3 研究組織名 地域再生センター
- 4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町3-3-35
- 5 研究プロジェクト名 集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究
- 6 研究観点 研究拠点を形成する研究
- 7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
江川直樹	先端科学技術推進機構・ 理工学研究科	地域再生センター長 教授／建築家

- 8 プロジェクト参加研究者数 16 名

- 9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

- 10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
江川 直樹	先端科学技術推進機構・地 域再生センター長、 理工学研究科・教授／建築家	団地再編におけるコミュニティスケ ールの再構成と空間・景観計画に 関する研究	空間と再編事業デザインの 構築
鳴海 邦碩	先端科学技術推進機構・地 域再生センター 理工学研究科・客員教授	団地再編のビジネスモデルに関す る研究	公共政策・マネジメントと再編 事業デザインの構築
岡 絵理子	先端科学技術推進機構・地 域再生センター 理工学研究科・准教授	団地再編におけるコミュニティ形成 とライフスケープに関する研究	コミュニティと再編事業デザイ ンの構築
橋寺 知子	先端科学技術推進機構・地 域再生センター 理工学研究科・准教授	北欧・東欧の団地再編における建 築その他の保存・継承に関する研 究	空間と再編事業デザインの 構築
(共同研究機関等) 高田 光雄	京都大学大学院工学研 究科都市環境工学専攻 居住空間学・教授	団地再編におけるコミュニティスケ ールの再生と「シナリオアプロ ーチ」に関する研究	コミュニティと再編事業デザイ ンの構築
末包 伸吾	神戸大学大学院 工学研 究科・教授／建築家	団地再編のための欧米における 近代・現代建築の理論とデザイン に関する研究	空間と再編事業デザインの 構築
小玉 祐一郎	神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科・ 教授	団地再編におけるパッシブ環境形 成に関する研究	空間と再編事業デザインの 構築
平山 洋介	神戸大学 発達科学部 人間環境学科・教授	団地再編における生活環境形成と 公共の役割(社会政策)に関する 研究	公共政策・マネジメントと再編 事業デザインの構築
小浦 久子	神戸芸術工科大学大学院・ 芸術工学研究科・教授(前 大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻・准教授)	団地再編における景観形成と公共 の役割に関する研究	公共政策・マネジメントと再編 事業デザインの構築

(様式2)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

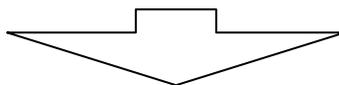
研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
糟谷 佐紀	神戸学院大学 総合リハビリテーション 学部社会リハビリテーシ ョン学科・准教授(前専任 講師)	団地再編における福祉的リハビ リテーションに関する研究	コミュニティと再編事業デ ザインの構築
室崎 千重	奈良女子大學生活環境 学部・講師(前兵庫県立 福祉のまちづくり研究 所・特別研究員)	団地再編における高齢者の居住 継続を可能とするコミュニテ ィスケールに関する研究	コミュニティと再編事業デ ザインの構築
林 泰義	都市計画家 (株)計画技術研究所所長 特定非営利法人「玉川ま ちづくりハウス」運営委 員	団地再編における地域によるコ ミュニティ形成に関する研究	コミュニティと再編事業デ ザインの構築
藤本 昌也	建築家 (株)現代計画研究所会長(前 現代計画研究所代表・日本 建築士会連合会会長)	団地再編における空間再生から 生活再生への視点の転換に関 する研究	コミュニティと再編事業デ ザインの構築
安原 秀	建築家 元(株)ヘキサ・都住創代表	団地再編におけるコーポラティ ブ型集住環境形成に関する研究	空間と再編事業デザインの 構築
星田 逸郎	建築家 (株)星田逸郎空間都市研 究所代表	団地住民の意識の理解に根差す 集住環境整備と事業の共生に関 する研究	空間と再編事業デザインの 構築
大坪 明	武庫川女子大学 生活環境学部・教授	団地再編における空間の再構成 にとコミュニティ活性化に関 する研究	空間とコミュニティの再編 事業デザインの構築

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 23年 4月 1日)



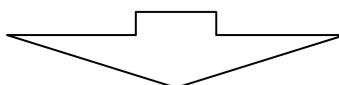
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	武庫川女子大学 生活環境学部・教授	大坪 明	空間とコミュニティの再編事業 デザインの構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
団地再編における公的セク ターの役割に関する研究	(株)都市再生機構住まいサポート業務部・ ストック改善事業チーム	柏木 大輔	公共政策・マネジメントと再編事 業デザインの構築

(変更の時期:平成 24年 4月 1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

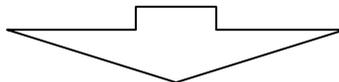
(様式2)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
団地再編のための欧米における近代・現代建築の理論とデザインに関する研究	先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・教授／建築家	末包 伸吾	空間と再編事業デザインの構築

(変更の時期:平成 26 年 10 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・教授／建築家	神戸大学大学院 工学研究科・教授／建築家	末包 伸吾	空間と再編事業デザインの構築

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

・ 研究プロジェクトの目的・意義

わが国の人口拡大・都市化の時代に大量に建設された大規模公的賃貸集合住宅団地は、住宅の老朽化や設備の陳腐化などの物理的な問題のみならず、高齢化率の上昇やコミュニティの弱体化などの社会的問題を抱え疲弊化の様相を呈しているが、大量のストックがあり資金面の問題等から建て替えは困難で、その多くがストック活用による再生が目されている。本研究の目的は、事業主体が造りやすく一元管理しやすい画一的な空間構成となっているこのような大規模集合住宅団地を、住宅等のストックの活用を図りつつ、住民が守り育て自立的に更新していきけるような持続性の高い集住環境に再編する技術を開発し実践に活かすことにある。団地建設の時代には産官学あげて技術開発に取り組んだが、ストック活用型の団地再生・再編は、住戸・住棟改善のレベルにとどまっており、「学」が先鞭を切って、団地全体及びそこに住む住民コミュニティの再生・再編技術の開発とそれを担う人材の育成に取り組むことは、極めて有意義である。

・ 計画の概要

本研究は、集住環境を専門とする建築家、研究者が主体となり、「空間・デザイン」「コミュニティ」「公共政策・マネジメント」の3つの分野からの検討と、それらをいかに実践的に総合化させるかという視点から、関係各分野の専門家、行政や住民、市民と協働で取り組む。

計画は、団地再編に寄与する国内外の既存事例の整理を行いつつ、海外で進行する団地再編事例の調査、再生前後の空間その他の比較から、新たな集住環境としての再編目標を明確にし、以後、上記研究成果を基礎に、条件の異なる国内の複数の団地を対象に、それぞれストックを活かしつつ行う再編計画案を策定し、これを関係各者の参加を得て評価・検討を行い、団地再編の目標と解決のための手法、提案を「団地再編技術ガイドライン」としてとりまとめ、公表出版する。

本研究は、大規模団地の持つ空間的、制度的基本課題と現状の状況課題から、持続的な集住環境への再構築に向けて、どの主体がどのように連携し、どのようなプロセスで再編していくべきかを探り、方向性を示す研究である。団地構造の再編、仕組みや制度の再編、その結果としての屋内外空間再編、それらと連動した居住者や地域コミュニティの再生と、将来的にも持続的な集住環境への再編を実現することを目標とした、空間計画、制度再編やプロセス手法構築といった建築計画学の研究であり、本研究期間終了後も、研究の継続と成果を活かした実践活動を展開する。

(2) 研究組織

・ 研究プロジェクト遂行のための責任体制の明確化

本研究は、集住環境に経験や造詣の深い実務建築家、都市計画家、実践協働経験のある研究者16名(本学4名)による構成が特色で、その他、実務建築家や事業主体経験者、行政専門家で構成される客員研究員(10名)、その他PD等若手研究者や大勢の大学院生準研究員が協働で取り組むプロジェクトである。【別紙01参照】。研究代表者は、公的賃貸集合住宅団地や集住環境の再生プロジェクトに成果があり、大規模団地の課題に詳しいプロフェッサー・アーキテクトである。

研究は、関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター内のKSDP 団地再編プロジェクトを研究拠点として、空間、コミュニティ、制度・マネジメントの3つの研究部会の主査を本学メンバー(空間は研究代表者)が務め、代表者がアーキテクトの特質を活かし総合化、総括する。調査分析、提案、フィールドでの実践、検証、その他成果の公表等、3人の主査が協働し、代表者の責任で遂行する。拠点の運営は、研究代表者が特任研究員、PD、RA、大学院生準研究員等を主導し、協働で行う。

・ 研究者間・研究チーム間の調整・連携の状況

本研究は、具体的フィールドでの提案や検証等、多くのメンバーが協働で活動する。研究組織は、3つの領域に分かれた研究部会を構成し、研究メンバーが継続実施している個別の研究成果や知見を、具体的フィールドでの再編提案、実践プロジェクト等の様々な局面で反映させ、検証等を経て総合化する。学外のメンバーも多く、そのため、調整・連携についてはこれを密にする必要があり、毎週、研究拠点で研究代表者が主宰する“KSDP 団地再編連絡会議”を開催(平成28年3月末まで221回開催)し、議事録は、メーリングリストでメンバーや関係者に即時伝達している。また、事例研究や成果・提案公表、研究会、シンポジウム等は、団地再編レクチュアシリーズ(映像)としてUstreamで同時配信、プロジェクトのWebサイト上で常時視聴可能としている。Webサイト上では、研究成果の取り出しが行えるほか、メンバー限定エリアでは、資料や検討中の案の確認、取り出しや意見交換を行えるようにして、Webサイトの活用を図った。再編提案や後の具体的整備設計に際しては、専門家と大学院学生を交えた提案部会を頻繁に開催し、事業者とも協働した。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

・研究支援体制

本研究プロジェクトは、研究費の事務的処理や納品管理、フィールド研究・実践のための学内起案、学内評価、研究に関連する受託研究その他について、関西大学先端科学技術推進機構、および研究推進部、社会連携部の全面的な支援を得て実施された。

その他、UR都市機構や関係行政からの積極的、かつ多大な支援・協力を得た。京都府、西宮市、大阪府、河内長野市、市関連企業、吹田市、近畿圏の住宅供給公社、住まい公社、兵庫県、再編提案策定該当団地・地域の住民、自治会等の住民組織、大阪ガス等の公益企業等、多くの支援協力を得て、本研究プロジェクトが実施された。

・大学院学生・PD、RAの活用状況等

特任研究員・PD・RA(計4名)、大学院生準研究員(延べ48名)【別紙01参照】が、研究メンバー、実務家客員研究員の指導の下、協働し、調査やワークショップ等の現場フィールド、提案策定、展覧会運営、住民コミュニティ拠点運営、実践提案及び実施設計、施設整備等の研究プロジェクトに参加し、また、国際シンポジウムや関係諸学会への論文投稿、修士論文研究等を実施した。

平成26年には、3年間の経験を経たPDが、愛媛大学のアーバンデザインセンターに専任の教育職員として採用され、本研究プロジェクトでの経験を活かした活動を展開している。

・研究施設の整備状況

KSDP 団地再編プロジェクト室として、先端科学技術推進機構 学術フロンティア・コアのF41室(39.00㎡)、F42室(78.00㎡)を使用。F41室は模型製作、図面作成室として主に使用し、F42室は、特任研究員、PD、RAが常駐している。PD等調整会議、KSDP 団地再編連絡会議は、毎週ここで開催し、レクチュアや部会議等は、先端科学技術推進機構の会議室(4室)を頻繁に使用している。

また、UR 男山団地内のC2-402室(46.08㎡)を居住実験及び現地研究拠点として平成24年7月より25年10月迄使用、11月からは住民も集える研究拠点(だんだんテラス)施設として男山センター内のB47-104室を使用している。本拠点は、研究期間終了後も継続して使用する予定である。

さらに平成27年3月から平成28年2月まで、UR南花台団地(河内長野市)の18号棟-803室(56.00㎡)を居住実験及び現地研究拠点として使用し、団地再生モデル事業の検討研究活動を展開した。

(3) 研究施設・設備等

・プロジェクトに適合した装置設備の整備

研究設備として、団地再編シミュレーション・システム(模型製作および映像による空間比較を行う)の導入を図り、併せて、変更前後の空間変化が理解しやすい画像比較ソフトの開発を実施し、提案とその公表、検証に用いた。

・研究装置、設備の利用状況(利用時間数を含む)

シミュレーション・システムは、提案検討及び公表のための模型作成、及び模型による空間の検証、住民への説明などに繰り返し使用し、システムが整備された初年度12月以降平成28年3月末までの52か月間(その間、プロジェクト室は1009日稼働)で、154日927時間稼働した。

・外部の研究資金の導入状況等

研究メンバーの、本研究に関連する内容の科学研究費補助金、その他の研究補助金、受託研究のH23～27年度の実施の件数は、18件111,349千円である。そのうち特に、具体の再編提案から展開し本研究プロジェクトとして受けた受託研究が、9件41,669千円である【別紙02参照】。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

1. シミュレーション研究から実践的研究活動への展開

構想調書での計画では、具体の団地を対象に再編提案を策定し、住民や地域、事業主体との検証を繰り返すなかで団地再編手法の技術開発研究を図ろうというシミュレーション研究であった。しかし、最初に提案の対象団地として取り上げた、[case01]男山団地(京都府八幡市)での研究・提案活動が、多くの関心、期待を集め、実践的研究活動に発展・展開していった。そのため、行政(八幡市、京都府)、事業主体(UR都市再生機構)との強固な連携体制、住民や地域との協働の可能性が大きく芽生え、この視点から、より実践的な具現化プロジェクトの実施、構想が可能となり、実践的、経験的研究活動を通しての検証や提案体制での研究活動を進めることとなった。

行政、事業主、本プロジェクト(大学)が連携協定を締結し、実践的研究活動へと展開できることとなったのである。協定には、『・・・八幡市及び男山団地の所有・管理者である独立行政法人都市再生機構は、関西大学による「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」における男山地域・男山団地の再生に関する提案を踏まえて、関西大学とともに、男山地域のまちづくりに取り組んでいきます。・・・』と謳われている。【別紙03参照】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

以後、本プロジェクトの提案に基づく様々な取り組みが展開されているが、団地と対峙する中で浮かび上がってきた重要な課題は、将来への持続的な団地環境への再編を目指しつつ、現住民の意欲的な暮らしに寄与するコミュニティや団地環境の再編整備、それらを進める仕組み、制度等の再編整備を同時に進めることの必要性であった。さらに、そのために事業主側の制度や規約の再編を図るには、具体的な実践を通して協議・検討しなければ実現できないということもわかってきた。このように、シミュレーション研究から実践を伴う研究活動への発展的展開そのものが、プロジェクトの大きな成果であり、そこに至るプロセス、その後の具体的実践、それらの成果の公表が、本プロジェクトの大きな成果となった。

学（本研究プロジェクト）が行政、事業主、住民との間に立ち、専門的立場に基づく団地再編実践の方向性と機会を提案し、段階を追って実践していく中で、課題解決への機運が高まり、市民協働、住民協働への意識改革とそれに基づく活動、事業に結びつく実例を展開してみせたことは、外部評価委員の指摘（評価）にもあるように、関係する各主体から大きく評価されているところである。

この間、男山団地では子育て環境や住み続けられる環境への団地再編の取り組みが現実化するなかで、新たな入居が促進され、空き住戸が減少しており、結果として、具体的な実践プロセス、成果そのものが、いわば、団地再編技術ガイドラインとして提示できることとなった。

また、[case03]南花台団地（河内長野市）でも、団地再編コンペの実施とプロジェクト提案がきっかけとなって、平成26年度から団地を中心とする地域で、実践的研究活動を開始している。

2. 研究活動・進捗プロセスの概要（p.7図1参照）【詳細は別紙04参照】

○平成23年度（研究初年度）

研究初年度は、既存研究や関連分野の先進事例の調査分析、「団地再編レクチュアシリーズ」の開催、大学院学生と研究員、研究メンバーによる海外先進事例調査、先進事例の再編前後の空間比較モデル（模型）の作成、それらの成果を団地住民や関係者（事業者、行政）、学生、研究者を対象としてわかりやすく編集した「団地再編リーフレット」の発行、「団地再編叢書」の刊行、加えて、次年度の再編提案対象団地の選定を行った。レクチュアシリーズは以後も継続して実施、リーフレット、叢書の発行も、最終年度まで継続した。研究は当初計画以上に進められた。

○平成24年度（研究2年度）

研究2年度目は、当初計画に沿って、[case01]として選定した男山団地を対象に、各種調査と併行し再編提案を策定、海外事例等の研究成果と併せ、現地住民だけでなく広く一般公開展示し、課題の社会共有化と検証を目指した。提案は団地再生に取り組む関係者からの大きな関心を得た。提案の検証作業を通して、将来への持続的な団地環境への再編と、現住民の不満の解消、そのための環境再整備、それらを進める仕組み、制度等の再編整備を同時に進めることの必要性が確認できた。研究活動は、八幡市、京都府と課題の模索、認識の共有化を図りつつ進めた。大学院生によるPetit DIY 改修実験は、住民自らが参加する家づくりとして、その後の団地環境再編への方向性の共有に大きな影響を与えた。再編提案[case02]浜甲子園団地4期エリア（西宮市）は、建て替えによる団地再編が進む団地の計画未定エリアを対象に、ストック活用型の提案を策定公表した。研究は当初計画を超えた実践を含んで進められ、研究2年度までの外部評価を実施し意見の聴取を図った。

○平成25年度（研究3年度）

研究3年度目は、男山団地での再編提案に対して事業者からの一定の評価と期待感を得て、新たにUR都市機構（ストック再生チーム）とも協働しつつ研究活動が展開できることとなった。秋には、八幡市、関西大学、UR都市機構間で連携協定を締結（京都府立会い）し、365日オープンな住民コミュニティ拠点「だんだんテラス」を団地内に開設した。さらに、団地を中心とした地域再生を図る「男山地域再生基本計画」を八幡市と協働で策定し、翌年から実施している。また、空き家の多い郊外型の典型団地として、[case03]南花台団地（河内長野市）を取り上げ、仮想の対象地とした団地再編コンペを全国規模で実施し、多くの参加を得て、団地再編への課題の認識と研究活動・方向性の社会共有化を目指した。[case04]桃山台（吹田市）は、形成されてきた公営住宅団地の屋外環境をストックとして生かす建て替えの提案で、行政計画のカウンタープランとして提案策定し、公表した。研究は当初計画を超える実践的な進展を見せ、2回目の外部評価を実施した。

○平成26年度（研究4年度）

研究4年度目は、男山団地で、だんだんテラスの運営を進めつつ、UR都市機構と協働して、現代的ニーズへの住戸改修の実施と公募、子育て支援施設の開設等（ダンチ de コソダテ in 男山団地）を実践し、一定の成果を得て、次年度以降に更なる試みが可能となった。それらの実践のための調査や検証は大学院生の修士論文となり、新たな試みを進めるための根拠となった。団地再編、地域

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

KSDP団地再編プロジェクト 当初計画		KSDP団地再編プロジェクト 実施活動	
空間・マネージメント・コミュニティ (建築家・研究者・PD・RA + 事業者・行政・住民)		空間・マネージメント・コミュニティ (建築家・研究者・PD・RA・学生(院生)・行政・事業者・住民)	
H23年	既存研究、海外等の事例調査・空間モデル作成	既存研究、海外等の事例調査・空間モデル作成	
	検討対象団地の選定	Webサイトの作成・団地再編レクチャ・団地再編リーフレット・団地再編叢書 検討対象団地の選定(調査・評価)	
H24年	再編指針案-1の作成 ① 団地 調査 再編提案 検証 修正 ② 団地 調査 再編提案 検証 修正	KSDPシンポジウム-01 再編がトライ案-1の作成 ① 男山 居住実験 環境調査 (八幡市・京都府と協働) [生活実態調査] 車・カーシェアリング調査 団地再編提案作成 展示会・講演会他で公表 検証(だんだんWS・カフェ) Petit DIY 改修実験 [男山地域再生基本計画草案]	② 浜甲子園4期
H25年	再編指針案-2の作成 ③ 団地 調査 再編提案 検証 修正 ④ 団地 調査 再編提案 検証 修正	KSDPシンポジウム-02 <外部評価> 男山団地再編提言 ↓ 再編がトライ案-2の作成 大阪府下駐車場附置義務調査 まちを元気にする人・仕組み調査 3公住宅事業者勉強会 関西NT現状と課題 研究発表会 <UR 建基法86条研究会> KSDPシンポジウム-03・PD <外部評価>	③ 南花台 調査 (河内長野市と協働) 団地再編提案Competition 一次審査
H26年	① 団地 修正提案 検証 ② 団地 修正提案 検証 ③ 団地 修正提案 検証 ④ 団地 修正提案 検証 再編指針案-3の作成	専門家養成セミナー開催 団地原論 団地再編 (再編がトライ案検討) パネルディスカッション 団地再編コンペ シンポジウム [公共住宅セミナー] 研究発表会 東京 KSDPシンポジウム-04 <外部評価>	④ 桃山台 公開審査 プロジェクト再編提案公表 作品集刊行 [SAC団地再生モデル事業検討] (SAC=スマートエイジング・シティ) (大阪府他多くの関係機関と協働) 南花台住民ワークショップ開始
H27年	開かれた団地再編デザイン 段階的に取り組む適正規模 導入される機能と配置 既存ストックの環境評価 公的支援の方向性 制度改革の方向性 プロセスプランニング コラボレーション・システム 団地再編技術ガイドラインの作成・出版 シンポジウム	<外部評価 最終年度> 住み続け、住み続け環境に再編 ミックスコミュニティに再編 居住者による改修支援 コミュニティ拠点の整備・運営 地域コーディネーター 公的支援 制度改革 プロセスプランニング コラボレーション・システム 団地再編技術ガイドラインの作成・出版 KSDPシンポジウム-05	ダンチdeコソダテin男山団地検証 ダンチdeコソダテin男山団地-02 多世帯向け住戸改修 居住者によるセルフリノベーション実験 外部色彩等環境改修整備実施 歩道橋住民参加型改修整備実施 1階住戸用途改修検討 緑道マルシェ バレットキオスク仮設実験 高年齢向け複合施設開設 <連携協定締結予定>
H28年	拠点形成 成果の社会化 実践 人材育成	拠点形成 コミュニティ拠点運営主体変更 研究実践活動継続 成果の社会化 実践 人材育成	<事業継続>

図1. 研究活動・プロセスの概要(シミュレーション研究から実践的研究活動への展開)

再生を大学と協働する効果と意味、可能性といった点でも関係者間で多くのことが共有でき、年度末開催のシンポジウムでは、八幡市長より連携成果についての報告を得た。プロジェクトの研究成

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

果を基に、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の行政、研究者等の参加を得て開催し、従前にはなかったテキストの発行（団地再編叢書 vol. 11）に繋げた。セミナー開催に併せて、団地再編パネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」を開催し、団地活性化・再生マネジメントに関する考察を深めた。[case03]南花台でも、「スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合検討」として、団地を中心とする地域の再生を狙った実践的研究活動を開始した。研究はさらなる進展を見せ、本年度までの外部評価を実施して、最終年度のとりまとめに備えた。

○平成 27 年度（最終年度）

成果報告書（団地再編技術指針）の取りまとめと併行し、八幡市男山団地と河内長野市南花台地域において、団地再編、地域再生への実践的研究活動、実践の取り組みを継続展開している。男山団地では、連携協定締結時（平成 25 年末）に基本構想を策定した「地域包括ケア（高齢者関連）複合施設」が 11 月にオープンし運営を始めた。また、現代的ニーズへの住戸改修プログラムの継続実施、在居住者（居付き住民）による原状回復義務の不要なセルフリノベーションシステムのモデル実験が実施され、制度の再編を検討した。住戸内外の鉄部のサビや塗装のはがれの解消に向け、住民参加型の環境再整備の実施に取りかかり、これらによって（一部ではあるが）外部環境の面からも、進行している団地再編が目に見えるカタチとなって具現化した。南花台地区では、前年度の検討を受け、事業実施に向けた取組み「スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合研究」を開始、住民コミュニティ拠点の整備を始め多くの取り組みを、本プロジェクトが総合コーディネータ役となり、関係者協働で同時多発的に開始した。研究は当初計画を超える実践的な展開を見せ、これまでの研究活動を総括した外部評価を 7 月に実施し、併せて、男山団地での研究活動に関する現時点での行政及び事業主からの評価をまとめた。

3. 研究成果の主な概要（自己評価）

（1）研究成果と活動内容・プロセスの広範な一般社会への公表

ストックを生かした団地再編(再生・更新)は、団地だけでなく、まちづくり上の大きな課題であり、研究の成果や活動の内容、そのプロセスは、研究者や専門家は言うに及ばず、広く住民や市民、行政職員、議員、次代を担う学生に、わかりやすい方法で公表し、社会ストック化を図ることに大きな意味がある。学術的論文という成果公表形式にとらわれず、広く大勢の団地住民や市民、関係する人たちが気軽に読めるような公表形式の開発と実施が、本研究課題の性質上ふさわしい。そのために、若手研究者や学生がその作業に取り組むことも、教育や人材育成上からも意味がある。そこで、研究活動内容の詳細、事例研究、提案の公表、研究発表会、シンポジウム、パネルディスカッション等を収録した「団地再編レクチュアシリーズ（映像版）^{*1}」（3月末時点で135編）、レクチュアやその他の研究成果、提案、提言などを一般の人々にもわかりやすく解説した「団地再編リーフレット（Re-DANCHI leaflet）^{*2}」（3月末時点で192編）を作成、関係者間で共有するとともに、本プロジェクトのwebサイト（<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/>）上で公開、ダウンロードを可能にした。また、リーフレットでまとめることが困難なボリュームのものについては、「団地再編叢書^{*3}」として刊行した。以上は、本研究期間終了後も関西大学地域再生センター団地再編研究スタジオ（仮称）のwebサイト上でいつでも視聴、ダウンロードできる。これらの公表成果は、今後、多くの団地でストックを活かした団地再編が進められると予想される中、わかりやすい参考解説書となっている。また、本プロジェクトの研究活動の総体を収めた報告書、「ストック活用型団地再編への展望【前編】【後編】」は、構想調書で考えていた団地再編技術指針でもあり、平成 28 年 1 月の最終シンポジウム開催にあわせて出版した。具体の研究内容成果と併せ、これらの公表成果は、外部評価委員の高い評価にもあるように、本プロジェクトの大きな成果の一つとして重要である。

（2）海外団地再編事例の調査分析^{*4}

初年度に英、仏、独、蘭、北欧といった欧州に加え、アジア、日本を含む 53 の団地再編事例の収集と分析（現地調査による検証）を行い、人口密度の少ない北欧を除く殆どのケースで、レジデンシャル・イン・パーク型（公園の中に住棟が配置される形状）だった団地構成が、コミュニティの領域性が認識しやすく、道路空間、いわゆる“まち”の空間の安全性や境界性を創出する沿道型（街区型）構成に再編されていること、ミックسدコミュニティの実現と多様性の表現をデザインの目標にしていること、住民が自ら参加して身近な生活空間を維持管理するデザインを実現していること、ストックを活用し新築部分と混在させて上記のデザインを実現していること等を明らかにした。また、当初からこのような形式でできている事例では現在まで持続的な環境が保たれていること、アジアの自主更新事例でも多様性や沿道性の表出が顕著で、住民の意欲的な発意がそこにあること等を明らかにした。（次年度に 15 事例を追加調査）再編事例の多くは、団地の持つ均質性と大規模性の解

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

消を目標に、小さなスケールの多様な建築を沿道に配置させるという手法で再編しており、それらを空間模型の比較で明らかに示した。

また、平成 26 年度に追加調査を行った、ストックホルムのラビ団地は、日本に多い並行配置で構成される団地で、[case-01] 男山団地再編提案や [case-02] 浜甲子園 4 期エリアの再編提案で提示している、木造等の簡素な小建築による増築と最小限の住棟改修によって、親しみあるスケール感と安心安全な街路空間、屋外空間に再編し、効果を上げていることを確認し、その手法と効果をレクチュア、リーフレットで報告した。さらに、[case-03] 南花台で提案している、屋外空間の専用庭化による豊かな郊外居住環境への再編提案も、ドイツの複数団地で、生活感あふれ愛着の持てる持続的な環境形成として成功している状況を確認し、同様に報告した。

団地再編の目標となる空間イメージを整理し、その成果を基に具体の団地で再編提案を行った研究事例はなく、実践した事例もなく、一連の研究成果、プロセスは、今後の我が国の団地再編を進めるうえで貴重な先進事例であり、社会貢献度の高い大きな成果である。

(3) 男山団地再編の実践的研究

① 男山団地再編提案

男山団地を再編提案対象団地として選定後、学生による継続的な居住実験、各種の調査、居住意識の聴取^{*5}等と並行して、男山団地の再編提案^{*6}を作成、広く一般公開した後、団地や地域住民、行政等関係者を対象にワークショップ等を数多く開催^{*7}して提案の趣旨を説明し、意見を聴取した。

提案は、団地を効率的に建設するためにつくられた「(建築基準法 86 条の規定による)一団地建築物設計制度」(一団の建築群をひとつの敷地の一つの建物と見なす制度)が個別の更新を難しくさせている現状を、ストックを活用した持続的環境への再編上の重要な課題と捉え、一団地の解体・再編を基軸とし、小さなコミュニティをつくりつつ住者参加のまちづくりをすすめること、広大な駐車場として周辺との連続性を断ち切っているフリンジ(境界部)の土地利用を見直し再編資金の確保とまちなみ景観の創出を図ろうという提案である。この提案は、団地再編を考える上で重要な 86 条一団地の問題を団地住民、市民、一般行政職員等に周知させることとなり、また、駐車場再編の方向性^{*8}やコミュニティの領域性の重要性を再考させるきっかけとなった。

今まで均質で周辺から隔離されていた団地の中に、多用途や戸建て住宅等の異種居住形式を持ち込む提案は、公表時点では、住民にもなかなか理解しにくい部分があったようだが、じっくり時間をかけて理解し、検討していきたいというのが住民の意見であり、むしろ、住民が今困っていることの解決を図りつつ、長期的な団地再編を考えていって欲しいというのが住民の声であった。

住民の不満は、(目的のはっきりした活動に使うようになっている集会所や公民館ではなく)気軽にいくことのできる場所が団地にはないということ、住戸内の設備や内装が老朽化していること(直してもらえない、または原状回復義務の制約で直せない)で、それが後の「だんだんテラス」の開設、「在居住者(居付き住民)による原状回復義務の不要なセルフリノベーションシステムの開発」へと展開した。提案は、団地再編における重要な要件を提示しており、学会誌や一般紙にも取り上げられて団地再生に取り組む関係者からの大きな関心を得、提案の内容自体が大きな成果となった。

② 86 条一団地検討会

一団地の制度で作られた団地は、多様な手法を混在させる住棟改修や住棟再編を難しくさせている。エレベーター設置棟への部分的改修や、多様な用途の導入に際しても、同様である。さらに男山の場合、500 戸程の大規模な団地型(分棟型)分譲住宅が 3 か所、賃分一体で一団地指定されており、分譲団地の再生に際しても一団地の解体、再編は避けて通れない課題である。UR 都市機構は、本プロジェクトの再編提案をきっかけに、「団地再生における建基法 86 条の取り扱いに関する検討会(平成 25 年度)」を開催することとし、本プロジェクトから 2 名が参加し、知見と研究成果を提供し、様々なケースのシミュレーション検討を行った。具体的場所での検討で、公表はされていないが、団地再編専門家養成セミナー テキスト団地再編^⑦で検討内容の概要を紹介している。その後、平成 26 年度には、国土交通省が、「住宅団地の再生のあり方に関する検討会」を開催することとなり、本検討会から 3 名が委員として出席し、86 条一団地の課題を含め、国に意見を提供した。

平成 25 年度に八幡市と協働で策定した「男山地域再生基本計画」(受託研究)でも、この団地型分譲団地の再生が地域まちづくり上の重要な課題であるとしており、平成 26 年度に、課題解決に向けた支援方策を探る「(団地型)分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討^{*9}委託(八幡市と協働)」(受託研究)を実施した。郊外の大規模団地型分譲住宅の再生は、容積を増やし余剰床の売却に頼る一括建て替え手法では成立しにくく、複数ケースの検討、および様々な手法を混在した提案を作成、実現のための方策を検討した。さらに京都府の支援も得て、賃分が一体となったエリア

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

の一団地の解消、生じる既存不適格の解決手法を検討、その実現方策、手順を明らかにした。さらに、再生検討の進め方として、一団地の解消（全員同意）から始める手法と、地域を含む協議検討の中で進めるという手法を提示し、そこに市の支援を提案した。賃貸部分の一団地の解消に際しても分譲部分の全員同意が必要なことを考えれば、当該住民内部だけでなく、地域、行政、UR 都市機構と協働で再生の課題に取り組む効果について双方が理解する必要があることを明らかにした（平成 27 年 11 月に住民説明会を開催予定）。併せて、本プロジェクトで実施した大阪府下全域にわたる駐車場附置義務調査の結果を参考に、将来を見据えた、現行条例の変更への考え方を提案提示した。

分譲住宅団地の再生は民間の問題とされ、公的な視点からの支援が難しい。賃分一体の一団地を社会的課題として捉え、地域まちづくりの視点からその再生の在り方を検討し、公的な支援の有り様を提案した事例はなく、本研究プロジェクトから派生した貴重な成果である。

③ 団地再編を進める検討協議プロセス

男山では、調査・提案策定に際し、八幡市のまちづくり推進部都市計画課と密接な小勉強会を毎月 2 回開催し、行政組織や地域の現状把握と課題の共有化を図った。勉強会には、市町村の課題解決を支援する京都府（自治振興課）「まちの仕事人」の参加を得て、府との連携協働に繋がった。

勉強会を進める中で問題になったのが、事業者の不在であった。行政や地域住民的には、UR 賃貸団地は他人の敷地であり、地域に占める大きさに比して、協働的課題検討を進めることができないというのが課題であった。そこで、八幡市と大学が本研究プロジェクトを題材として連携協定を結び、その後、事業者に参加を依頼するというシナリオを作った。その後、再編提案の公開展示などによって、事業者からも一定の理解と期待が得られたことから、研究 3 年目からは、この勉強会に事業者も参加することとなり、結果、年度内の市・大学・事業者間の連携協定^{*10}の締結（京都府立ち会い）【別紙 03 参照】が実現した。その後は実質、京都府も含めての四者連携協議会として開催し、協働体制の推進、UR 都市機構や八幡市との数々の協働実践研究活動の実施に展開した。

さらに、協定を機に、府市連携の男山健康福祉地域再生プロジェクトが立ち上がり、地域包括ケア複合施設の整備構想（受託研究）を進めることとなった。再編提案で示したように、団地内の駐車場用地に建設する計画として、翌平成 26 年 11 月に着工、平成 27 年 10 月に竣工した。同様に、男山地域安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクトも立ち上がり、八幡市社会福祉協議会を実施団体として、団地から地域を含む絆ネット構築支援事業が実施されることとなった。

連携協定では、(1)次世代を育むまちづくり (2)多世代が根を張るまちづくり（地域包括ケア）(3)地域に活力を呼び戻すまちづくり (4)住民が主役となるまちづくりを、連携して取り組む事項としており、協定締結後 2 年を経た段階で、各々具体的な成果が顕現していることは特筆に値する。

大学（本プロジェクト）が第 3 者的立場で実質的に参加するラウンドテーブルが、行政と事業者をつなげる形となり、協働して団地再編を考えていききっかけになって、様々な実践が実現し、行政内、事業者内に積極的に団地再編を考える機運を生み出し、その後、団地再編のプロセスとして、この連携と連携に基づく様々な実践が大きな評価を得ることとなった。特に、建築や都市を扱う専門的領域の大学、大学院生の参加が、高い評価を得ることになった。

男山での取り組みとその成果は、事業者 UR 都市機構内でも一定の評価を得ることとなり、良好なコミュニティの回復を狙いつつ進めなければならないストック活用型の大規模な団地再編に際して、大学と協働で取り組もうとする事例が生じてきており、見学やヒアリングも多い。また、団地再編に取り組む中で、行政内の横断的取り組みが潤滑に進むようになってきており、行政内の意識改革や意欲的な業務遂行につながっていることも評価されている。

平成 27 年 10 月開催の第 2 回連携協定年次報告会は、一般市民にも公開され、継続への期待も大きく、外部評価委員からも、4 者連携の取り組みの実現が最大の成果であると評価されている。

④ 「だんだんテラス」

365 日オープンを表明して開設した、住民が気楽にいくことのできるコミュニティ拠点「だんだんテラス」^{*11}は、大学院学生による交代常駐によって、一日も休むことなく運営してきた。

平成 25 年度関西大学修士論文「団地再編におけるコミュニティ拠点 開設の経緯と利用実態（辻村修太郎）」は、同様の趣旨で設けられた他拠点との違いを、365 日の運営と空間的に街に開くというオープンさを重視している点をあげ、既存の集会施設のように管理された空間は、その場所で展開される活動の連鎖を断ち切っているとして、住民がコミュニティ拠点に求めているものは日常的に利用できる気軽さであるとしている。さらに、「だんだんテラス」は、(1)コミュニティ拠点 (2)情報収集 (3)情報発信 (4)課題解決 の 4 つの役割を果たしているとして、団地や地域の情報を交換できる場の必要性和効果を指摘している。論文の著者は、テラスの開設から運営に携わり、大学院修了後も、「男山地域再生基本計画」で提示された地域コーディネーターとして継続して活動し、同年秋に京都府が新たな人材配置の仕組みとして開設した、地域在住の半官半民の京都府職員「公共員」に採用され、現在も、だんだんテラスを拠点に活動を継続している。

平成 26 年度関西大学修士論文「団地再編におけるコミュニティ拠点 1 年目の利用実態と存在意

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

義に関する実践的研究(松浦知子)は、365日運営のメンバーとして、「だんだんテラス」の実態を詳細に調査報告し、オープンな空間の効果を高く評価し、とすれば閉鎖的になる現在の団地環境において、多様性を許容することで、新しい出会いを促進させ、元気や意欲を生み出し、自分たちで何かしていこうという、“ゆるやかな連鎖”を生み出しているとその効果を締めくくっている。

平成26年春には、住民を交えた任意の運営団体「だんだんテラスの会」を設立し、補助金の獲得等、自主的な運営に向けての活動を開始した。会での議論を通して、団地に不足する若い世代の存在意味が大きいことを確認し、研究プロジェクト終了後も継続して大学、学生との連携を視野に入れていくことの必要性が住民との間で確認された。

地域野菜の朝市や毎朝のラジオ体操も、高齢者の外出の理由や新たな交際のきっかけになっており、飲料共に持ち込み方式に変更した「だんだんバー」も、人のために料理をつくる楽しみを生み出し、多世代間の親密な交流の場、きっかけとなっていることが確認できている。

だんだんテラスの会設立後の5月から、毎月「だんだん通信」を発行、団地の全戸6,000部に配布、住民も作成に協働している。配布は学生が手配りし、団地内に若者のいる風景を創出した。発刊1年後の平成27年6月からは、地域の要望に応じて男山地域の全11,000戸に配布している。

開設から1年後の年末に行われた「灯りの祭典」では、大勢の住民が「だんだんテラス」のある中央商店街に集まり、久しくなかった光景が展開され、今後につながる期待感を抱かせた。加えて、地域内にも自由に集える場が必要であると、団地の内外の住民で地域を考える「男山やってみよう会議」が設置され、公募で集まったメンバーが、先の「公共員」と協働し、活動を開始している。

だんだんテラスは、団地再編の第一歩として、「自由に集える場所づくりから」を実践し、団地住民や関係者の協働の象徴となっており、その空間の有り様と併せて大きな成果を示している。

⑤ 「ダンチ de コソダテ in 男山団地」

持続的な環境形成には、多世代のバランス良い居住が重要で、団地内に居住中の高齢者の環境再整備と同時に、子育て世代や若年世代といった世帯向けの団地再編が重要な課題である。そういった視点から、団地の豊かな自然環境を活かした「ダンチ de コソダテ in 男山団地」実践プロジェクト^{*12}に取り組んだ。現在の子育て環境はストレスが多いという報告から、設備環境に頼らない、開放的で気持ちの良い住居空間を実現することを目標に定め、改修後の住戸を公開、入居者を公募し、現在新たな住民が居住している。階段室の5階住戸にも多くの応募があったように、従前の住戸プランが、場所特性とライフスタイルを考慮したプランに改修整備されることで、新たなニーズに応えることが検証でき、階段室型の上層階の活用にも期待感を抱かせる結果となった。平成27年度には追跡調査を実施し、検証作業を進めつつ、新たなニーズを開拓する新規企画の開発と、発生した空き家を現代の暮らしにあった住戸に低コストで改修する手法の検討も行っており、具体的な実践成果として大きく評価されている。

⑥ 在居住者(居付き住戸)DIY住戸改修システム検討

居住中の住戸、居付き住戸の原状回復義務の不要な(住民の自費による)セルフリノベーションシステムの構築は、住み続けることのできる良好な住環境の再構築、団地再編に向けては不可欠の、重要な課題である。現在、UR都市機構、本プロジェクト、だんだんテラス、学生、住民、京都府建築士会の建築士が協働で取り組みを開始しており、平成27年度にはモデル実験が実施され、各者をつなげるシステムの構築ができつつある。ここでも提案や実践における第三者専門家としての大学(専門家を含むプロジェクトチーム)の役割が大きい。

⑦ 男山地域再生基本計画^{*13}の策定

団地の再編は、周辺を含んだ地域の再生と一体的に考えなければならない。意を同じくする八幡市から、「男山地域再生基本計画策定(支援)」業務が受託研究として発注された。本策定事業は、ふるさと財団(一般財団法人地域総合整備財団)のまちなか再生支援事業(大学連携型)に採択され、結果報告会では、プロデューサーとしての大学、専門家の役割が評価された。

地域再生基本計画で提案したプロセスプランニングは実践活動に根差したもので、団地再編のプロセス検討そのものでもある。2014年の4月に公表され、本プロジェクトと一体となって実践に移されている。基本計画で謳われた、「地域コーディネーターの配置」は、本研究プロジェクトで実験的に開始し、補正予算で市の事業となり、同年秋には京都府が日本で初めて設置した半官半民の府職員制度、“公共員”としての採用に繋がった。小さなアプローチから始める玉突きアプローチ方式も、本プロジェクトのみならず、多くの市民、住民の賛同を得て様々な活動に展開している。事業計画ではなく、目標とアプローチ手法を記載した「男山地域再生基本計画」は、従来にないもので、議会でも議論を呼んだが、団地再編、地域再生への新しいガイドとして、市民、住民に共有されつつあり、本研究プロジェクトの大きな成果といえる。

(4) 団地再編専門家養成セミナーを通じた「団地活性化・再生マネジメント」手法の整理^{*14}

研究成果を基に、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の若手行政職員、若手研究者等の参加

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

を得て開催し、団地再編に寄与する多くの視点を整理したテキストの発行（団地再編叢書 vol. 11）に繋げた。テキストは、団地原論シリーズ、団地再編シリーズそれぞれ 8 編の講義で構成した。原論シリーズでは、団地の誕生からその日本での展開という歴史的な教材を前半において、その後には 3 公住宅（公営、公社、UR 都市機構）に関する教材を配した。このような講義は大学でも扱っておらず、貴重な教材が作成できた。団地再編シリーズは、コミュニティや生き方論というソフトな内容と、空間や施設再編のハードの内容を組み合わせ、コミュニティ・デザインに関する関心が高まっているなかで、意義のある教材が作成できた。

(5) 団地活性化・再生マネジメントの取り組み事例調査とパネルディスカッションを通じた「団地活性化・再生マネジメント」の考察の深化*¹⁵

「関西の三主要ニュータウン<千里NT、泉北NT、明舞団地>の課題と再生・再編の取り組み」を取りまとめたことは関西における情報収集・整理として評価できる。団地再編専門家養成セミナーに併せて開催したパネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」は、セミナーの原論シリーズの内容を深化させることを狙ったものであり、パネリストの発言を通じて、日本の団地の形態的・空間的な特性ならびに社会的な特徴を描き出すことができた。これを認識することが将来の団地再編・再生を考えるにあたって不可欠と考える。「提案その 1：公共住宅のストック政策の確立」、「提案その 2：団地をまちにする」については、プロジェクトの再編提案や団地再編コンペの提案とも共通しており、実践のプロセスが今後の課題であることが再認識された。これらの成果は、「団地再編叢書 vol. 12」としてまとめている。

(6) 団地コミュニティの再編

研究期間中を通じて団地コミュニティを観察し続けてきたグループからの分析は、本プロジェクトの研究活動の総体を収めた最終報告書（平成 28 年 1 月出版）に収められる。

主な内容は、(1)ファミリー世帯のコミュニティから個人のコミュニティへの転換（従前、収入による住み分けが行われていた団地の現状は、リタイア層も含めきわめて多様な現状にあり、一人暮らしも多い。人と人の接点が少なくなってしまうしており、団地コミュニティは、世帯単位ではなく、個人単位で考える必要がある）、(2)出会わない空間づくりから出会う空間づくりへの転換（当初の団地設計が狙っていた居住者と現在の居住者像が異なってしまったことから、地域コミュニティが希薄なものとなった。ベトナムや中国の事例から学び、団地空間のグラデーションづくりを進めることが求められる）、(3)全員参加のコミュニティから、個人から始まるコミュニティへの転換（地域コミュニティという言葉の意味も大きく転換している。今は自治会の加入率が地域コミュニティを測る尺度ではない。団地再編の目的は居住者が元気に幸せに暮らすことにあり、そのためには、自分がやりたいことを出来ること、その場があることが重要である。人のつながりは、その次の段階に見えてくる。個人から始まるコミュニティを考えるために、まずは個人が活躍できる場をつくる必要がある）、(4)プロジェクトによる地域コミュニティ再編から、どこでも地域コミュニティ再編への転換（男山における学生の研究活動参加への評価は高いとはいえ、学生たちも実は男山団地に関わることで自分たちの「やりたいことが出来る場所」を手に入れることができた。行政職員も、「自分たちのやったことの成果を、ここだと直に感じる事が出来る」と言う。地域コミュニティの再編は、一人一人が「幸せになること」を示している。本プロジェクトは、日本の団地再編コミュニティに対し、コミュニティ・デザインに取り組む考え方を示すことが出来た）等であり、団地と対峙する研究活動の継続の中からの研究成果は貴重である。

(7) 団地再編ガイドライン*¹⁶

シミュレーション研究から、実践の取り組みを通じた研究活動に発展・展開していく中で、最終成果としてのガイドラインのあり様に対する考え方も変化してきた。実践を通して行ってきた研究活動のプロセス、実践するためのラウンドテーブルの構築やコラボレーションの仕組み、そういった経緯から生まれた研究と実践活動、現在も継続中のものと今後さらに継続展開していくもの、そういった研究活動の総体が、ひとつの団地再編の技術ガイドラインであるとする考えである。

計画初年度を終え作成した「ガイドライン ver. 1（団地再編リーフレット vol. 121）」では、持続的な集住環境への再整備に際して目標とすべき要件をまとめた。その後、男山団地での提案と実践活動の中で、「UR 男山団地再編（再生・更新）にあたっての提言—再編提案とその検証から—（団地再編リーフレット vol. 122）」を公表し、それをベースにして、団地再編のプロセスを中心とした「ガイドライン ver. 2（団地再編リーフレット vol. 123）」を作成公表検討した。男山団地での実践的研究活動では、この再編提言を実施した部分が多い。ストック活用型の団地再編の場合、居住中の住民の方々のコミュニティの再編や生活意欲の再活性化のための環境再整備を目指した仕組みの再編、持続的環境への仕

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

組みの再編といった側面が重要で、将来像を提示するとともに、そういったことに取り組み、実現させるプロセスデザインが重要だということの確認が重要な成果であった。

団地再編に向けては、具体的に行われた活動プロセス事例を辿り、参照確認しつつ、それぞれの団地再編に向けて、協働のラウンドテーブルを設置し、戦略を考えることが必要であるというのが結論である。男山に引き続いて実践活動を始めた河内長野市の場合でも、同様に活動を展開している。(団地再編専門家養成セミナー・テキスト団地再編⑧ 団地再編のプロセスとガイドライン)

研究活動の総体を収めた著作、「ストック活用型団地再編への展望—関西大学団地再編プロジェクトの研究活動(平成23年～27年)—」(平成28年1月出版)は、前編として“KSDP 団地再編プロジェクト [研究活動・プロセスの概要、団地再編に関する研究成果、国内外の団地再編の動向と団地再編を巡る討論、団地再編手法の検討と実践+団地再編リーフレット(DVD-ROM版)]”、後編として“団地再編専門家養成セミナー・テキスト[団地原論①～⑧、団地再編①～⑧]”で構成される

<優れた成果が上がった点>

特筆すべきは、(1)シミュレーション研究から実践的研究に展開し、行政・事業者との連携の下で、男山団地での実践を通じて団地再編への取り組みが展開していること、(2)そのプロセスプランニングの手法が具体的な効果を上げていること、(3)男山地域再生基本計画の策定等地域再生方策への展開と団地再編への相互作用の展開が図られていること、(4)他の団地での具体的な実践展開にも発展していること、(5)研究活動の総体を団地再編技術指針として出版したことである。

<課題となった点>

外部評価の指摘にある「今後、研究基盤を継続性のあるものとするためには、中堅の研究者の育成が不可欠である」に関して、次年度以降も研究拠点と活動を継続するなかで育成していきたい。

<自己評価の実施結果と対応状況>

各年度末に成果をとりまとめ、『技苑』(Innovative Technology World)に発表しており、その際に併せてプロジェクト内で「自己(内部)評価会議」をそれぞれ実施した。また、平成24年9月と平成26年9月には、学内の外部資金審査・評価部会委員による最終審査を受け、本学が拠点となり様々な組織を巻き込んだ幅広い実践的な活動が着実に進められているとの高評価を得た。【別紙05参照】

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

2年度目から毎年、研究成果と進捗状況に関する「外部評価」をこの分野に詳しい専門家委員3名に委嘱して実施し、意見聴取を図り、研究の進展とともに、適切に軌道修正を行った。3名の外部評価委員は、学術的かつ科学的委員、社会的な実践領域に詳しい元行政委員、同じく元公的事業主体委員であり、建築学分野、特に住環境分野は、科学的側面と社会的側面を併せ持つ分野であることから、科学的のみならず、社会的な連携に関する研究と外部評価に留意した。

平成27年7月には研究活動を総括する最終外部評価を実施した。評価結果は、全員が4(=期待以上の成果)であった【別紙06参照】。評価の予算配分への反映に関しては、代表者が統括し、部会主査と協議の上、適切な予算配分修正を行っている。特に、実践的な展開に進展したことを受け、関連の受託研究費(9件)等も活用してプロジェクトの適切な費用効果に留意している。

<研究期間終了後の展望>

受託研究等により、男山団地、南花台地区での団地再編実践的研究活動の継続が予定されており、研究拠点は、関西大学地域再生センター団地再編研究スタジオ(仮称)として継続予定である。

<研究成果の副次的効果>

- (1)八幡市・UR都市機構・関西大学間(京都府立会い)の三者連携協定の締結【別紙03参照】
- (2)UR都市機構における「団地再生における建基法86条の取り扱いに関する検討会」(平成25年度)の開催【別紙07参照】
- (3)「男山地域再生基本計画策定」、「(団地型)分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討委託」等、八幡市、河内長野市からの9件の受託研究【別紙02参照】
- (4)男山団地、南花台地区(連携協定を予定)における団地再編の実践活動の継続である。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 団地再編 (2) ストック活用 (3) 制度再編
 (4) 団地マネジメント (5) コミュニティ単位(領域) (6) 居住者参加
 (7) タウンスケープ (8) 建築基準法 86 条(一団地認定)

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

- *8 A-1 保持尚志, 片岡由香, 倉知徹, 江川直樹, 公的賃貸集合住宅団地の再生における駐車場設置指導の課題, 日本建築学会計画系論文集, 81(721), 687-693 (2016). 【査読有】
- *8 A-2 保持尚志, 片岡由香, 倉知徹, 江川直樹, 公的賃貸住宅団地におけるカーシェアリング導入による駐車場用地の転用, 日本建築学会計画系論文集, 80(718), 2861-2867 (2015). 【査読有】
- A-3 金海梨, 高田光雄, 韓屋におけるチェとマダンのつながりに対応した住生活の特徴に関する一考察:韓国現代文学作品『庭の深い家』を対象として, 日本建築学会計画系論文集 80(718), 2763-2770 (2015). 【査読有】
- A-4 宮野順子, 高田光雄, 株式会社方式によるコレクティブハウジングの運営実態:一居住者会議の項目分析を通して-, 日本建築学会計画系論文集 80(717), 2635-2644 (2015). 【査読有】
- A-5 土井脩史, 高田光雄, 可変インフィルのガイドとなる固定インフィルの設計手法に関する研究:一実験集合住宅 NEXT21 の住戸改修実験における試設計を通じて-, 日本建築学会計画系論文集 80(716), 2175-2181 (2015). 【査読有】
- A-6 前田昌弘, 石川直人, 伊藤俊介, 阪田弘一, 高田光雄, 仮設住宅居住者への"間接的支援"の成立要因と課題:- 東日本大震災における仮設住宅の住環境改善支援に関する実践的研究 -, 日本建築学会計画系論文集 80(715), 1991-1999 (2015). 【査読有】
- A-7 前田昌弘, 高田光雄, 森重幸子, 西野克裕, 京都市都心部における地蔵盆の運営実態と参加者の多様性 -レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究-, 日本建築学会計画系論文集 80(714), 1833-1842 (2015). 【査読有】
- A-8 小玉祐一郎, 伝統建築に学ぶ夏の工夫:パッシブクーリングと現代の住まい (特集 涼しさのかたち), 日事連:建築士事務所の全国ネットワーク:JAAF monthly magazine, 53(7), 4-7 (2015). 【査読無】
- A-9 平山洋介, TASC サロン 空き家対策のあり方について, TASC monthly, (478), 6-12 (2015). 【査読無】
- A-10 平山洋介, マイホームと個人/家族化 (特集 持家社会のリスク:空間の生活保障を展望する), 生活経済政策, (224), 8-12 (2015). 【査読無】
- A-11 平山洋介, 超高齢社会の住宅条件とその階層化 (特集 活力ある超高齢社会を共創するプランニング), 都市計画, (4), 40-45 (2015). 【査読無】
- A-12 平山洋介, 住宅政策と個人/家族化(第1部 制度と建築, <特集>住まうことから制度を考える), 建築雑誌, 130(1674), 8-9 (2015). 【査読無】
- A-13 糟谷佐紀, フォーラム 2015 障害者は住まいを選択できているか, ノーマライゼーション:障害者の福祉, 35(10), 39-41, (2015). 【査読無】
- A-14 糟谷佐紀, 列島縦断ネットワーク 大阪「住まい」について、住む人と創る人が一緒に考える!: 合同シンポジウム「一緒にやろうや!『住』」の報告から, ノーマライゼーション:障害者の福祉, 35(7), 50-52 (2015). 【査読無】
- A-15 室崎千重, 長期経過した分譲集合住宅における住み続けられるコミュニティづくり (特集 縮退社会におけるマンションのあり方, コト・ハイツ伏見稲荷の取り組み), 建築とまちづくり (442), 24-28 (2015). 【査読無】
- A-16 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 京都市都心部の幹線道路沿いの細街路と高層建築物の関係, 日本建築学会計画系論文集, 80(713), 1605-1613 (2015). 【査読有】
- A-17 増岡亮, 末包伸吾, クレイグ・エルウッドの住宅建築における空間構成材とモジュール, 日本建築学会計画系論文集, 80(713), 1681-1688 (2015). 【査読有】
- A-18 平山洋介, 社会福祉 若者の住宅問題:増大する親同居, 自立阻む住居費負担, 月刊福祉 98(8), 50-53 (2015). 【査読無】
- A-19 趙賢株, 高田光雄, 既存住宅流通に伴うリフォーム実態とリフォームを前提とした既存住宅購入者の特徴, 日本建築学会計画系論文集 80(712), 1381-1390 (2015). 【査読有】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

A-20	平山洋介, 急増する空き家と政策対応(特集 高齢者の住まい), 月刊福祉, 98(5), 38-41 (2015).【査読無】
A-21	平山洋介, 住宅資産所有の不平等, 世界, (869), 206-217 (2015).【査読無】
A-22	江川直樹, 集まって住むカタチのこれから—集住環境の再編まちづくり—, マンション学, (51), 32-37 (2015).【査読無】
A-23	平山洋介, 次世代を支える住宅政策を(都市自治体の土地に関する政策・施策), 都市とガバナンス, (23), 55-63 (2015).【査読無】
A-24	高田光雄, 木全吉彦, 加茂みどり, 鼎談 人と住まいとの関わりを考える(特集 居ごちのよい住まい), CEL : Culture, energy and life, 109, 1-7 (2015).【査読無】
A-25	山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 高齢者向け住宅への住み替えにおける物品の希望持参量に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 80(709), 475-483 (2015).【査読有】
A-26	小玉祐一郎, 総評(特集「第6回サステナブル住宅賞」受賞作品紹介), IBEC, 36(1), 6-13 (2015).【査読無】
A-27	平山洋介, 若者で増加する親との同居 異様に重い住居費負担, エコノミスト, 93(6), 76-77 (2015).【査読無】
A-28	山脇博紀, 高田光雄, ポスチュアから見た重度障がい児の行動特性:医療型障害児入所施設における重度障がい児のポスチュアと施設空間要素に関する考察(その2), 日本建築学会計画系論文集, 80(707), 43-52 (2015).【査読有】
A-29	平山洋介, 阪神・淡路から東北へ:住まいを再生する(特集 阪神淡路大震災20年:災害への備えがどう変わったか), 都市住宅学=Urban housing sciences, (88), 9-13 (2015).
A-30	増岡亮, 末包伸吾, クレイグ・エルウッドの住宅建築の開放性にみる空間構成の類型とその移行, 日本建築学会計画系論文集, 79(706), 2775-2785 (2014).【査読有】
A-31	平山洋介, 住宅扶助と最低居住面積水準(特集 住宅扶助基準引き下げの問題点), 賃金と社会保障, (1621), 4-13 (2014).【査読無】
A-32	小浦久子, 小林正美, 地域計画の空間的まとまりと計画主体についての考察:ノルトライン・ヴェストファーレン州ルール地域の地域主体と計画ガバナンスにみる論点, 都市計画論文集, 49(3), 951-956 (2014).【査読無】
A-33	岡絵理子, 大阪市都心6区における超高層集合住宅の立地動向とその実態に関する研究(公益社団法人都市住宅学会:第22回学術講演会—研究発表論文集(学術委員会の審査に合格した論文)), 都市住宅学, (87), 86-91 (2014).【査読有】
A-34	平山洋介, 高齢社会の都市住宅政策(特集 超高齢社会:大都市の高齢者支援の課題), 公衆衛生, 78(9), 617-621 (2014).【査読無】
A-35	平山洋介, 持ち家社会と住宅政策(<特集>居住保障と社会政策), 社会政策, 6(1), 11-23, (2014).【査読無】
A-36	大坪明, ニューヨークの住宅団地とル・コルビュジエとの関係に関する考察, 武庫川女子大学紀要 生活環境学研究, (2), 2-11 (2014).【査読無】
A-37	岡絵理子, 祭りの舞台となる町並み・住まいに関する研究:—橿原市八木地区の愛宕祭を事例に—, 日本建築学会計画系論文集, 79(703), 1955-1961(2014).【査読有】
A-38	江川直樹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望(2)~文科省戦略基盤団地再編プロジェクト 八幡市男山団地での実践活動から~, 都市住宅学会, 58-59 (2014).【査読無】
A-39	高田光雄, 環境調整空間」というエンヴェロープ:「平成の京町家 東山八坂通」の試み(<特集>ビルディング・エンヴェロープ), 建築雑誌, 129(1660), 18-19 (2014).【査読無】
A-40	平山洋介, 住宅政策とジェンダー(特集 女性の貧困と住まい), 住宅会議, (91), 4-9 (2014)..
A-41	小浦久子, 景観法の実績と検証 景観法が示すプランニングの可能性(特集 景観法 10年), 都市計画, 63(3), 10-15 (2014).【査読無】
A-42	A. Krstikj, 小浦久子, スコピエ・オールド・バザールにおける街区パターン:街区の発展, 類型および変容に関する分析, 日本建築学会計画系論文集, 79(700), 1337-1343 (2014).【査読有】
A-43	趙賢株, 高田光雄, 既存住宅購入者の住情報入手行動と入手住情報及び利用情報源に対する評価:大阪府の既存住宅購入者を対象にした調査結果を通じて, 日本建築学会計画系論文集, 79(700), 1391-1399 (2014).【査読有】
A-44	藤本昌也, 住まい・まちづくり新時代:「共助」を理念とした「全員参加・協働型」の「まち再生手法」を探る, 住宅土地経済, (94), 2-7 (2014).【査読無】
A-45	山脇 博紀, 高田光雄, 医療型障害児入所施設における重度障がい児のポスチュアと施設空間要素に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 79(698), 891-900 (2014).【査読有】.
A-46	平山洋介, 復興公営住宅の役割と課題(特集 復興住宅とコミュニティ), まちづくり, (42), 22-26 (2014).【査読無】
A-47	江川直樹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望(2)~文科省戦略基盤団地再編プロジェクト八幡市男山団地での実践活動他から~, 都市住宅学, 86, 58-59 (2014).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

【査読無】

- A-48 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 33)パッシブ デザイン(最終回)パッシブデザインの展望, 省エネルギー, 66(4), 71-73 (2014). 【査読無】
- A-49 趙賢株, 高田光雄, 大島祥子, 住み継ぐという住まい方の実現に向けた住情報支援に関する研究, 住総研研究論文集, (41), 157-168 (2014).
- A-50 高田光雄, 石坂公一, 島田明夫, 第21回学術講演会報告 メインシンポジウム「東日本大震災復興住政策の課題と提言」, 都市住宅学, (84), 51-64 (2014). 【査読無】
- A-51 山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 高齢者向け住宅への入居経緯と入居前後における生活の変化に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 79(695), 11-20 (2014). 【査読有】
- A-52 大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの建設と再生に関する研究, 武庫川女子大学紀要 自然科学編, 61, 1-10 (2014). 【査読無】
- A-53 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 32)パッシブデザイン(第 5 回)環境と共生する, 省エネルギー, 66(3), 84-86 (2014). 【査読無】
- A-54 竹中優子, 朴木佳緒留, 岡田修一, 井上真理, 稲垣成哲, 川畑徹朗, 加藤佳子, 近藤徳彦, 城仁士, 長ヶ原誠, 平山洋介, 増本康平, 松岡広路, 森岡正芳, 独居高齢者の実態と生活満足度に関する調査研究, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 7(2), 139-147 (2014). 【査読無】
- A-55 平山洋介, 脱成長都市の住宅政策 (特集 見えてきた!?縮退時代のまちづくり), 地域開発, 594, 33-37 (2014). 【査読無】
- A-56 平山洋介, 住まいの再生をめざして(特集 震災・原発事故 3 年) , 科学, 84(3), 304-308, (2014). 【査読無】
- A-57 平山洋介, 脱成長社会の住宅政策について(特集 現代日本の住宅問題), 生活協同組合研究, (457), 5-12 (2014). 【査読無】
- A-58 平山洋介, 被災者実態をふまえた住宅復興を(特集 東日本大震災と原発事故(シリーズ 14)復興/レジリエンス/コモンズ), 環境と公害, 44(2), 17-23 (2014). 【査読無】
- A-59 平山洋介, 脱成長都市の住まいとライフコース(都市圏居住の未来を探る(3)小家族都市を考える), ハイライフ研究, (16), 4-12 (2014). 【査読無】
- A-60 平山洋介, 空き家と住宅政策 (特集 都市内の空き家問題を考える), Evaluation, (52), 21-27 (2014). 【査読無】
- A-61 小浦久子, 景観計画の計画制度としての可能性 (特集 景観まちづくりの現状と課題), 新都市, 68(2), 3-6 (2014). 【査読無】
- A-62 糟谷佐紀, 仮設住宅居住者のおかれている状況:東日本大震災から 3 度目の冬を迎えて(特集 現代日本の住宅問題), 生活協同組合研究, (457), 55-57 (2014). 【査読無】
- A-63 平山洋介, 間野博, 糟谷佐紀, 東日本大震災後の住宅確保に関する被災者の実態・意向変化:岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に対する「2011 年夏」と「2012 年夏」のアンケート調査から, 日本建築学会計画系論文集, 79(696), 461-467 (2014). 【査読有】
- A-64 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 31)パッシブデザイン(第 4 回)パッシブクーリング, 省エネルギー, 66(2), 90-92 (2014). 【査読無】
- A-65 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 30)パッシブ デザイン(第 3 回)熱を蓄える, 省エネルギー, 66(1), 66-68 (2014). 【査読無】
- A-66 橋寺知子, 再読 関西近代建築:モダンエイジの建築遺産(58)倉敷アイビースクエア, 建築と社会 95(1102), 27-30 (2014). 【査読無】
- A-67 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 29)パッシブ デザイン(第 2 回)パッシブ暖房の原理, 省エネルギー, 65(12), 64-66 (2013). 【査読無】
- A-68 江川直樹, 制度の再編, TDA景観文化, 21(2013 冬), 4 (2013). 【査読無】
- A-69 古賀俊策, 相良二郎, 見寺貞子, 小玉祐一郎, かわいひろゆき, 谷口文保, 金野千恵, 技術の人間化に基づいたサステナブルデザイン, 芸術工学, 2013 (2013).
- A-70 平山洋介, 土地・持家被災から住まいを再生する (特集 進まぬ復興 交錯する思い), 月刊自治研, 55(650), 25-33 (2013). 【査読無】
- A-71 福本優, 岡絵理子, 地域環境としての市街地立地集合住宅団地の更新手法に関する研究:大阪市内の UR 都市機構団地の更新事例, 都市計画論文集 (48), 957-962 (2013). 【査読有】
- A-72 平山洋介, 息づく伝統と高速変化(特集を読んで[2013 年 8 月号 特集:アジア・ハウジング・ナウ]), 建築雑誌, 128(1650), 46 (2013). 【査読無】
- A-73 鳴海邦碩, 伝統的な祭りの現代的な意義について:都市化の過程にてらして(特集 祭りとコミュニティ), 都市問題, 104(9), 4-9 (2013). 【査読無】
- A-74 江川直樹, 専用庭, TDA景観文化, 22(2013 秋), 4 (2013). 【査読無】
- A-75 平山洋介, マイホームがリスクになるとき:ポストバブルの住宅政策, 世界, (846), 186-195 (2013). 【査読無】
- A-76 江川直樹, 倉知徹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望, ランドスケー

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	デザイン, (90), 114-115 (2013). 【査読無】
A-77	大坪明, 長谷川洋, 折田泰宏, ワークショップ関西支部 汎用性を考えた、建替えない団地再生:富田第二住宅の場合(第 20 回学術講演会報告), 都市住宅学, (80), 40-45 (2013). 【査読無】
A-78	江川直樹, 86 条一団地, TDA景観文化, 21(2013 夏), 4 (2013). 【査読無】
A-79	江川直樹, 特集・公営住宅のジレンマ, 日経グローバル, (2013)【査読無】
A-80	小玉祐一郎, 3.11 以後と地球環境問題(地球環境委員会活動報告 第 2 部 常置調査研究委員会・支援建築会議・特別委員会・各支部等のレポート, 建築年報 2013), 建築雑誌, 128(1649), 47 (2013). 【査読無】
A-81	藤本昌也, つくば市中根・金田台地区まちづくり 緑地、農地に挟まれた 100 坪の住宅地 世界に誇れる新田園都市をつくる! (特集 農地ある都市デザインをつくれ), 建築ジャーナル, (1216), 6-9 (2013). 【査読無】
A-82	末包伸吾, 論考の主題にみるルドルフ・シンドラーの「空間建築」, 日本建築学会計画系論文集 78(684), 509-517 (2013). 【査読有】
A-83	三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子, タウンハウス団地の住み手の改変行為による景観変容と居住者意識に関する研究:一神戸市のタウンハウス団地における改変実態の分析を通して-, 日本建築学会計画系論文集, 78(683), 133-140 (2013). 【査読有】
A-84	福井美弥, 阿部浩和, 橋寺知子, 産業遺産施設の保存活用の現状と事業主体の役割:大阪・兵庫の繊維系産業遺産施設 8 事例を対象として, 日本建築学会計画系論文集, 78(687), 1067-1076 (2013). 【査読有】
A-85	A. Kristikj, 小浦久子, スコピエ・オールドバザールにおける歴史的場所の意義:オスマン帝国の都市戦略にもとづく公共施設配置と主要道路の分析より, 日本建築学会計画系論文集, 78(686), 829-835 (2013). 【査読有】
A-86	大坪明, マルガレーテンヘーエ団地の都市景観の特質に関する調査研究, 武庫川女子大学紀要 自然科学編, 60, 1-9 (2013). 【査読無】
A-87	鳴海邦碩, 「ふるさと」の根底が問われている(特集を読んで[2013 年 1 月号 特集:福島と建築学]), 建築雑誌, 128(1642), 52 (2013). 【査読無】
A-88	小泉和子, 小玉祐一郎, 高田光雄, 第 24 回住生活月間協賛 まちなみシンポジウム in 大阪 低炭素社会に活かす伝統的な日本の暮らし パネルディスカッション エネルギーを使わない豊かな暮らしとは, 家とまちなみ, 32(1), 92-99 (2013). 【査読無】
A-89	小玉祐一郎, 大月敏雄, 小泉和子, パネルディスカッション 本当に豊かな暮らしとは(第 24 回住生活月間協賛 まちなみシンポジウム in 東京 伝統的な日本の暮らしに学ぶ), 家とまちなみ, 32(1), 84-91 (2013). 【査読無】
A-90	江川直樹, 親街路性, TDA景観文化, 20(2013 春), 4 (2013). 【査読無】
A-91	室崎千重, 暮らしやすい住まい・まちづくりに関するこれまでの研究, 家政学研究, 59(2), 42-47 (2013). 【査読無】
A-92	平山洋介, 平成 24 年度第 1 回まちづくりセミナー 都市住宅政策の再構築に向けて(名古屋都市センター事業報告), アーバン・アドバンス, (60), 47-53 (2013). 【査読無】
A-93	平山洋介, 佐藤岩夫, 東日本大震災における岩手県釜石市の被災者に関する生活実態・意識調査の結果概要, 中央調査報, (664), 5843-5849 (2013). 【査読無】
A-94	小浦久子, 地域環境価値の評価を創出する開発調整のための基準とその運用 (まちづくりにおける都市計画, 建築規制の権限行使のあり方:規制権者の裁量拡大論と規制基準明記論), 日本不動産学会誌, 27(3), 44-48 (2013). 【査読無】
A-95	小浦久子, 景観と土地利用の相互性にもとづく景観計画の開発管理型運用の可能性, 都市計画論文集, (48), 585-590 (2013). 【査読無】
A-96	江川直樹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望 86 条一団地の解体から, 月刊ウエンディ, 2 月号(285), 9 (2013). 【査読無】
A-97	岡絵理子, 男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」から, 第 17 回関西大学先端科学技術シンポジウム講演集, 180-183 (2013). 【査読無】
A-98	江川直樹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望～ストックを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し、多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する修復型団地再編の提案 ver.1(2012), 都市住宅学, (80), 25-26 (2013). 【査読無】
A-99	鳴海邦碩, 人間のための道路づくり:道路関連法の見直しの必要性(特集 義務付け・枠付けの見直しと自治体条例), 都市問題, 103(12), 58-67 (2012). 【査読無】
A-100	鳴海邦碩, 阪神・淡路大震災との相違点と類似点, 都市計画, 61(5), 92 (2012). 【査読無】
A-101	鳴海邦碩, 東日本大震災からの復興, 1 年半を経過して, 都市計画, 61(5), 4-5 (2012). 【査読無】
A-102	江川直樹, 小さく解く 混ぜて解く, 日経グローバル, 210, 9-19 (2012).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

A-103	平山洋介, 公営住宅と地方分権 (特集 義務付け・枠付けの見直しと自治体条例), 都市問題, 103(12), 49-57 (2012). 【査読無】
A-104	平山洋介, 科学 ストック利用のための住宅政策を, 青淵, (765), 14-16 (2012). 【査読無】
A-105	江川直樹, 倉知徹, ストックを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し、多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する団地再編プロジェクト, 建築人, 11月号, 4-5 (2012). 【査読無】
A-106	古賀俊策, 相良二郎, 小玉祐一郎, かわいひろゆき, 見寺貞子, 志茂浩和, 谷口文保, 金野千恵, 技術の人間化に基づいたサステナブルデザイン, 神戸芸術工科大学紀要「芸術工学」, 2012 (2012). 【査読無】
A-107	糟谷佐紀, 人とつながるまちづくり(リレーエッセイ 福祉のまちづくり考 12), 福祉のまちづくり研究, 14(3), 45-47 (2012). 【査読無】
A-108	平山洋介, 東京ライフスケープ(第1部「東京」をかたちづけてきた力, <特集>トキヨー・アーバニズム-駆動力, リスク, ライフスケープ), 建築雑誌, 127(1638), 20-23 (2012). 【査読無】
A-109	橋寺知子, 再読 関西近代建築:モダンエイジの建築遺産(43)新阪急ビルディング, 建築と社会, 93(1087), 39-42 (2012). 【査読無】
A-110	絹川麻理, 室崎千重, 在宅生活継続にむけた地区における支援環境整備のあり方に関する事例研究, 都市住宅学, 79, 38-43 (2012). 【査読有】
A-111	小浦久子, 京都市旧市街地型美観地区における基準の運用と景観形成課題:新築戸建て住宅の通り外観構成の実態調査より, 都市計画論文集, 47, 217-222 (2012). 【査読無】
A-112	鳴海邦碩, これからの時代のまちづくりと景観づくり, 2012年度日本建築学会大会(東海)都市計画部門「景観の計画的リビジョン4」, 5-8 (2012). 【査読無】
A-113	江川直樹, 場所の声を聞く, 2012年度日本建築学会大会(東海)都市計画部門「景観の計画的リビジョン4」, 71-74 (2012). 【査読無】
A-114	平山洋介, 間野博, 糟谷佐紀, 佐藤慶一, 東日本大震災における被災者の住宅事情: 岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に関する実態調査を通して, 日本建築学会計画系論文集, 77(679), 2157-2164 (2012). 【査読有】
A-115	小玉祐一郎, 3.11 が問いたす持続可能性の指標(地球環境委員会活動報告, 建築年報2012), 建築雑誌, 127(1636), 47 (2012). 【査読無】
A-116	小浦久子, 市街地変容と景観の地域性の保全創出に関する研究(2012年日本建築学会賞(論文)), 建築雑誌, 127(1635), 47 (2012). 【査読無】
A-117	平山洋介, 住宅再生から地域持続へ, 東京大学社会科学研究所研究シリーズ, (51), 33-58 (2012). 【査読無】
A-118	平山洋介, 成熟時代の住宅政策:持家社会を超えて, 世界, (833), 221-233 (2012). 【査読無】
A-119	千葉桂司, 藤本昌也, 矢野正和, 建築家は広島にどう向き合ったか:<集住体>としての基町高層アパートと原爆スラム(座談会, 第1部 広島「ヒロシマ」と長崎「ナガサキ」)に向き合った建築界, <特集>広島「ヒロシマ」・長崎「ナガサキ」, 建築雑誌, 127(1635), 16-19 (2012). 【査読無】
A-120	A. Krstikj, 日向進, 小浦久子, スコピエ・オールドバザールを構成する店舗の類型とその変容に関する研究:ヴァナキュラーユニットの形態と建築要素デザインの分析に基づいて, 日本建築学会計画系論文集, 77(678), 1881-1887 (2012). 【査読有】
A-121	小浦久子, 安全・安心まちづくり, 道路建設, 733, 19-22 (2012). 【査読無】
A-122	鳴海邦碩, 「(震災復興まちづくり)産業・人材活用重視を」, 河北新報 (2012.7.18). 【査読無】
A-123	鳴海邦碩, 「月曜討論 買物公園 40年 中心街の再生策は」, 北海道新聞 (2012.6.4). 【査読無】
A-124	鳴海邦碩, 都市計画はアートか, 都市計画, 297, 4 (2012). 【査読無】
A-125	平山洋介, 東北住宅復興政策の実態と課題 (特集 震災復興と住宅支援:過去の経験を生かして), 住宅会議, (85), 20-25 (2012). 【査読無】
A-126	平山洋介, 政策提言: 賃貸の拡充は少子化対策になる, 週刊エコノミスト, 90(25), 38-39 (2012). 【査読無】
A-127	江川直樹, 南仏の美しい小集落を巡り歩いて, 関西大学理工学会 理工学会報, (128), 29-37 (2012). 【査読無】
A-128	岡絵理子, 山崎寿一, 小浦久子 他, ワークショップ 被災地におけるまちなみ復興:住文化の継承とまちなみづくり (第19回学術講演会報告), 都市住宅学, 77, 69-74 (2012). 【査読無】
A-129	平山洋介, 東北住宅復興の論点, 生活協同組合研究, (435), 6-11 (2012). 【査読無】
A-130	藤本昌也, “魅力ある住宅街区づくり”に向けて、今、区画整理に何が求められているのか, 区画整理, 4-10 (2012). 【査読無】
A-131	M. Cho, C. Murosaki, Actual Use and Characteristics of Clues for Blind Person's Independent Walking-Case Study of Kansai Region in JAPAN-, Korea Institute of Healthcare Architecture Journal, 18(1), 15-23 (2012). 【査読無】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

A-132	平山洋介, 若者に低家賃住宅を, 鑑定おおさか, 38 (2012). 【査読無】
A-133	糟谷佐紀, 福祉用具や住宅改修がケアプランに与える影響, 神戸学院総合リハビリテーション研究, 7(2), 67-76 (2012). 【査読無】
A-134	末包伸吾, 鳴海邦碩, 江川直樹, 岡絵理子, 建築・都市デザイン国際ワークショップに参加して, 関西大学理工学会 理工学会報, (127), 44-46 (2012). 【査読無】
A-135	江川直樹, 大野秀敏, 柴田建, 菅孝能, まちなみを再生する, 家とまちなみ, (65), 28-35 (2012). 【査読無】
A-136	末包伸吾, 広瀬鎌二の鉄骨造独立住宅作品「SH シリーズ」の空間構成と架構形式に関する研究, デザイン理論, 59, 33-47 (2012). 【査読有】
A-137	末包伸吾, 論考の主題と構成にみるルドルフ・シンドラーの空間構成の方針と手法, 日本建築学会計画系論文集, 77(673), 723-731 (2012). 【査読有】
A-138	末包伸吾, ケース・スタディ・ハウス・プログラムにおけるラファエル・ソリアノの空間像: ケース・スタディ・ハウスにみるライフスタイルと空間の表象に関する研究(その 1), デザイン理論, (61), 49-62 (2012). 【査読無】
A-139	鳴海邦碩, 住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン, 関大生協 50 周年記念誌「千里ニュータウンのまちに生きる」, 4-17 (2012). 【査読無】
A-140	平山洋介, 東北住宅復興政策の実態と課題 (特集 震災復興と住宅支援: 過去の経験を生かして), 住宅会議, (85), 20-25 (2012). 【査読無】
A-141	糟谷佐紀, 規格—まちづくり—, リハビリテーション・エンジニアリング, 27(1), 22-25 (2012). 【査読無】
A-142	鳴海邦碩, 買物公園 40 年・自由空間, 北海道新聞 (2012.1.24). 【査読無】
A-143	平山洋介, 住宅政策の新たな方向性について, 都市問題, 103(1), 4-8 (2012). 【査読無】
A-144	平山洋介, 窪田亜矢, 震災と復興, 家計経済研究, (93), 2-16 (2012). 【査読無】
A-145	平山洋介, 地域持続を支える住宅再生を, 世界, 826, 214-226 (2012). 【査読無】
A-146	藤本昌也, コミュニティ・アーキテクツ, 建築士, 61(712), 23-32 (2012). 【査読無】
A-147	藤本昌也, 復興のまちづくりと建築士の役割, ROOF&ROOFING, (2012 年新春), 10-13 (2012). 【査読無】
A-148	小玉祐一郎, 団地再生を考える—サステイナブルということ, 月刊ウェンディ, (271), 8 (2011). 【査読無】
A-149	前田昌弘, 高田光雄, 再定住地における生活再建とコミュニティ形成に対するマイクロレジットの効果—インド洋津波後のスリランカにおける住宅移転をともなう再定住に関する研究(その 3), 日本建築学会計画系論文集, 76(668), 1859-1866 (2011). 【査読有】
A-150	L. Shakya, 高田光雄, 神吉紀世子, 仏教僧院を起源とする中庭型集住体の空間構成—パタン旧市街地における共同的空間管理システムに関する研究(その 1), 日本建築学会計画系論文集, 76(668), 1781-1789 (2011). 【査読有】
A-151	室崎千重, 増永理彦, 長期経過団地の建替えによる再入居高齢者の近所つきあいの変化に関する研究 その 2, 都市住宅学, (75), 62-67 (2011). 【査読有】
A-152	鳴海邦碩, マイライフ・マイワーク: 大阪研究とアジアの集合住宅研究, 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫レター, (冬), 13-14 (2011). 【査読無】
A-153	平山洋介, 東北住宅復興の政策展開について, マンション学, (40), 39-42 (2011). 【査読無】
A-154	鳴海邦碩, 新アテネ憲章に会う, 都市計画, 第 293 号, 111 (2011). 【査読無】
A-155	絹川麻理, 室崎千重, 居住ニーズと事業化の課題からみた居住安定化にむけた小規模高齢者共同住宅事業の促進要件, 都市住宅学, (75), 50-55 (2011). 【査読有】
A-156	穂苅耕介, 神吉紀世子, 高田光雄, 地方都市の歴史的町並みを活かしたまちづくりにおける建設業者の役割—和歌山県有田郡湯浅町を事例として, 日本建築学会計画系論文集, 76(667), 1631-1369 (2011). 【査読有】
A-157	宮岡大, 小玉祐一郎, 武政孝治, 外気導入モードによる不快指数と結露リスクへの影響に関する検討—外気導入モードの違いがパッシブクーリング効果に及ぼす影響(その 2), 日本建築学会環境系論文集, 76 (666), 655-663 (2011). 【査読有】
A-158	宮野順子, 高田光雄, 安枝英俊, 親子・配偶関係を含まない同居の住まい方からみた住戸内共用空間に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(666), 1363-1370 (2011). 【査読有】
A-159	藤本昌也, 増山敏夫, 植久哲男, 大工と建築家で考えた合理的な木造 民家型構法 (特集 田中文男の建築学) - (民家から学ぶ), 住宅建築, (428), 24-31 (2011). 【査読無】
A-160	藤本昌也, 建物が語る日本—広島市・基町高層アパトー—, 京都新聞 (2011.8.8). 【査読無】
A-161	平山洋介, 危機は機会なのか? 東北復興まちづくりに向けて, 世界, (820), 67-75 (2011). 【査読無】
A-162	平山洋介, 東北住宅復興に向けて, 賃金と社会保障, (1543+1544), 9-14 (2011). 【査読無】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- A-163 藤本昌也,コミュニティ・アーキテツ シンポジウムの狙い, 建築士, 60(707), 14-15 (2011). 【査読無】
- A-164 大坪明, 関西支部ニュース 学生による住宅公団初期テラスハウスの自主改修実験(空間構造の改編), 都市住宅学, 74, 96-101 (2011). 【査読無】
- A-165 藤本昌也, 復興への生活空間整備提案, 建設通信新聞 (2011.7.26). 【査読無】
- A-166 藤本昌也, <大月敏雄×藤本昌也>UIA2011 東京大会CAシンポジウムに向けて, 建築士, 60(706), 20-24 (2011). 【査読無】
- A-167 大坪明, 学生による住宅公団初期テラスハウスの自主改修実験(空間構造改編), 都市住宅学, 74, 96-101 (2011). 【査読無】
- A-168 鳴海邦碩, 伝えたい故郷の景観ー阪神・淡路大震災からの復興の経験から, 観光文化, (208), 6-10 (2011). 【査読無】
- A-169 平山洋介, 東日本大震災と住宅復興, 地方自治職員研修, 610, 115-123 (2011). 【査読無】
- A-170 小浦久子, 生活環境の景観利益をめぐってー地域で共有される環境価値が心地よい生活風景を生み出す, 公営企業, 43(3), 9-16 (2011). 【査読無】
- A-171 服部岑生, 平山洋介, 建築の境界と制度, 建築雑誌, 126(1619), 12-17 (2011). 【査読無】
- A-172 藤本昌也, 東日本大震災とこれからの建築・都市・国土, 建築雑誌, 126(1619), 3-8 (2011). 【査読無】
- A-173 江川直樹, 居住再生という建築行為を通して考える“建築の可能性”, 建築とまちづくり, (399), 11-16 (2011). 【査読無】
- A-174 藤本昌也, 私たちがつくる住まいのまちなみ, 日本経済新聞 (2011.5.21). 【査読無】
- A-175 平山洋介, 持家取得における既婚女性の就業の役割, 日本建築学会計画系論文集, 76(663), 983-992 (2011). 【査読有】
- A-176 檜谷美恵子, 広原盛明, 高田光雄, シンポジウム報告「都心・まちなか・郊外の共生」出版記念シンポジウム, 都市住宅学, 73, 85-90 (2011). 【査読無】
- A-177 平山洋介, 住宅政策の転換とセーフティネット, 社会福祉研究, (110), 26-35 (2011). 【査読無】
- A-178 藤本昌也, 新たな建築・まちづくりに関わる制度と仕組みはどうあるべきか, 建築士, 60(703), 40-43 (2011). 【査読無】
- A-179 末包伸吾, 空間への愛着のために: つくるからつかうへ, 関西大学教育後援会 葦, (148), 35 (2011). 【査読無】
- A-180 岡絵理子, 香港 特異な歴史が育んだ住宅地ー九龍塘, 家とまちなみ, (63), 15-17 (2011). 【査読無】
- A-181 大坪明, 1930 年代オランダの集合住宅に見る住戸内における室区画の柔軟性の実現要因に関する考察, 武庫川女子大学紀要自然科学編, 59, 7-16 (2011). 【査読無】
- A-182 前田昌弘, 高田光雄, 神吉紀世子, 世帯間関係の組み合わせパターンと住宅敷地所有・利用関係の分析-インド洋津波後のスリランカにおける住宅移転をともなう再定住に関する研究(その2), 日本建築学会計画系論文集, 76(661), 617-624 (2011). 【査読有】
- A-183 平山洋介, 第13回市町村議会議員研修会 記念講演から 住宅政策の再構築に向けて, 住民と自治, (575), 28-34 (2011). 【査読無】
- A-184 平山洋介, 住宅の市場化政策とセーフティネット (特集 低所得者の住まいをどう確保するか), 月刊福祉, 94(3), 12-16 (2011). 【査読無】
- A-185 林泰義, 西村幸夫, 対談 市民事業は前進する, まちづくり, 30, 4-12 (2011). 【査読無】
- A-186 増淵昌利, 高田光雄, 建築基準法に基づく完了検査実施率の向上に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(660), 415-420 (2011). 【査読有】
- A-187 平山洋介, 都市住宅政策の再構築に向けて (特集 2010 建築とまちづくり東京/40周年記念フォーラム宮城 社会が要請する新たな空間), 建築とまちづくり, (395), 6-16 (2011). 【査読無】
- A-188 A.-Z. Raffif, 小浦久子, ヨルダン・サルトにおける伝統的な建築物の歴史性に対する公的機関の考え方に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(660), 397-403 (2011). 【査読有】
- A-189 鳴海邦碩, 景観法と景観からのまちづくり, 月刊自治フォーラム, (617), 12-18 (2011). 【査読無】
- A-190 大坪明, ストック再生実証試験の今後に期待するもの (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験-ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 38-40 (2011). 【査読無】
- A-191 平山洋介, 住宅政策の転換と国/自治体 (特集 自治体の住宅政策はどうあるべきか), 住宅, 60(1), 51-57 (2011). 【査読無】
- A-192 平山洋介, 親子近居と住宅政策 (特集 近居・隣居のススメー「住宅に住む」から「地域に住む」へ), すまいろん, 97, 34-37 (2011). 【査読無】
- A-193 星田逸郎, 忽那裕樹, モデル住棟の改修コンセプトと設計技術 (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験-ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 24-28 (2011). 【査読無】

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

A-194	星田逸郎, 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験 (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験—ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 11-16 (2011). 【査読無】
A-195	小浦久子, 大規模建築物を地域環境と調整するしくみ-芦屋市の景観まちづくりにおける行政指導から法定手続きへ (特集 紛争・訴訟問題からみたまちづくり手法の有効性と限界), 日本不動産学会誌, 24(4), 59-64 (2011). 【査読無】

<図書>

B-1	KSDP 団地再編プロジェクト, スtock活用型団地再編への展望【前編】 関西大学団地再編プロジェクトの研究活動(平成 23~27 年度), 関西大学出版部, 総ページ 243 (2016).
B-2	KSDP 団地再編プロジェクト, スtock活用型団地再編への展望【後編】 団地再編専門家養成セミナーテキスト, 関西大学出版部, 総ページ 247 (2016).
*3	B-3 岡絵理子 他 6 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)13 「まちを元気にする方法-仕掛人 6 人へのインタビュー」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 56 (2015).
B-4	江川直樹, 倉知徹, 辻村修太郎 他, 大規模公的集合住宅団地の再編をめざして まずは「86 条 1 団地」の解体から, 団地再生まちづくり 4, 水曜社, 45-49 (2015).
*3, *15	B-5 鳴海邦碩 他 7 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)12 団地再編パネルディスカッション・関西 3 ニュータウンの現状と課題」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 110 (2015).
*3, *14	B-6 江川直樹, 鳴海邦碩, 岡絵理子 他 9 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)11 「団地再編専門家養成セミナーテキスト <団地原論シリーズ・団地再編シリーズ>」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 230 (2015).
*3	B-7 曾根幸一, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)10 「幕張ベイタウン」とその背景」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 82 (2015).
*3	B-8 KSDP 団地再編プロジェクト, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)09 「御坊市宮島団地建替事業 図面集(第 1~5 期)」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 516 (2015).
B-9	KSDP 団地再編プロジェクト, 団地再編 COMPETITION2013 作品集, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 62 (2014).
*3	B-10 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)08 「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:001~138」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 476 (2014).
*3	B-11 大坪明, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)07 「近隣地域マネジメント」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 88 (2014).
*3	B-12 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)06 「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:091~138」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 190 (2013).
*3	B-13 江川直樹, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)05 「集住環境による地域再生-暮らしとまちを再生しながら棲むカタチ」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 125 (2013).
*3	B-14 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 小玉祐一郎, 糟谷佐紀, 室崎千重, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 角橋徹也, 佐藤健正, 荒木公樹, 増永理彦, 三谷幸司, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)04 「KSDP 団地再編プロジェクト Profile Sheet:2012」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 44 (2013).
*3	B-15 大坪明, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)03 「住宅団地による街づくりの歴史(第二次世界大戦以前)」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 118 (2013).
*3	B-16 佐藤健正, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)02 「イギリス社会住宅の団地再生」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 100 (2013).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

*3	B-17	江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一, 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet)01「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:001~090」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 286 (2013).
	B-18	江川直樹, 集住環境による地域再生—暮らしとまちを再生しながら棲むカタチ—, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 125 (2013).
	B-19	井口勝文, 江川直樹, 若本麗湖, 難波健, 鳴海邦碩, イタリアの都市から学ぶ日本の小都市の可能性, まちづくり新書(電子書籍), 学芸出版社 (2013).
	B-20	荒木公樹, 高田光雄 他 14 名, 堀川団地再生プログラムの研究開発報告書, 京都府住宅供給公社, 京都大学大学院工学研究科, 18-19, 22-25, 総ページ 55 (2012).
	B-21	荒木公樹, 高田光雄 他 7 名, 堀川団地‘やわらかい’まちづくり再生ビジョン, 京都大学大学院工学研究科, 12-15, 17, 総ページ 29 (2012).
	B-22	北徹, 室崎千重 他 2 名, IV.環境制度 8.高齢者にやさしい住境, 健康長寿学大辞典 QOL から EBM まで, 735-739, 西村書店, 総ページ 825 (2012).
	B-23	平山洋介 他 6 名, 地域社会圏主義, INAX 出版, 94-117, 総ページ 152 (2012).
	B-24	小玉祐一郎 他 13 名, 3.11 後の建築・まち われわれは明日どこへ住むか, 彰国社, 192-195, 総ページ 199 (2011).
	B-25	佐藤滋, 鳴海邦碩 他 10 名, 風景の再生 東日本大震災からの復興まちづくり, 大月書店, 総ページ 320 (2011).
	B-26	末包伸吾 他 5 名, 尼崎市都市美形成計画, 尼崎市, 総ページ 104 (2011).
	B-27	室崎千重 他 10 名, 都市・まちづくり学入門, 学芸出版社, 202-216 (2011).
	B-28	糟谷佐紀, 増永理彦 他 67 名, 御坊市営島団地, 60 プロジェクトによむ日本の都市づくり, 日本都市計画学会編, 朝倉書店, 162-163, 総ページ 220 (2011).
	B-29	平山洋介, 都市の条件—住まい、人生、社会持続, NTT 出版, 総ページ 265 (2011).
	B-30	江川直樹, 場所の声を聞く, 関西大学出版部, 総ページ 210 (2011).
	B-31	江川直樹 他 89 名, 現代日本の建築 vol.4, ARTBOX インターナショナル, 30-31, 総ページ 204 (2011).
	B-32	大坪明 他 18 名, 《生活環境学の知》を考えるシリーズ 生活をデザインする, 光生館, 107-115, 総ページ 192 (2011).
	B-33	江川直樹, 小浦久子, 鳴海邦碩 他 41 名, 東日本大震災・原発事故 復興まちづくりに向けて, 学芸出版社, 86-89, 88-94, 109-113, 総ページ 240 (2011).
	B-34	江川直樹, 小浦久子, 鳴海邦碩, 岡絵理子, 星田逸郎 他 67 名, JUDI KANSAI 仕事の軌跡と展望, 都市環境デザイン会議開催ブロック, 80-83, 84-85, 86-89, 98-101, 126-129, 220-223, 総ページ 280 (2011).
	B-35	小玉祐一郎 他 18 名, 設計のための建築環境学, 彰国社, 8-9, 総ページ 126 (2011).
	B-36	鳴海邦碩, 「10 復興のまちづくり:概説—基本的視点」, 「10 復興のまちづくり:景観形成と復興まちづくり」, 「10 復興のまちづくり:生活空間の継続を目指した復興まちづくり」, 「10 復興のまちづくり:復興と中心市街地の活性化」, 「第 3 復旧・復興」, 災害対策全書, 396-397, 404-409, 全 4 巻, ひょうご震災記念 21 世紀研究機構, 総ページ 1900 (2011).

<学会発表>

*11	C-1	松浦知子, 倉知徹, 宮崎篤徳 辻村修太郎, 江川直樹, 団地再編におけるコミュニティ拠点 1 年目の利用実態と存在意義に関する実践的研究—UR 男山団地を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
	C-2	大坪明, 米政府関与の第一次世界大戦時緊急住宅供給の意義に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
	C-3	牛山あやか, 高田光雄, 加茂みどり, 近本智行, 非日常的状況における集合住宅の中間領域の使われ方の研究—大阪ガス実験集合住宅 NEXT21 を事例として—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
	C-4	生川慶一郎, 高田光雄, 近本智行, 土井脩史, 原田和幸, 居住者の住み方に配慮した部分断熱改修設計の検討—伝統構法の木造住宅における断熱改修手法に関する研究 その 1—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

C-5	土井脩史, 高田光雄, 近本智行, 生川慶一郎, 原田和幸, 居住者の住み方から見た部分断熱改修の意義—伝統構法の木造住宅における断熱改修手法に関する研究 その 2—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-6	金海梨, 高田光雄, 韓国現代文学作品に見るチェとマダンの関係に関する一考察—小説「庭の深い家」に描かれた生活の様子を通じて—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-7	藤田麻由実, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 岡山県瀬戸内市牛窓地区における木造住宅の住み継ぎに関する研究—住み継ぎを実践する居住者へのインタビュー調査を通して—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-8	門田知優里, 小浦久子, 地域と店の営みの相互性が生み出す地域性の持続に関する研究—大阪市北区天満地区を対象として—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-9	大森聡子, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 京都市都心部における細街路の課題に関する研究—歴史細街路の維持保全に向けて—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-10	茅野壮志, 小浦久子, 密集市街地の路地空間の認識における空き地・空き家の影響に関する研究—神戸市兵庫区山麓防災再開発促進地区を対象に—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-11	前田昌弘, 高田光雄, 山崎圭史, 田中哲, 京都市都心部有隣学区における伝統産業事業所の変遷—ものづくりを通じた歴史的市街地におけるまちづくり活動に関する研究 その 1—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-12	田中哲, 高田光雄, 前田昌弘, 山崎圭史, 藤田麻由実, 京都市都心部有隣学区における職人の暮らしと地域との関わり—ものづくりを通じた歴史的市街地におけるまちづくり活動に関する研究 その 2—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-13	玄伽椰, 三輪康一, 末包伸吾, 水野優子, 栗山尚子, まちづくりアーカイブズの構築とその課題に関する研究—神戸市におけるまちづくり資料を事例として—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-14	田中宏典, 小浦久子, 集落地における建て替え更新による住宅タイプの成り立ちに関する考察 茨木市東福井集落におけるケーススタディ, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
C-15	馬庭泰介, 小浦久子, 生活利便性の高い地域における自動車利用に関する研究—大阪都心部近郊地区の生活行動調査より—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
*8 C-16	保持尚志, 片岡由香, 角橋徹也, 倉知徹, 江川直樹, 団地における駐車場設置・車保有実態と自治体による駐車場設置基準の運用・規定状況 公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その 2), 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-17	板谷幸歩, 平山洋介, 東日本大震災における通学区域政策と子どもの生活空間, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-18	原可奈子, 平山洋介, 学童保育における空間構成と子どもの過ごし方に関する研究:日本とデンマークの比較分析を通じて, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-19	糟谷佐紀, 平山洋介, 独立世帯の形成を望む障害者の住宅事情, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-20	井垣量子, 小山明, 小玉祐一郎, イル・ジーラソーレの向日性機構について:回転住居における日照モデルシミュレーション, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-21	小玉祐一郎, 武政孝治, 松元良枝, 宮岡大, 設計支援のためのパッシブ気候図の作成と活用, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-22	武政孝治, 小玉祐一郎, 松元良枝, 宮岡大, パッシブデザインのための年間時刻別温度表現方法について, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-23	忽那知輝, 小浦久子, 中心市街地の賑わい創出における都市の多様性に関する研究:北船場の都市空間分析より, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-24	安福和弘, 小浦久子, 京都市北区中川地区における倉庫および倉庫周辺の作業空間に関する調査, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-25	山崎圭史, 高田光雄, 前田昌弘, 地区計画によるワンルーム規制が地域の人口キャパシティに与える影響:京都市都心部の有隣学区を事例として, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-26	西野克裕, 森重幸子, 高田光雄, 山崎圭史, 前田昌弘, 行事運営への関わり方に着目した地蔵盆の役割:京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その 3, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

C-27	藤田麻由実, 森重幸子, 高田光雄, 西野克裕, 前田昌弘, 山崎圭史, レジリエントなコミュニティの形成と地蔵盆の関係性:京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その4, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-28	森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 大森聡子, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 田の字地区内の細街路の属性:京都市都心部における細街路の現状 その1, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-29	大森聡子, 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 田の字地区内の2006年以降に消滅した細街路:京都市都心部における細街路の現状その2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-30	「京町家における地域居住文化に配慮した部分断熱改修 その1」, 生川慶一郎, 土井脩史, 高田光雄, 酒向真考, 近本智行, 原田和幸, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-31	田中哲, 土井脩史, 高田光雄, 酒向真考, 近本智行, 原田和幸, 生川慶一郎, 京町家における地域居住文化に配慮した部分断熱改修 その2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-32	趙賢株, 高田光雄, 前田昌弘, 久保由華, 遠隔地避難者の住情報ニーズと情報収集の実態:東日本大震災における京都市への避難者の住情報ニーズに関する研究 その1, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-33	久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 趙賢株, 遠隔地避難の経緯と住生活の変化に伴う不安・不満に関する考察:東日本大震災における京都市への避難者の住情報ニーズに関する研究 その2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
*4 C-34	大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの再生に関する研究, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-35	山ノ井大輔, 平山洋介, 親子近居の住居条件, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
C-36	糟谷佐紀, 平山洋介, 独立世帯の形成を望む障害者の住宅事情, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
*11 C-37	辻村修太郎, 出町慎, 安原秀, 江川直樹, 「団地再編におけるコミュニティ拠点」開設の経緯と利用実態に関する実践的研究—UR 男山団地だんだんテラスを対象として—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
*8 C-38	保持尚志, 片岡由香, 角橋徹也, 倉知徹, 江川直樹, 大阪府下自治体における駐車場の設置基準と団地の駐車場設置・車保有実態—公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その2)—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
*4 C-39	大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの再生に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-40	中前佐和子, 小浦久子, 商店街におけるチャレンジショップへの取組と期待される効果:奈良もちいどのセンター街を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-41	安福和弘, 小浦久子, 京都市北区中川地区における倉庫および倉庫周辺の作業空間に関する調査, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-42	高橋佳那, 岡絵理子, 居住からみた千里ニュータウン近隣センターの再生・再編に関する基礎的研究:長屋型店舗付住宅の居住実態調査を通して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-43	福本優, 岡絵理子, 江川直樹, 千里ニュータウンにおける集合住宅団地の建て替え事業及び新規集合住宅供給の実態に関する基礎的研究:地域環境としての集合住宅団地の在り方について, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-44	牧角雄, 岡絵理子, 戸建住宅地居住者の地区計画制度の認知・認識に関する研究:猪名川パークタウンを事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-45	水野陽介, 末包伸吾, 増岡亮, クレイグ・エルウッドの独立住宅作品における空間構成手法に関する研究:<空間の連続性>とその変遷に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-46	佐々木康人, 末包伸吾, リチャード・ノイトラの建築思想の形成過程に関する建築意匠論的研究:『Life and Shape』にみる<同化・融和"assimilation・fuse">の思想に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-47	金海梨, 高田光雄, 韓屋建築家の自邸と彼の作品に現れる伝統的生活文化の保全再生の現状:既存韓屋の改修事例に見る伝統的生活文化の現代的継承 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-48	金海梨, 高田光雄, 外国人居住者の韓屋住まいに現れる伝統的生活文化の保全再生の現状:既存韓屋の改修事例に見る伝統的生活文化の現代的継承 その2, 日本建築学会近畿支部

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-49	江川知里, 高田光雄, 野原俊介, 土井脩史, 川幡祐子, 住みこなしに着目した賃貸集合住宅居住者のDIYニーズに関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-50	土井脩史, 高田光雄, 江川知里, 既存賃貸集合住宅の住戸改修におけるDIYの導入に関する研究:京都府堀川団地を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-51	山崎圭史, 高田光雄, 前田昌弘, ワンルーム規制が地域の人口キャパシティに与える影響に関する研究:京都市都心部の有隣学区を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-52	前田昌弘, 高田光雄, 西野克裕, 森重幸子, 京都市都心部における地蔵盆の開催実態と参加者の多様性:レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-53	西野克裕, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 山崎圭史, 地蔵盆の運営からみた町内への関わり方の冗長性:レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その2, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-54	大森聡子, 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 村田真悟, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 京都市都心部における細街路の現状:歴史細街路の維持保全に向けて, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-55	久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 趙賢株, 京都における遠隔地避難者の住情報ニーズと情報収集実態:東日本大震災における遠隔地避難者の住情報ニーズに関する研究 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-56	趙賢株, 高田光雄, 前田昌弘, 久保由華, 京都市への避難に伴う住生活の変化とその課題に関する考察:東日本大震災における遠隔地避難者の住情報ニーズに関する研究 その2, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
C-57	M. Araki, <u>N. Egawa</u> , Renewal and Overall Plan of "Sakura Machi" at Hamakoushien Housing Complex -Reorganization from Housing Complex to Block-type Town-, International Symposium on City Planning 2013 Sendai City, Miyagi, Japan (2013.8).
C-58	A. Miyazaki, <u>N. Egawa</u> , Prospect of Reorganization of Large-scale Public Collective Housing Complex, Corresponding to Contemporary Trends of Utilizing Existing Building Stocks -Review on Article 86 of the Building Standard Act, regarding the case of Demolition of a Single Housing Development-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
C-59	S. Tsujimura, M. Araki, <u>S. Yasuhara</u> , <u>N. Egawa</u> , Changes of Space in Case of Self-Renovation by Residents of Collective Rental Housing Complexes -Housing Unit C2-305, Otokoyama Housing Complex in Kyoto Prefecture-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
*8 C-60	T. Yasumochi, Y. Kataoka, T. Kurachi, <u>N. Egawa</u> , Possibility of Reduction of Parking Space in Public Collective Housing Complex from Viewpoint of Residents -In the case of Otokoyama Housing Complex in Yawata city, Kyoto Prefecture-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
*4 C-61	T. Kurachi, <u>N. Egawa</u> , Tendency of Reorganized Space from the Viewpoint of Space Analysis of European and Asian Renewed Housing Complexes, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
C-62	辻村修太郎, 坂口文彦, 中尾礼太, 吉浦啓史, 吉田祐介, 安原秀, 荒木公樹, 江川直樹, 賃貸集合住宅団地における居住者改修の提案モデル 京都府男山団地 C2-305 を対象とした住戸改修実験(その1), 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-63	吉田祐介, 坂口文彦, 辻村修太郎, 中尾礼太, 吉浦啓史, 安原秀, 荒木公樹, 江川直樹, 賃貸集合住宅団地における居住者改修の可能性 京都府男山団地 C2-305 の住戸改修実験(その2), 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*8 C-64	保持尚志, 片岡由香, 江川直樹, 倉知徹, 住民の意向からみた公的集合住宅団地における駐車場空間削減の可能性 -公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その1), 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-65	宮崎篤徳, 倉知徹, 江川直樹, 欧州の再生団地の再生後の空間特質の傾向 集合住宅団地再編における空間再編に向けた計画論 その1, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-66	倉知徹, 宮崎篤徳, 江川直樹, 欧州の再生団地の再生後の空間分析から見る再編空間の方向性 集合住宅団地再編における空間再編に向けた計画論 その2, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

C-67	松元良枝, 小玉祐一郎, 武政孝治, 宮岡大, パッシブシステムにおける夏期の日射遮蔽装置が室内熱負荷に及ぼす影響について: その4 ブラインドの位置が冷房負荷、室内照度に及ぼす効果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-68	武政孝治, 小玉祐一郎, 宮岡大, 松元良枝, パッシブシステムにおける夏期の日射遮蔽装置が室内熱負荷に及ぼす影響について: その3 ブラインドの位置が自然室温に及ぼす効果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-69	咸俊, 小玉祐一郎, 堀尾岳成, 金谷聡, 小規模事務所建築における夜間換気・躯体蓄冷の効果: 対象建物概要とバランス型逆流防止換気窓の通風量の測定結果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-70	奥茂謙仁, 澤田誠二, 大坪明, 砂金宏和, 水野成容, 横谷功, 老朽化した集合住宅団地の再生・再編プロジェクトの評価に関する研究, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-71	大坪明, マルガレーテンヘーエ団地の都市空間の特質に関する調査研究, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*8 C-72	保持尚志, 片岡由香, 江川直樹, 倉知徹, 男山団地における住民意向からみた駐車場利用状況の可能性—公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その1)—, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.8).
C-73	辻村修太郎, 坂口文彦, 中尾礼太, 吉田祐介, 吉浦啓史, 安原秀, 荒木公樹, 江川直樹, 賃貸集合住宅団地における居住者による住戸改修実験—京都府男山団地 C2-305 住戸をモデルとして—, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.8).
C-74	岡絵理子, 江川直樹, 開発から45年が経過した郊外大規模団地の暮らしと住意識に関する研究—公的セクター供給の八幡市男山団地を事例に—, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
*4 C-75	倉知徹, 保持尚志, 増田和起, 江川直樹, 欧州の再生団地の再生後の空間分析から見る再編空間の方向性, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
C-76	門田晃明, 福本優, 中尾礼太, 岡絵理子, 共同建て替え事業による地域主体の再編と地域再生の可能性に関する研究(1):吹田市旭通り商店街鉄骨長屋を事例として, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
C-77	糟谷佐紀, 東日本大震災における被災者実態と住宅復興(その2)住宅状況に関する釜石市のケーススタディ, 日本建築学会大会(東海), 愛知 (2012.9).
C-78	Y. Hirayama, Neoliberalism and low-income housing in Japan, International Conference on Housing Welfare and Public Policy, Seoul, Korea (2012.9).
*4 C-79	倉知徹, 江川直樹, 岡絵理子, 糟谷佐紀, 欧州団地再生事例における空間変化と実施体制—イギリス・ドイツ・オランダの再生事例の場合—, 日本建築学会大会(東海), 愛知 (2012.9).
C-80	糟谷佐紀, 介助・介護を必要とする旅行者の公的サービス利用の可能性に関する基礎的研究, 日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会, 福岡 (2012.8).
C-81	糟谷佐紀, 公的介護サービスの居住地外給付に関する自治体の運用手法に関する調査, 第27回リハ工学カンファレンス, 福岡 (2012.8).
C-82	澤田沙希, 岡絵理子, 都市型短期滞在型ゲストハウスの地域まちづくりへの可能性に関する研究: 関西4市のゲストハウスを事例に, 日本都市計画学会関西支部研究発表会, 大阪 (2012.7).
*4 C-83	倉知徹, 江川直樹, 岡絵理子, 鳴海邦碩, 角橋徹也, 欧州団地再生事例における空間変化と実施体制: イギリス・ドイツ・オランダの再生事例の場合—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-84	保持尚志, 増田和起, 江川直樹, 御坊市宮島住宅における設計とその評価に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-85	大坪明, 1930年代オランダの集合住宅に見る住戸内における室区画の柔軟性の実現要因に関する考察, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-86	下野真理子, 三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子, タウンハウス団地における住み手の改変行為による景観変容とその評価に関する研究: 神戸のタウンハウス事例における生活景の評価分析を通して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-87	明石賢作, 小浦久子, 散策のための観光マップのメディア特性に関する調査研究: 奈良町の観光マップを事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-88	中井千尋, 小浦久子, 市街化歴による都市空間特性からみる通り景観の構成に関する研究: 豊岡市の中心市街地を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-89	中村太一, 小浦久子, 「通り外観」にみる景観形成における定性基準の計画課題に関する研究: 京都市景観地区旧市街地型美観地区を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-90	中村佳甫, 小浦久子, 都市空間の構成における高度利用の考え方に関する研究: 理想都市計画に見る空間利用を参照として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
C-91	土居正裕, 小浦久子, 京都の地域型商店街の特性と実態に関する基礎的研究, 日本建築学

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- 会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-92 福本優, 岡絵理子, 原風景ともどる場所としての集落のあり方に関する研究:丹波市青垣町神楽地区菅原集落における茅葺古民家と所有者の現状, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-93 福本優, 岡絵理子, 小浜島集落の敷地と住まいの変容について:八重山諸島の風土的集落の変容に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-94 母倉修, 糟谷佐紀, 鞍本長利, 着地型の高齢者・障がい者を対象とする旅行サポート事業構築:ユニバーサルツーリズムの現状と克服すべき課題と今後の可能性, 日本観光研究学会全国大会, 大阪 (2011.12).
- C-95 重村史子, 母倉修, 糟谷佐紀, 「ユニバーサルサービス」の発展・普及に向けた人材育成, 日本観光研究学会全国大会, 大阪 (2011.12).
- C-96 倉知徹, 地域づくり活動における地域交流促進を目的としたアートワークショップの効果 -兵庫県播磨町での取り組みを事例として-, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-97 松田依子, 宮崎あゆみ, 太坪明, 住宅公団初期テラスハウスの構造改編実験の概要-3:武庫川女子大学の改修住戸工事の結果, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-98 趙賢株, 高田光雄, 既存住宅リフォームにおける住まい手と住宅事業者のコミュニケーションツールの開発, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-99 関川華, 高田光雄, 社会住宅へのガルディアン配置に関する国民議会における議論の分析:フランス首都圏における集合住宅管理の現状に関する研究 その 6, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-100 菅井牧子, 高田光雄, 関川華, 大阪都心部における職人の分布とまちとの関わりについて, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-101 村上裕幸, 高田光雄, 神吉紀世子, 安枝英俊, 複数の一人協定地区からなる住宅団地におけるまちづくりの展開に関する研究:京都市・桂坂地区を事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-102 堀諒平, 高田光雄, 安枝英俊, 近隣住区を越えたまちづくり活動を促すパートナーシップ型組織の運営に関する研究:京都市洛西ニュータウンを事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-103 伊東俊亮, 前田昌弘, 高田光雄, 片岡勇人, 安枝英俊, 有隣学区地藏めぐりイベントにおける町内と学区の関係:京都市都心部における地藏盆の役割に関する研究 その 2, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-104 片岡勇人, 前田昌弘, 高田光雄, 伊東俊亮, 安枝英俊, 有隣学区における各町内の地藏盆の運営状況:京都市都心部における地藏盆の役割に関する研究 その 1, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-105 森重幸子, 高田光雄, 安枝英俊, 京都市の中心部における歴史的細街路の変化の実態と課題:膏薬辻子沿いの両側町・新釜座町のまちづくり活動を事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-106 沖村卓哉, 山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 入居者アンケート調査による管理業務に対するニーズ把握:自立高齢者を対象とした高齢者専用賃貸住宅に関する研究(その 6), 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-107 山田雅之, 沖村卓哉, 山口健太郎, 高田光雄, 業務記録閲覧調査による管理業務の量的実態把握:自立高齢者を対象とした高齢者専用賃貸住宅に関する研究(その 5), 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-108 矢谷百代, 土井脩史, 高田光雄, 趙賢株, 生川慶一郎, 藤井亮, 既存賃貸集合住宅における部分エコリフォーム手法の開発に関する研究:居住実験を通じた生活への適合性の検証, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-109 加茂みどり, 安枝英俊, 高田光雄, 土井脩史, 清家剛, 藤井亮, 実験集合住宅 NEXT21「住み継ぎの家(仮)」における環境調整空間の検討:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 3, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-110 藤井亮, 加茂みどり, 高田光雄, 土井脩史, 安枝英俊, 「平成の京町家」における環境調整空間の検討:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 2, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-111 高田光雄, 加茂みどり, 土井脩史, 藤井亮, 安枝英俊, 生活行為と環境調整空間の関係に関する考察:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 1, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-112 土井脩史, 高田光雄, 安枝英俊, 加茂みどり, 固定インフィルを用いたインフィルの配置計画に関する考察:実験集合住宅 NEXT21 のリフォーム実験における試設計を通じて, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-113 宮野順子, 森重幸子, 高田光雄, 土井脩史, 安枝英俊, 桜井俊彦, 生川慶一郎, 堀川団地に

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- おける法的側面からみる改修可能性の検討:市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究
その4, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-114 生川慶一郎, 土井脩史, 高田光雄, 宮野順子, 安枝英俊, 桜井俊彦, 森重幸子, 堀川団地の再生におけるまちづくり協議会の設立と展開:市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究
その3, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-115 前田昌弘, 高田光雄, 再定住地におけるマイクロクレジットを通じた生活再建とコミュニティ形成:
インド洋津波後のスリランカ南西沿岸居住地移転事業におけるワッタの再生と変異 その2,
日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-116 鈴江悠子, 高田光雄, 森重幸子, 生川慶一郎, 生活文化を含めた京町家の公開に関する研究:
一般の見学への対応方法を通して, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-117 金海梨, 高田光雄, 清州市におけるウツバンコックン型住宅の生活空間の変容に関する研究:
内房と釜屋に着目して, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-118 サキヤ ラタ, 高田光雄, 仏教僧院を起源とする中庭型集住体「バハ・バヒ」の所有について:
ネパールのパタン旧市街地における共同的空間管理システムに関する研究, 日本建築学会大会
(関東), 東京 (2011.8).
- C-119 堀部礼子, 平山洋介, 若年層の居住に関する日本とデンマークの比較研究, 日本建築学会大会
(関東), 東京 (2011.8).
- C-120 原可奈子, 平山洋介, 生活空間としての学習塾, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-121 絹川麻理, 室崎千重, 北川博巳, 事業化課題からみた小規模高齢者共同住宅の促進支援への
提案, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-122 室崎千重, 長期経過団地の建替えによる再入居高齢者の生活変化に関する研究 その2:建替
え団地の空間変化と近所つきあい変化の関わりに着目して, 日本建築学会大会(関東), 東京
(2011.8).
- C-123 宮岡大, 武政孝治, 小玉祐一郎, 松元良枝, 室内環境評価・予測のためのデザインツールの
研究:その2 自然室温変動, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-124 武政孝治, 宮岡大, 小玉祐一郎, 松元良枝, 室内環境評価・予測のためのデザインツールの
研究:その1. PASSWORKとESP-rの比較, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-125 大坪明, 宮崎あゆみ, 松田依子, 住宅公団初期テラスハウスの空間構造改編実験の概要-1-
一枚方市中宮第一団地での学生による住戸自主改修実験一, 日本建築学会大会(関東), 東京
(2011.8).
- C-126 宮崎あゆみ, 松田依子, 大坪明, 住宅公団初期テラスハウスの空間構造改編実験の概要-2-
武庫川女子大学の改修住戸の計画一, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-127 松田依子, 宮崎あゆみ, 大坪明, 住宅公団初期テラスハウスの構造改編実験の概要-3:武
庫川女子大学の改修住戸工事の結果, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-128 糟谷佐紀, ユニバーサルサービスの発展・普及に向けた人材育成～障害講師派遣のしくみづく
り～, 第26回リハ工学カンファレンス, 大阪 (2011.8).
- C-129 原田智弘, 末包伸吾, 建設プロセスにみる建築の公共性に関する研究:1990年以降の市民参
加型公共建築作品に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-130 松島将太, 末包伸吾, わが国の大架構建築における覆いの空間構成論とその手法に関する研
究:1970年以降の建築作品の〈形態・架構・素材〉に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発
表会, 大阪 (2011.6).
- C-131 小村秀数, 末包伸吾, 楨文彦の「記憶の形象」にみる〈奥〉の思想とその空間構成手法に関す
る研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-132 宮下智美, 末包伸吾, OMAのシアトル・パブリック・ライブラリーにおける設計プロセスとその建
築思想に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-133 鷲尾有美, 末包伸吾, チャールズ・ムーアの建築思想とその空間構成手法に関する研究:「ディ
メンション」及び1970年代初期までの独立住宅作品の空間構成の分析を通して, 日本建築学
会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-134 角川雅洋, 末包伸吾, ヘルマン・ヘルツベルハーの建築思想と空間構成手法に関する研究:教育
施設作品における〈spatial structure〉と〈familiarity〉に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表
会, 大阪 (2011.6).
- C-135 平田拓也, 末包伸吾, 山崎康弘, クレイグ・エルウッドの建築思想とその空間構成手法に関す
る研究:〈rhythm〉と〈order〉の関係に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪
(2011.6).
- C-136 文元慎二, 末包伸吾, 山崎康弘, リチャード・ノイトラの独立住宅作品における空間構成とその
手法に関する研究:居間空間を中心とした内外空間の構成と柱・梁の架構表現に着目して, 日
本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-137 祖父江司, 末包伸吾, 「NATURE NEAR」にみるリチャード・ノイトラの〈biorealism〉の思想とそ
の建築的展開に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

C-138	井原弘策, 平山洋介, 住宅所有形態と少子化の関係についての研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-139	堀部礼子, 平山洋介, 若年層の居住に関する日本とデンマークの比較研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-140	荒木翔太, 小浦久子, 城下町都市の近代化における駅前景観の成立に関する研究(都市計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-141	小澤拓人, 小浦久子, 住宅系の町並みにおける建築物の違和感に関する研究:大阪府茨木市の市街化歴の異なる3地区における比較を通して(都市計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-142	杉中浩之, 小浦久子, 和歌山県近露集落における空き家の実態と地域環境への影響に関する調査研究(農村計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-143	坂本将則, 小浦久子, デザインプロセスにおける地域性概念の現れ方にもとづく地域性に関する研究(建築計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-144	岡絵理子, 古谷彰基, 小出朗, 臨遺跡集落・エジプト サッカラ村の市街地の構造に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
C-145	Y. Hirayama, Housing and Generational Fractures in Japan, International Symposium on Housing and New Generation Gaps, HongKong, China (2011.5).

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

< D. 戦略基盤団地再編(KSDP) ホームページ >

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/>

< E. 戦略基盤団地再編(KSDP) FACEBOOK >

<http://www.facebook.com/KSDP201109>

< F. シンポジウム、研究発表会、講演会 >

- F-1 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第五回シンポジウム
江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 福本優:「男山団地での実践的取り組み」, 関谷大志朗:「SAC 南花台での実践的取り組み」, 倉知徹出版報告書「ストック活用型団地再編への展望」について」, 武用権太, 田邊豪二, 藤岡栄「男山での連携を振り返り今後を展望する」, 関西大学 100 周年記念会館 (2016.1.22).
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/symposium/index.html>
- *11, F-2 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第四回シンポジウム
*15 江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 鳴海邦碩:「近代の集合住宅団地は何を目指したか? ~団地のはじまりを振り返り明日を考える~」, 辻村修太郎:「だんだんテラスの目指すもの」, 堀口文昭:「団地と地域の再生—大学との連携を振り返って—」, 関西大学 100 周年記念会館 (2015.1.23).
- F-3 地域再生センター研究発表会(東京フォーラム)
江川直樹, 重村力, 三好庸隆, 塚本文, 辻村修太郎, 谷ノ上浩久, 金森佳津, 猪野正浩「京都府八幡市男山団地だんだんテラス紹介」, 「団地再編 COMPETITION2013 概要紹介」, 「最優秀賞受賞作品の紹介」, 「河内長野市長賞受賞作品の紹介」, 「優秀賞受賞作品の紹介」, 「KSDP 提案の紹介」, 「大阪府河内長野市 南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業概要紹介」, 関西大学東京センター (2015.1.10).
- *15 F-4 関西大学 戦略的研究基盤 団地再編プロジェクトパネルディスカッション
鳴海邦碩, 陣内秀信, 服部岑生, 丸茂弘幸, 角野幸博, 江川直樹, 岡絵理子, 橋寺知子, 星田逸郎, 安原秀, 増永理彦「近代の集合住宅団地は何を目指したか?」, 関西大学千里山キャンパス (2014.7.12).
- *11, F-5 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第三回シンポジウム
*13 江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 辻村修太郎:「365 日オープンなコミュニティ活動拠点「だんだんテラス」開設の狙い」, 宮崎篤徳:「男山地域再生基本計画(案)の作成に携わって」, 弘本由香里:「地域資源とつながりの再デザイン~U-CoRo プロジェクト(Step1)の実践から~」, 関西大学 100 周年記念会館 (2014.1.23).
- F-6 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第二回シンポジウム
ストック活用時代の大規模団地再編への視点と 住民参加による団地再生への視座
江川直樹:「本プロジェクトのこれまでの成果報告、及びストック活用時代の大規模団地再編への展望(2012 提案)」, 岡絵理子:「男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」か

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

		ら」, 重村力:「集住と住民参加の意味」, 関西大学 100 周年記念会館 (2013.1.30).
F-7		「地域再生センター研究発表会(東京フォーラム) 日本における集合住宅団地の再編方向を探る 岡絵理子, 江川直樹:「集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクトのみらい」, 大月敏雄「集合住宅団地をいかに次世代に継承するか」, 藤本昌也:「地方都市中心市街地 再生と郊外公営住宅団地再編との連携事業の実践を通して考える」, 林泰義:「日本における 公的住宅と周辺コミュニティの一体的マネジメントの展望」, 森永良内, 木多道宏, 齊藤広子, 鳴海邦碩:「ディスカッション」, 関西大学東京センター (2012.10.6).
F-8		地域再生センター研究発表会(大阪フォーラム) 団地再編への挑戦—団地の「まち」づくり— 倉知徹, 江川直樹:「本技術開発研究の狙いと初年度の研究内容および二年目の研究方 針」, 巽和夫「団地マネジメントの時代へ—UR 団地再生のこれから—」, 星田逸郎, 安原秀, 岡絵理子:「クロストーク」, 関西大学千里山キャンパス (2012.7.14).
F-9		地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第一回シンポジウム 集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究の目指すもの, 深尾精一: 「団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか」, 江川直樹:「『集合住宅“団地”の 再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究』の目指すもの」, 関西大学 100 周年記念会館 (2012.1.23).
<G. 再編提案・研究成果, 模型とパネル展, 講演会>		
*7	G-1	[パネル展] 「だんだんギャラリーin 天神橋 3 丁目商店街 団地再編・住みよいまちへ—男山団地ストック 活用型団地再編への提案(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)—」, 関西大 学リサーチアトリエ, 540 名参加(2013.5.13-21).
*7	G-2	[巡回展] 「団地再編・住みよいまちへ in 新宿—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国における ストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)—」, 東京新宿パークタワー, 78 名参加(2013.3.25-27).
*7	G-3	[巡回展] 「団地再編・住みよいまちへ 2012 in 八幡—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国に おけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提 案)—」, 八幡市文化センター, 116 名参加(2012.12.14-18).
	G-4	[八幡展関連講演会] ・江川直樹, 増永理彦:「UR 団地の再生と居住者参加・男山団地再生に向けて」, 笹原武志: 「建て替え三者勉強会の誕生・継続・発展」, 八幡市文化センター, 46 名参加 (2012.12.16). ・星田逸郎:「団地住戸のリノベーションを経験して」, 井上洋司「微気候と団地の景観—男山 団地の緑道植栽及び路上駐車場の微気候の再生に関する方向性について」, 八幡市文化セ ンター, 29 名参加 (2012.12.16).
*7	G-5	[巡回展] 団地再編・住みよいまちへ 2012 in 千里—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国に おけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提 案)—」, 千里ニュータウンプラザ 千里ニュータウン情報館, 123 名参加(2012.12.5-10).
	G-6	[千里展関連講演会] 江川直樹, 増永理彦:「団地再生と居住者参加・・・千里NTの場合」, 山口岩次郎:「公社『千 里西町団地』建て替えの問題点について—千里ニュータウンに居住する住民の立場から—」, 千里ニュータウンプラザ, 27 名参加 (2012.12.8).
*7	G-7	[企画展] 「大阪市住まい情報センター企画展 団地再編・住みよいまちへ 2012—海外等の団地再生 先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団 地再編プロジェクトからの提案)—」, 大阪市住まい情報センター, 369 名参加 (2012.11.8-12).
	G-8	[大阪展関連講演会] 江川直樹, 増永理彦:「UR 団地再生における居住者参加」, 大阪市住まい情報センター, 83 名参加 (2012.11.17).
<H. その他の関連講演会>		
	H-1	江川直樹 他, 集まって住むカタチのこれから—集住環境の再編まちづくり—, マンション学会

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- 総会メインシンポジウム, 日本マンション学会, 広島 (2015.4.25).
- H-2 江川直樹 他, いま考える新しい住まいのカタチ, 大阪市ハウジングデザインシンポジウム, 大阪 (2015.2.11).
- H-3 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座 k 京都 (2014.12.21).
- H-4 江川直樹, 復興とアーバンデザイン, アーバンデザイン研究会, 愛媛 (2014.12.3).
- H-5 江川直樹, 世界の団地再生 集まって住むカタチのこれから, 集合住宅維持管理機構 30 周年記念シンポジウム講演, 大阪 (2014.11.8).
- H-6 江川直樹, UR 男山団地の住民コミュニティ拠点『だんだんテラス』の目指すもの, UR 技術・研究報告会(大阪)特別講演, 大阪 (2014.10.16).
- H-7 江川直樹 他, 『団地再編』持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-, 公共住宅セミナー, 大阪 (2014.7.17).
- H-8 江川直樹 他, 『団地再編』持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-, 団地再編コンペシンポジウム, 大阪 (2014.7.16).
- H-9 江川直樹 他, 100 年続ける団地再生活動の本質を考える-団地再編推進の現状を踏まえて, 団地再生シンポジウム パネルディスカッション, 東京 (2014.4.18).
- H-10 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座, 京都(2013.12.21).
- H-11 江川直樹, 土屋貞雄, 団地の再編を考える 共空間の再生から考える UR 団地における共用部分の活用, MUJI×UR 団地リノベーションプロジェクト・トークセッション, UR 都市機構, 大阪 (2013.11.22).
- H-12 江川直樹, 団地再編を考える, ハイライフセミナー, 映像配信 (2013.8.19).
- H-13 江川直樹, 公共的な団地は地域全体の住生活資産 “小さく解く”、“混ぜて解く”ことで周辺と融合 86 条の一団地解体提案から, 第 9 回団地再生シンポジウム, 東京(2013.3.27).
- H-14 江川直樹, カンボジアの美しい両棲集落、南仏の美しい小集落、そして日本の集まって住む環境のデザイン, 交通まちづくり学研究会フォーラム, 大阪 (2013.2.8).
- H-15 江川直樹, 小さく解く、混ぜて解くー再生のデザイン, 早稲田大学・関西大学 理工学研究交流セミナー第 3 回, 東京 (2013.1.21).
- H-16 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座, 京都 (2013.1.19).
- H-17 江川直樹, 公共住宅セミナーー今後の公共ストックのあり方(団地再編), 大阪(2012.11.5).
- H-18 江川直樹, 団地再生の夢, 吹田市立博物館千里ニュータウン半世紀展, 大阪 (2012.10.13).
- H-19 江川直樹, 井口勝文, 揃えないこと、揃えること, 都市環境デザインセミナー, 大阪 (2012.9.28).
- H-20 江川直樹, 場所の声を聞くーカンボジアの美しい両棲集落, アジェンダ 21・吹田講演会, 大阪(2012.7.21).
- H-21 鳴海邦碩, 21 世紀の都市像, 近畿都市学会春季大会, 大阪 (2012.7.7).
- H-22 江川直樹, 南仏の美しい小集落を巡り歩いて, 甲陽園目神山地区まちづくり協議会総会記念講演, 兵庫 (2012.6.24).
- H-23 鳴海邦碩, 明日の買物公園, 道新フォーラム 買物公園のあした～誕生 40 年記念講演, 北海道 (2012.6.1).
- H-24 江川直樹, 南仏の美しい人口過少集落を訪ね歩いて, 第 5 回大阪市立大学都市計画研究会 (COU)セミナー, 大阪 (2012.3.16).
- H-25 江川直樹, 浜甲子園団地のリニューアルを語る, 西宮まちなみ発見クラブ・フォーラム 2012, 兵庫 (2012.2.12).
- H-26 鳴海邦碩, 新アテネ憲章とその周辺, 大阪市立大学大学院講演会, 大阪 (2011.12.7).
- H-27 江川直樹, 都市環境デザイン 美しく小さな集落を巡って, JR西日本駅ビル連合会フォーラム, 大阪 (2011.11.24).
- H-28 鳴海邦碩, 都市計画の新たな展開への期待, 日本都市計画学会関西支部 20 周年記念大会講演, 大阪 (2011.10.22).
- H-29 鳴海邦碩, 景観とデザインに配慮したまちづくり, 市町村職員中央研修所レクチュア, 千葉 (2011.10.3).
- H-30 鳴海邦碩, 万博と千里ニュータウン, 生涯学習吹田市民大学講演, 大阪 (2011.6.14).
- H-31 江川直樹, 永田実, 西宮市まちなみ発見クラブの活動と浜甲子園さくら街(建替 1 期), 都市環境デザイン会議セミナー, 兵庫 (2011.4.2).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

＜I. ワークショップ, カフェ＞

- I-1 「咲っく南花台「ふりかえりだよ」全員集合」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.3.12)
- I-2 「第 8 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.2.20).
- I-3 「第 7 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2016.1.9).
- I-4 「第 6 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.12.5).
- I-5 「第 5 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.11.21).
- I-6 「第 4 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.10.3).
- I-7 「第 3 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.9.19).
- I-8 「第 2 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.8.8).
- I-9 「第 1 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.7.4).
- I-10 「第 5 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.4.25).
- I-11 「第 5 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.2.22).
- I-12 「第 4 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.1.17).
- I-13 「第 3 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.12.10).
- I-14 「第 2 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.11.26).
- I-15 「第 1 回〇まる〇まるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.10.26).
- *7 I-16 「だんだんワークショップ No.4 in 男山公民館」, 京都府八幡市男山公民館 (2014.1.19).
- *7 I-17 「だんだんワークショップ No.3 in 男山公民館」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.9.29).
- I-18 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 3 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.25).
- I-19 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 2 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.18).
- I-20 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 1 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.4).
- *7 I-21 「だんだんカフェ No.9 in 八幡市役所」, 京都府八幡市役所第 1 会議室 (2013.7.2).
- *7 I-22 「だんだんカフェ No.8 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.5.25).
- *7 I-23 「だんだんカフェ No.7 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.5.25).
- *7 I-24 「だんだんカフェ No.11 in 関西大学リサーチアトリエ」, 関西大学リサーチアトリエ (2013.5.14).
- *7 I-25 「だんだんワークショップ No.2 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.21).
- *7 I-26 「だんだんカフェ No.6 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.4.19).
- *7 I-27 「だんだんカフェ No.5 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.19).
- *7 I-28 「だんだんカフェ No.4 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.7).
- *7 I-29 「だんだんカフェ No.3 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.4.7).
- *7 I-30 「だんだんカフェ No.2 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.3.18).
- *7 I-31 「だんだんカフェ No.1 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.3.15).
- *7 I-32 「だんだんワークショップ No.1 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.2.21).

14 その他の研究成果等

＜J. 受賞(論文・作品)＞

- J-1 第二回JUDIパブリックデザイン賞・大賞
「浜甲子園さくら街 <兵庫県西宮市>」
建築設計: マスターアーキテクト/江川直樹, 現代計画研究所(江川直樹), 独立行政法人都市再生機構西日本支社, 都市環境デザイン会議 (2014.10.18).
- J-2 第二回JUDIパブリックデザイン賞(ブロック賞)
「やまびこの家・目神山住民集会施設<兵庫県西宮市>」
建築設計: 現代計画研究所(江川直樹), 都市環境デザイン会議 (2014.10.18).
- J-3 都市住宅学会賞(業績賞)
「住棟リノベーションによる団地再生の取組み」
独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部, 独立行政法人都市再生機構西日本支社, 株式会社オープン・エー, 星田逸郎空間都市研究所(星田逸郎), 株式会社 DG コミュ

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- ニケーションズ大阪支社, 都市住宅学会 (2012.11.24).
 J-4 2012 年日本建築学会賞(論文)
 「市街地変容と景観の地域性の保全創出に関する研究」
 小浦久子, 日本建築学会 (2012.5.30).
 J-5 第一回JUDIパブリックデザイン賞(空間賞)
 「アルカディア 21 住宅街区」
 江川直樹(現代計画研究所), 都市環境デザイン会議 (2011.10.8).

< K. 設計・作品 >

- K-1 小玉祐一郎, 東京ガス, NTT ファシリティーズ, 「パッシブ設計と再生可能エネルギー設備
 豊東京ガス磯子社宅 エスペランサ磯子 A 棟 設計監修:小玉祐一郎(エステック計画研究
 所), 設計:東京ガス+NTT ファシリティーズ」, 新建築 87(13), 174-182, 202, 新建築社
 (2012.8).
 K-2 末包伸吾, 山崎康弘, 「牧野の家」, 大阪府枚方市(2012.8).
 K-3 江川直樹, 池田裕彦 他, 「浜甲子園団地建替2期基本設計」, 兵庫県西宮市, UR 都市再
 生機構 (2012.8).
 K-4 都市再生機構西日本支社, 星田逸郎(星田逸郎空間都市研究所), DG コミュニケーション
 ズ, 「観月橋団地再生(OpenA)」, 京都府京都市, 新建築, 2012 年 2 月号, 106-113
 (2012.2).
 K-5 末包伸吾, 山崎康弘, 「阪急芦屋川駅北側広場トイレおよび景観形成デザイン」, 兵庫県
 芦屋市 (2012.2).
 K-6 都市再生機構西日本支社, 星田逸郎, DG コミュニケーションズ, 「観月橋団地再生計画(B
 エリア)」, 京都府京都市, 新建築, 2011 年 8 月号, 78-81 (2011.8).
 K-7 星田逸郎 他, 「向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験--都市再生機構+戸田建設グループ
 (戸田建設 若築建設 京都工芸繊維大学鈴木研究室 星田逸郎空間都市研究所 米谷良
 章設計工房 和田建築技術研究所)」, 新建築, 2011 年 2 月号, 83-88 (2011.2).
 K-8 末包伸吾, 山崎康弘, 「小野原の家」, 大阪府箕面市 (2011.6).

*2 <L. 団地再編リーフレット Re-DANCHI leaflet (HPよりダウンロード可能(一部))>

- L-1 VOL.192:「団地・住まい歴調査(改訂版)」(2016.3).
 L-2 VOL.191:「男山地域まちづくり連携協定を振り返り今後を展望する」(2016.3).
 L-3 VOL.190:「男山団地 地域包括ケア複合施設の建設」(2016.3).
 L-4 VOL.189:「日本の郊外住宅地の歴史とこれから 第 1 回咲っくなんか大学講座」
 (2016.3).
 L-5 VOL.188:「咲っく南花台「コノミヤテラス」の開設」(2016.3).
 L-6 VOL.187:「南花台での地域住民とのワークショップ 南花台〇〇(まるまる)ワークショップ
 ~南花台の未来を考える住民集会」(2016.3).
 L-7 VOL.186:「咲っく南花台わくわくプロジェクト 『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生
 モデル事業」(2016.3).
 L-8 VOL.185:団地再編 COMPETITION2013 と『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生
 モデル事業, 関西大学地域再生センター研究発表会の開催 (2015.8).
 *11 L-9 VOL.184:だんだんテラス活動報告⑤公的賃貸集合住宅団地における住民による自立能
 動的な共用空間への表出の可能性に関する研究 (2015.8).
 *11 L-10 VOL.183:だんだんテラス活動報告④Local Architects という新たな設計手法の展望と可
 能性-LAs のデザイン手法を用いた京都府八幡市男山地域の提案- (2015.8).
 *11 L-11 VOL.182:だんだんテラス活動報告③UR 賃貸住宅における在居住者向け借主負担型改修
 制度の在り方の研究 (2015.8).
 *4 L-12 VOL.181:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-ハマービー・ショースタ
 ッド、ヴォーバン団地の団地再編空間手法- (2015.8).
 *4 L-13 VOL.180:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-レーマーシュタット、ノイ
 マルクトの団地再編空間手法- (2015.8).
 *4 L-14 VOL.179:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-ラビ団地の団地空間再
 編手法- (2015.8).
 L-15 VOL.178:道と暮らしが呼応する豊かな街路空間の創出と、街とつながる団地計画~大阪
 府衛千里桃山台住宅(1丁目)を舞台として~ (2015.8).
 *12 L-16 VOL.177:ダンチ de コソダテ in 男山団地 地域子育て支援施設「おひさまテラス」の開設
 (2015.8).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

*12	L-17	VOL.176:ダンチ de コソダテ in 男山団地 子育て世代向け「子育ての住まいリノベーション」の実施 (2015.8).
	L-18	VOL.175:コレクティブハウジングの狙いと実践 (2015.8).
	L-19	VOL.174:団地と地域の再生 (2015.8).
*11	L-20	VOL.173:だんだんテラス活動報告② だんだんテラスの目指すもの (2015.8).
	L-21	VOL.172:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る コーポラティブハウス『Uコート』の建築空間 (2015.8).
	L-22	VOL.171:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る 道を導入した入れ子型空間になったコーポラティブ住宅 一萱島ネイキッドスクエアと西神アーサヒルズー (2015.8).
	L-23	VOL.170:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る 個々に根ざす小さくて低く古くて新鮮なこれからの共同住宅のありよう (2015.8).
	L-24	VOL.169:再編まちづくりと曼荼羅の構造 (2015.8).
	L-25	VOL.168:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る ラルフ・アースキンの集住建築から (2015.8).
	L-26	VOL.167:40 m ² の専用庭のある団地へ UR 都市再生機構南花台団地の再編提案 (2015.8).
*10	L-27	VOL.166:『男山地域まちづくり連携協定』年次報告会の開催 (2015.8).
*11	L-28	VOL.165:だんだんテラス活動報告① (2015.3).
*13	L-29	VOL.164:男山地域再生基本計画 住民向けリーフレットの作成 (2015.3).
*13	L-30	VOL.163:男山地域再生基本計画の策定 (2015.3).
	L-31	VOL.162:まち再生を担う自律的 PPP 組織(CID 組織) の提案 (2015.3).
*15	L-32	VOL.161:近代の集合住宅団地は何を目指したかー団地再編プロジェクト・パネルディスカッションの記録ー (2015.3).
	L-33	VOL.160:公共住宅セミナーの開催『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー 団地再編 COMPETITION2013 を通して、住宅ストックのあり方を考える (2015.3).
	L-34	VOL.159:団地再編シンポジウムの開催 『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー 団地再編 COMPETITION2013 を通して、住宅ストックのあり方を考える (2015.3).
	L-35	VOL.158:団地再編 COMPETITION2013 パネルディスカッションによる二次公開審査 (2015.3)
	L-36	VOL.157:団地再編 COMPETITION2013 の開催 (2015.3).
	L-37	VOL.156:多摩ニュータウンでの高齢者支援スペース 『福祉亭』の取り組み (2014.9).
	L-38	VOL.155:集合住宅団地建替えの事例と事業の成立要因について ～関西圏での分譲団地再生事例を基に～(2015.3).
	L-39	VOL.154:子育て支援が拓く新しい世界ー団地に於ける子育て支援・あつぷるはうすの取り組み (2014.6).
	L-40	VOL.153:地域資源とつながりの再デザイン ーU-CoRo プロジェクト(Step1) の実践からー (2014.3).
	L-41	VOL.152:UR 団地の最新の取り組みについて (2014.3).
*10	L-42	VOL.151:『男山地域まちづくり連携協定』締結式 (2014.3).
	L-43	VOL.150:MUJI×UR による団地再生 (2014.3).
	L-44	VOL.149:身の丈のまちづくりを目指して (2014.3).
	L-45	VOL.148:低成長時代の建築関係の新しい職能・マネジメント(2014.3).
	L-46	VOL.147:住民参画型活動のマネジメント ー兵庫県立有馬富士公園ー (2014.3).
	L-47	VOL.146:団地の再編を考える-MUJI × UR 団地リノベーションプロジェクト トークセッション (2014.3).
	L-48	VOL.145:四国八十九カ所へんろ小屋プロジェクト 住民有志のボランティアによるへんろ小屋づくりを通じた四国遍路文化の継承と人々のふれ合い (2014.3).
	L-49	VOL.144:河内長野市の歴史と魅力 (2013.12).
	L-50	VOL.143:京都・祇園町南側の町づくりー終(の住処)の町の仕組みー (2014.3).
	L-51	VOL.142:泉北ほっとけないネットワークー地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	展開するー (2014.3).
	L-52 VOL.141:機能主義都市からの脱却に向けて-時間・空間コンテクスチャリズム- (2014.3).
	L-53 VOL.140:サーカスがつむぐ小さな日常-医療と居住を結ぶ生活基盤の再編- (2014.3).
	L-54 VOL.139:武庫川団地における団地マネジメント (2014.2).
	L-55 VOL.138:団地型分譲集合住宅の再編手法の提案 (2013.8)
	L-56 VOL.137:市民によるまちづくりの支援方法 (2013.8).
	L-57 VOL.136:まちづくり+クリエイティブ～市民参加の方法論 風の人からの提言～ (2013.8).
	L-58 VOL.135:大規模団地の総合的な再生に向けた検討 -横浜市の場合- (2013.8).
	L-59 VOL.134:「新しい公」による団地の住環境マネジメントの展望 (2013.8).
	L-60 VOL.133:UR 団地での子育て支援活動の取組み-団地再生の具体的方策に関する報告書から(2007)- (2013.8).
	L-61 VOL.132:まちづくりの時代の公共空間・コモンスペースのデザイン (2013.8).
	L-62 VOL.131:団地再生の活路 屋外環境改修と住棟の断熱エコ改修の取組み (2013.8).
	L-63 VOL.130:メルカテッロの家再生の記録ー再生デザインを通して考えるストックの活用ー (2013.8).
	L-64 VOL.129:建物再生における照明の役割と可能性 (2013.8)
	L-65 VOL.128:団地再生に向けて～団地グリッド構想の構築～ー神奈川県住宅供給公社の団地再生への取組みー (2013.8).
	L-66 VOL.127:男山団地中央センター地区の再生と“だんだんテラス”の提案 (2013.8).
	L-67 VOL.126:地方分権時代における住民協働のまちづくり (2013.8).
*7	L-68 VOL.125:“だんだんギャラリー”の開催, (2013.8).
	L-69 VOL.124:住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン (2013.8).
*16	L-70 VOL.123:団地再編ガイドライン トライアルその 2(2013) (2013.8)
*16	L-71 VOL.122:UR 男山団地再編(再生・更新)にあたっての提言ー再編提案とその検証からー (2013.8).
*16	L-72 VOL.121:団地再編ガイドライン トライアルその 1(2012) (2013.5).
	L-73 VOL.120:公共住宅を中心とした地域風景の創出と住民管理の“だんだん”畑ー南芦屋浜震災復興公営住宅団地ー (2013.7).
	L-74 VOL.119:ストック活用時代の大規模団地再編への展望(その 2) ストックを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し、多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する修復型団地再編の提案～UR 都市再生機構浜甲子園団地(第Ⅳ期エリア)を舞台として～ (2013.6).
*7	L-75 VOL.118:“だんだんワークショップ”の開催 (2013.8).
*7	L-76 VOL.117:“だんだんカフェ”の開催 (2013.8).
*5	L-77 VOL.116:団地／それぞれの住まい歴調査研究 (2013.8).
	L-78 VOL.115:男山団地 C2-305 における住戸改修実験 (2013.5).
	L-79 VOL.114:集住と住民参加の意味 (2013.3).
	L-80 VOL.113:多摩平団地建替え事業から-住民・日野市・UR 三者勉強会による建替え事業- (2013.3).
	L-81 VOL.112:住民の立場からみた千里ニュータウンの建替え事業 (2013.3).
	L-82 VOL.111:大阪府営住宅団地の現状と課題 (2013.5).
*7	L-83 VOL.110「団地再編住みよいまちへ 2012」展覧会・展覧会の開催 (2013.3).
*5	L-84 VOL.109:男山地域の再生・再編に関する住民意識調査報告 (2013.5).
*5, *8	L-85 VOL.108:男山団地における自家用車所有・カーシェアリング利用意向調査 (2013.5).
*5	L-86 VOL.107:男山団地における居住実験 (2013.3).
*5	L-87 VOL.106:男山団地における空き住戸の実態調査 (2013.3).
*5	L-88 VOL.105:男山団地における植栽の実態調査 (2013.3).
*4	L-89 VOL.104:街区を構成するウィーン公共集合住宅(団地)の持続性(2013.1).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	L-90	VOL.103:微気候と団地の景観 男山団地の緑道植栽及び路上駐車場の微気候の再生に関する方向性について(2013.3).
	L-91	VOL.102:団地住戸のリノベーションを経験して (2013.3).
	L-92	VOL.101:UR 団地の再生と居住者参加 (2013.3).
	L-93	VOL.100:団地再編のプロセスデザイン-和歌山県御坊市宮・島団地の建て替え事業を事例として- (2013.3).
*4	L-94	VOL.099:老朽化したUR 団地の建て替え3事例ー多摩平の森・武蔵野緑町パークタウン・シャレール荻窪ー (2013.1).
	L-95	VOL.098:住棟単位の多様な活用方法を模索する UR 都市機構の「住棟ルネッサンス計画2」(2013.1).
*6	L-96	VOL.097:ストック活用時代の大規模団地再編への展望～その 2:更新可能な小さな単位への再編手法 3 地区での再生イメージ～ (2013.3).
*6	L-97	VOL.096:ストック活用時代の大規模団地再編への展望～その 1:建築基準法 86 条 一団地の解体～(2013.1).
	L-98	VOL.095:堀川団地‘やわらかい’まちづくり再生ビジョン (2013.1).
	L-99	VOL.094:日本における集合住宅団地の再編方法を探る (2013.3).
	L-100	VOL.093:リファイニング建築と団地 (2013.3).
	L-101	VOL.092:建て替えしない団地再生ー市民コミュニティ・ビジネスによる挑戦 (2013.3).
	L-102	VOL.091:経済条件から見た分譲集合住宅(団地)の再編方向について (2013.1).
	L-103	VOL.090:集合住宅と戸建て住宅が混在共棲するふつうの街への再生 ー人間サイズのまちの再生 若宮地区震災復興住環境整備ー (2012.9).
*4	L-104	VOL.089:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(ベトナム・ジャンボ団地 1/2000) (2012.9).
*4	L-105	VOL.088:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(中国・百万庄団地 1/2000) (2012.9).
*4	L-106	VOL.087:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(オランダ・ベルマミーア団地 1/1000) (2012.9).
*4	L-107	VOL.086:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(オランダ・ベルマミーア団地 1/2000) (2012.9).
*4	L-108	VOL.085:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(ドイツ・ライネフェルデ南団地 1/2000) (2012.9).
*4	L-109	VOL.084:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(イギリス・ヒューム地区 1/2000) (2012.9).
	L-110	VOL.083:「八幡・樟葉地区開発基本計画」の概要と男山地区周辺を語る (2012.9).
	L-111	VOL.082:阪神・淡路大震災に係る災害復興住宅の景観形成指針(その 1) (2012.9).
	L-112	VOL.081:団地は自然な都市に変わりうるか (2012.9).
	L-113	VOL.080:団地を「ふるさと」にする方法を考えるー「生活空間の履歴」の解釈への参加と協働をめぐる (2012.9).
	L-114	VOL.079:団地マネジメントの時代へーUR 団地再生のこれからー (2012.9).
	L-115	VOL.078:サステナブル社会づくりの核となる団地再生ー“エコ団地をつくるオープンビルディング”の現状 (2012.9).
	L-116	VOL.077:シナリオ・アプローチによる団地再編 (2012.9).
	L-117	VOL.076:重層的な生活困難を抱えた単身困窮者の住居 (2012.9).
	L-118	VOL.075:ニュータウンの計画文化とその解体 千里ニュータウンは文化的景観か (2012.9).
	L-119	VOL.074:団地再生計画ー団地からまちへー仙台市の事例よりー (2012.9).
	L-120	VOL.073:千里ニュータウン藤白台府公社「再生地」における自治会、公社、民間事業者の3者による団地再編 (2012.9).
	L-121	VOL.072:周辺環境を高める建築ー独立住宅の設計からー (2012.9).
	L-122	VOL.071:規格化と個別化の融合 R.M.シンドラーの集合住宅 (2012.9).
	L-123	VOL.070:郊外ニュータウンのオールドタウン化とその再生 (2012.9).
	L-124	VOL.069:団地再生とはまちづくりである?神戸の近代都市計画を事例として (2012.9).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	L-125	VOL.068:UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する (2012.9)
	L-126	VOL.067:明舞団地と住民活動の実際ー団地再生に向けた取り組みー (2012.9).
	L-127	VOL.066:公共賃貸住宅地の団地再生ガバナンス (2012.9).
	L-128	VOL.065:千里ニュータウンにおける「再生地処分方式による建替え」の批判的分析 (2012.9).
	L-129	VOL.064:サステナブルなコミュニティをめざして (2012.9).
	L-130	VOL.063:研究担当者の団地再編イメージ (2012.3).
*4	L-131	VOL.062:再生現場を空間計画の立場から確認して(Montbeliard-Bethoncourt) (2012.3).
*4	L-132	VOL.061:再生現場を空間計画の立場から確認して(Poptahof, Delft) (2012.3).
*4	L-133	VOL.060:再生現場を空間計画の立場から確認して(La Duchere, Lyon) (2012.3).
*4	L-134	VOL.059:ハノイでカワイイをさがす 団地の竹下通り (2012.3).
*4	L-135	VOL.058:ハノイの集合住宅のDIYファサード (2012.3).
*4	L-136	VOL.057:北京における創成期集合住宅 団地の建設時の環境 (2012.3).
*4	L-137	VOL.056:再生現場を空間計画の立場から確認して(ベルマミア地区) (2012.3).
*4	L-138	VOL.055:再生現場を空間計画の立場から確認して(ヒューム地区) (2012.3).
*4	L-139	VOL.054:コインストリート団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-140	VOL.053:エンジェルタウン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-141	VOL.052:リファブル団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-142	VOL.051:ホリーストリート団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-143	VOL.050:ウッドベリーダウン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-144	VOL.049:チャークヒル団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-145	VOL.048:ストーンブリッジ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-146	VOL.047:モンティース団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-147	VOL.046:トロブリッジ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-148	VOL.045:ノースペカム団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-149	VOL.044:トレデガー団地の再生(手法と現況)(2012.3).
*4	L-150	VOL.043:マーキスロード団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-151	VOL.042:デヴィオット団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-152	VOL.041:ランウェルロード団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-153	VOL.040:リービューハウス団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-154	VOL.039:モーツァルト団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-155	VOL.038:レオポルド団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-156	VOL.037:ラフボロウ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-157	VOL.036:アイレスベリー団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-158	VOL.035:ブランドン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
*4	L-159	VOL.034:ロンドンの団地再生現場を調査して (2012.3).
*4	L-160	VOL.033:戦前団地を中心にドイツ・オランダを巡って(オランダ編) (2012.3).
*4	L-161	VOL.032:戦前団地を中心にドイツ・オランダを巡って(ドイツ編) (2012.3).
	L-162	VOL.031:ヨーロッパの団地再生事例から (2012.3).
*4	L-163	VOL.030:海外団地再生・空間比較の実測調査-蘭アムステルダム・ベルマミア- (2012.3).
*4	L-164	VOL.029:海外団地再生・空間比較の実測調査-独ライネフェルデ・南団地- (2012.3).
*4	L-165	VOL.028:海外団地再生・空間比較の実測調査-英国マンチェスター・ヒューム- (2012.3).
	L-166	VOL.027:フランスの近年の団地更新事例について (2012.3).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- *4 L-167 VOL.026:ハノイ集合住宅・団地の現状-GIANG VO の調査 (2012.3).
- *4 L-168 VOL.025:北京百万庄住宅団地の理解 (2012.3).
- *4 L-169 VOL.024:living heritage としての団地 北欧の団地再生 (2012.3).
- *4 L-170 VOL.023:さまざまな手法を織り混ぜた埠頭から住宅地への転用 -オランダ・アムステルダム東部港湾地区- (2012.3).
- L-171 VOL.022:オランダの空間計画論その 5 オランダの社会住宅と家賃補助制度 (2012.3).
- L-172 VOL.021:オランダの空間計画論その 4 プランニング・ドクトリンによる都市形成(2012.3).
- L-173 VOL.020:オランダの空間計画論その 3 西部都市圏ラントシュタットの成長管理(2012.3).
- L-174 VOL.019:オランダの空間計画論その 2 戦略的プランニングによる土地利用計画 (2012.3).
- L-175 VOL.018:オランダの空間計画論その 1 干拓と治水をルーツとするプランニング文化 (2012.3).
- L-176 VOL.017:ヨーロッパ共同体の都市づくり憲章-新アテネ憲章- (2012.3).
- L-177 VOL.016:ワークショップ・ハウジング 御坊島団地の再生(1-5期)(2012.3).
- L-178 VOL.015:住み手主体 のコーポラティブ住宅・実践の今 (2012.3).
- L-179 VOL.014:サステイナブルな団地再生 (2012.3).
- L-180 VOL.013:大阪集合住宅団地 黎明期 (2012.3).
- L-181 VOL.012:同潤会による複合開発と震災復興住宅 (2012.3).
- L-182 VOL.011:自然と生活と建築と都市 (2012.3).
- L-183 VOL.010:既存ストックを活用した団地再生の実践と提案 (2012.3).
- L-184 VOL.009:浜甲子園団地の再生 さくら街(建替1期)と全体計画 (2012.3).
- *4 L-185 VOL.008:アジアの集合住宅・団地の理解 (2012.3).
- L-186 VOL.007:イギリス社会住宅の団地再生 (2012.3).
- *4 L-187 VOL.006:ベルリンの世界遺産, 近代集合住宅群を読む (2012.3).
- L-188 VOL.005:国内団地再編に関わる空間提案の候補団地の選定 (2012.3).
- L-189 VOL.004:団地再編前後の空間比較模型の制作 (2012.3).
- *4 L-190 VOL.003:オランダ・アムステルダム ベルマミーア団地の再生 (2012.3).
- *4 L-191 VOL.002:ドイツ・ライネフェルデ南団地の再生(2012.3).
- *4 L-192 VOL.001:イギリス・マンチェスター ヒューム地区の団地再生 (2012.3).

***1 <M. 団地再編 レクチュア・シリーズ (HP上にストックUP, 常時視聴可能)>**

- M-1 半田啓祐, 中村路子, おきなまさひと, 久留米移住計画について (2016.1.31).
- M-2 片岡由香, 松山アーバンデザインセンターの取り組み (2015.10.30).
- M-3 太田隆司, 空き家を生かす、空き地を使う (2015.10.10).
- M-4 江川直樹, 南仏小集落の暮らしの風景 (2015.9.26).
- M-5 角野幸博, 郊外住宅地の歴史とこれから (2015.9.12).
- M-6 西尾高雄, 地域木材を使用したカヌー作り(その2) (2015.8.22).
- M-7 安原秀, OLA Field(Own Life Aging Field)の狙いと空間づくり (2015.6.17).
- M-8 第1回 塗ってみよう会「サビ鉄手すりのペンキ塗装レクチャー」(2015.5.31).
- M-9 鳴海邦碩, 江川直樹, 佐藤勝紀, 色彩による団地再編への展望 (2015.5.28).
- M-10 江川直樹, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その6) (2015.5.11).
- M-11 江川直樹, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その5) (2015.4.27).
- M-12 西尾高雄, 地域木材を使用したカヌー作り(その1) (2015.04.11).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

M-13	狩野三枝, コクティブハウジングの狙いと実践 (2015.1.26).
M-14	江川直樹, 鳴海邦碩, 辻村修太郎, 堀口文昭, ①プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望, ②近代の集合住宅団地は何を目指したか? ~団地のはじまりを振り返り明日を考える~, ③だんだんテラスの目指すもの, ④団地と地域の再生 - 大学との連携を振り返って- (2015.1.23).
M-15	江川直樹, 重村力, 三好庸隆, 塚本文, 辻村修太郎, 谷ノ上浩久, 金森佳津, 猪野正浩, 地域再生センター研究発表会「団地再編 COMPETITION2013 と『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生モデル事業」 (2015.1.10).
M-16	乾亨, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その4) コーポラティブハウス『Uコート』の建築空間 (2014.12.22).
M-17	安原秀, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その3) 『道を導入した入れ子型空間になったコーポラティブ住宅—萱島ネイキッドスクエアと西神アーサヒルズ—』 (2014.12.8).
M-18	伴年晶, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その2) 個々に根ざす小さくて低くて古くて新鮮なこれからの共同住宅のありよう (2014.12.1).
M-19	久保光弘, 再編まちづくりと曼荼羅の構造 (2014.11.17).
M-20	江川直樹, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その1) ラルフ・アースキンの集住建築から (2014.11.10).
M-21	三崎信顕, まち再生を担う自律的 PPP 組織(CID 組織)の提案について (2014.9.3).
M-22	団地再編プロジェクト, 団地再編シンポジウム『団地再編』持続的な集住環境へ—新たな生活像と風景—, (2014.07.16).
M-23	団地再編プロジェクト, 団地再編パネルディスカッション『近代の集合住宅団地は何を目指したか?』, (2014.7.12).
M-24	団地再編 COMPETITION2013 二次公開審査会, 団地再編「COMPETITION2013」二次公開審査会 (2014.5.25).
M-25	上野淳, 多摩ニュータウンでの高齢者支援スペース「福祉亭」の取り組み (2014.5.21).
M-26	根津昌彦, 集合住宅団地建替えの事例と事業の成否要因についての報告会 (2014.4.9).
M-27	高橋叡子, 子育て支援が開く新しい世界 (2014.3.9).
M-28	江川直樹, 辻村 修太郎, 宮崎篤徳, 弘本由香里, ①プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望, ②365 日オープンなコミュニティ活動拠点「だんだんテラス」開設の狙い, ③男山地域再生基本計画(案)の作成に携わって, ④地域資源とつながりの再デザイン~U-CoRo プロジェクト(Step1)の実践から~(2014.1.23).
M-29	土谷貞雄, MUJI×UR による団地再生について (2013.12.20).
M-30	石本幸良, 身の丈のまちづくりを目指して (2013.12.11).
M-31	若本和仁, 低成長時代の建築関係の新しい職能・マネジメント (2013.12.5).
M-32	藤本真里, 市民参画型活動のマネジメント (2013.11.27).
M-33	江川直樹, 土谷貞雄, 団地の再編を考える—MUJI × UR 団地リノベーションプロジェクト トークセッション vol.1— (2013.11.22)
M-34	歌一洋, 四国 89 ヶ所ヘンロ小屋プロジェクトへの思いと実践 (2013.11.18).
M-35	小池悟史, 太田宏明, 河内長野市の歴史と魅力 (2013.10.30).
M-36	吉田秀雄, 京都・祇園町南側の町づくり —終(の住処)の町の仕組み— (2013.10.7).
M-37	森一彦, 「泉北ほっとけないネットワーク」プロジェクト~地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを展開する (2013.9.30).
M-38	山崎正史, 機能主義都市からの脱却に向けて (2013.9.27).
M-39	長谷川駿, 第 10 回団地再生卒業設計賞内田賞「サーカスがつむぐ小さな日常-医療と居住を結ぶ生活基盤の再編-」 (2013.9.24).
M-40	江川直樹, 第 3 回「団地の再編を考える」—大規模公的賃貸 集合住宅団地の再編(再生・更新)—(特別レクチャー ハイライフ研究所) (2013.9.12).
M-41	堀内幸次郎, 水野優子, 武庫川団地における団地マネジメント (2013.8.28).
M-42	泉英明, 市民によるまちづくりの支援方法 (2013.7.29).
M-43	永田宏和, まちづくり+クリエイティブ~市民参加の方法論。風の人からの提言~ (2013.7.17).
M-44	高鍋剛, 大規模団地の総合的な再生に向けた検討—横浜市の場合— (2013.7.9).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

M-45	山本茂, 新しい公による団地の住環境マネジメントの展望 (2013.6.25).
M-46	大島祥子, UR 団地での子育て支援活動の取り組み—団地再生の具体的方策に関する報告書から 2007— (2013.6.24).
M-47	片岡由香, UR 団地における子育て支援の取り組みについて (2013.6.24). (非公開)
M-48	中井祐, まちづくりの時代の公共空間・コモンスペースのデザイン (2013.6.19).
M-49	奥茂謙仁, 花牟禮幸隆, 団地再生の活路 2 つの取り組み事例の紹介 (2013.6.10).
M-50	井口勝文, イタリア・メルカテッロでの町家の再生と活用—ストックのデザインを考える— (2013.6.4).
M-51	長町志穂, 建物再生における照明の役割と可能性 (2013.5.20).
M-52	猪股篤雄, 団地グリッド構想の構築～神奈川県住宅供給公社による団地再生～ (2013.5.17).
M-53	西周健一郎, UR 団地の最新の取り組みについて (2013.4.1).
M-54	江川直樹, 岡絵理子, 重村力, ①本プロジェクトのこれまでの成果報告、及びストック活用時代の大規模団地再編への展望(2012 提案), ②男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」から, ③集住と住民参加の意味 (2013.1.30).
M-55	岡絵理子, 保持尚志, 男山地域での 3 調査の報告会(中間報告) (2013.1.22).
M-56	角橋徹也, 三谷幸司, 安原秀, UR 多摩平の森他の調査報告会 (2013.1.17).
M-57	星田逸郎, 井上洋司, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①団地住戸のリノベーションを経験して(観月橋団地再生計画、向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験、富田第二住宅等), ②男山団地の緑道植栽及び路上駐車風景の微気候調整能力再生に向けて,(2012.12.16).
M-58	江川直樹, 増永理彦, 笹原武志, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②「多摩平の森」における三者の協働について (2012.12.15).
M-59	鳴海邦碩, 住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン (2012.12.12).
M-60	中嶋俊行, 大阪府営住宅団地の現状と課題 (2012.12.11). (非公開)
M-61	江川直樹, 増永理彦, 山口岩次郎, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②UR 団地の再生と居住者参加 (2012.12.8).
M-62	寺川政司, 団地再生とコミュニティのまちづくり, (2012.12.6). (非公開)
M-63	高田光雄, 堀川団地”やわらかい”まちづくり再生ビジョン (2012.11.29). (非公開)
M-64	糟谷佐紀, 住民ワークショップ—御坊島団地を事例として (2012.11.28).
M-65	江川直樹, 増永理彦, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②団地再生における居住者参加 (2012.11.17).
M-66	木村工務店, 山本塗装, 男山団地 C2-305 住戸の改装実験 (2012.11.16).
M-67	荒木公樹, 男山団地の住戸内改装実験についての公団仕様に関するレクチャ(2012.11.12). (非公開)
M-68	江川直樹, 千里ニュータウン半世紀展 講演「団地再生の夢」(2012.10.13).
M-69	江川直樹, 大月敏雄, 藤本昌也, 林泰義, 木多道宏, 齊藤広子, 森永良丙, 鳴海邦碩, 集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクト 東京フォーラム ①日本における集合住宅団地の再編方法を探る, ②集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクトのねらい, ③集合住宅団地をいかに次世代に継承するか, ④地方都市中心市街地再生と郊外公営住宅団地再編との連携事業の実践を通して考える, ⑤日本における公的住宅のマネジメント主体の展望, ⑥ディスカッション (2012.10.6).
M-70	青木茂, リファイニング建築と団地 (2012.10.4).
M-71	服部岑生, 建て替えしない団地再生—市民コミュニティ・ビジネスによる挑戦 (2012.9.27).
M-72	根津昌彦, 団地再編マネジメント研究経済条件から見た分譲集合住宅(団地)の再編方向について (2012.9.26). [非公開]
M-73	馬場明男, 八幡・楠葉地区開発基本計画」の概要 男山地区周辺を語る (2012.8.1).
M-74	田端修, 団地は自然な都市に変わらうるか (2012.7.24).
M-75	延藤安弘, 団地を「ふるさと」にする方法を考える—「生活空間の履歴」の解読への参加と協働をめぐって (2012.7.20).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

M-76	江川直樹, 巽和夫, 星田逸郎, 安原秀, 岡絵理子, 倉知徹, 関西大学 先端科学技術推進機構 地域再生センター研究発表会 ①団地再編への挑戦 団地の「まち」づくり, ②本技術開発研究の狙いと初年度の研究内容および二年目の研究方針「団地マネジメントの時代へ -UR 団地再生のこれから, ③クロストーク (2012.7.14).
M-77	澤田誠二, サステナブル社会づくりの 核となる団地再生 -エコ団地をつくるオープンビルディングの現状 (2012.7.4).
M-78	高田光雄, シナリオ・アプローチによる団地再編 (2012.6.26). [非公開]
M-79	糟谷佐紀, 室崎千重, 低所得者の安定居住支援について～ふるさとの会の事業紹介～, (2012.6.21).
M-80	小浦久子, ニュータウン:タウンの計画文化と解体 (2012.6.14).
M-81	吉浦啓史, 吉田祐介, 増田和起, 倉知徹, イギリス・ロンドンの団地再生事例の調査報告」,(2012.6.13).
M-82	川原晋, 団地再生計画～団地からまちへ～仙台市の事例より (2012.6.12).
M-83	角橋徹也, 自治会・公社・自治体・民間デベロッパーのコラボレーションによる団地再編の事例報告ー千里ニュータウン藤白台での建替え事業ー (2012.6.7).
M-84	竹原義二, 地域環境を向上させる住宅のデザインー竹原義二先生を迎えて (2012.6.4).
M-85	末包伸吾, ルドルフ・シンドラーによる集合住宅における規格化と個別性の融合 (2012.5.29).
M-86	中元三郎, BIM 入門 (2012.5.28). (非公開)
M-87	吉浦啓史, 吉田祐介, 増田和起, 倉知徹, イギリス・ロンドンの団地再生事例の調査報告」,(2012.5.16).
M-88	坂口文彦, 中尾礼太, 鳴海邦碩, 岡絵理子, 北京・百万庄団地, ハノイ・Giang Vo 団地の調査報告 (2012.5.15).
M-89	三好庸隆, 郊外ニュータウンのオールドタウン化とその再生 (2012.5.11).
M-90	小林郁雄, 団地再生とはまちづくりである (2012.5.10).
M-91	江川直樹, フランス・イギリス・オランダ調査報告会 (2012.5.8).
M-92	大坪明, ドイツ・オランダ 調査報告会 (2012.4.27).
M-93	橋寺知子, 北欧の集合住宅団地 調査報告会 (2012.4.26).
M-94	山中優, 大野祥和, イギリス・オランダ団地模型制作報告会 (2012.4.24).
M-95	菊田純一, 男山団地調査報告会 (2012.4.18).
M-96	江川直樹, 安原秀, 海外における団地再生事例 (2012.3.22).
M-97	増永理彦, UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する(その2) (2012.3.7).
M-98	団地再編に関する意見交換会 (2012.02.09).(非公開)
M-99	増永理彦, UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する(その1) (2012.2.23).
M-100	小玉祐一郎, サステナブルな団地再生 (2012.2.23).
M-101	大月敏雄, 同潤会による複合開発と震災復興 (2012.2.20).
M-102	岡絵理子, 大阪の集合住宅 黎明期 (2012.2.20).
M-103	江川直樹, 浜甲子園団地のリニューアルについて (2012.2.12).
M-104	糟谷佐紀, 室崎千重, 平山洋介, 明舞団地における市民活動等について (2012.1.30).
M-105	鳴海邦碩, アジア団地 モンゴル・中国・ベトナム (2012.1.30).
M-106	角橋徹也, 荒木公樹, ベルマミアにおける住宅地再生事例 (2012.1.26).
M-107	鳴海邦碩, アジアの団地ー韓国・香港・シンガポール・インドネシア (2012.1.26).
M-108	深尾精一, 団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか(総論) (2012.1.23).
M-109	深尾精一, 団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか(各論) (2012.1.22). (非公開)
M-110	佐藤健正, イギリスの社会住宅の団地再生 (2012.1.20).
M-111	倉知徹, 増田和起, ヒューム、ライネフェルデにおける住宅地再生事例 (2012.1.18).
M-112	星田逸郎, 向ヶ丘団地他における住棟改修等 (2012.1.18).
M-113	阿部順子, フランスの近年の団地更新について (2011.12.22).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- M-114 橋寺知子, ヘルシンキ市モダニズム建築保存について (2011.12.22).
- M-115 倉知徹, 海外調査報告会 (2011.12.22).
- M-116 角橋徹也, 公共賃貸住宅地の団地再生ガバナンス (2011.11.17).
- M-117 山本聡, ヒューム再生におけるサステナブルな街づくり (2011.11.17).
- M-118 遠藤剛生, 住宅地計画における基本的考え方、ほか (2011.11.16).
- M-119 角橋徹也, 再生地売却方式の問題点を探る (2011.11.11).
- M-120 大坪明, 欧州の団地再生から考えるストック活用 (2011.11.9).
- M-121 松永安光, サステナブルなコミュニティをめざして (2011.11.8).
- M-122 安原秀, 伴年晶, コーポラティブ住宅について (2011.11.8).
- M-123 鳴海邦碩, 街の構成のモデルとは都市の生成と再生の過程 (2011.11.2).
- M-124 大坪明, ライネフェルデの都市再生 (2011.10.28).
- M-125 角橋徹也, ベルマミア住宅団地の失敗と再生 (2011.10.27).
- M-126 鳴海邦碩, 市街地と街区 和やかなまち (2011.10.27).
- M-127 角橋徹也, オランダの住宅政策-社会住宅と家賃補助制度- (2011.10.20).
- M-128 角橋徹也, 20世紀アムステルダムの成長管理 (2011.10.13).
- M-129 江川直樹, オランダ ベルマミア団地視察結果報告 (2011.10.5).
- M-130 角橋徹也, オランダ 多心型環状都市の形成 (2011.10.5).
- M-131 鳴海邦碩, イギリス、ヒューム地区の変遷 (2011.10.5).
- M-132 鳴海邦碩, 新アテネ憲章について (2011.10.4).
- M-133 角橋徹也, オランダにおける開発関連システム (2011.9.29).
- M-134 鳴海邦碩, モダニズム団地の成立、展開、課題 (2011.9.27).
- M-135 角橋徹也, 干拓をルーツとするプランニング文化 (2011.9.22).

*14 <N. 団地再編専門家養成セミナー>

- N-1 団地原論①: 集合住宅団地の誕生と世界への普及 (鳴海邦碩) ~ 郊外の発生、田園都市、住宅計画のモダニズム、ニュータウンと団地 (2014.5.17).
- N-2 団地原論②: 社会制度と集合住宅団地 (鳴海邦碩) ~ 自由主義経済と社会主義経済、ニューヨークの集合住宅団地 (2014.5.17).
- N-3 団地原論③: 3公住宅の成立と集合住宅団地の開発 (岡絵理子) ~ 前期の営団、戦後の公営、公団、公社住宅、位置づけの日本の特徴(ヨーロッパ等の社会住宅との違い) (2014.5.31).
- N-4 団地原論④: 集合住宅団地の日本での展開 (岡絵理子+鳴海邦碩) ~ 市街地内および縁辺部での開発から郊外開発へ、ニュータウン、地域開発 (2014.5.31).
- N-5 団地原論⑤: 丁寧な空間づくりから規格化・工業化・量産化(三井所清典(アルセッド)) ~ 公的住宅団地における建築家の試み、規格化の展開、プレファブ集合住宅、大規模開発 (2014.6.14).
- N-6 団地原論⑥: 多様な団地管理の仕組み (川端宏幸(兵庫県住宅供給公社理事長)) ~ 公営、公団、公社の住宅管理、管理の外部化、家賃闘争、団地と政治集団 (2014.6.14).
- N-7 団地原論⑦: 住宅市場における3公住宅の位置づけ (森山秀二(BA)+鳴海邦碩) ~ 賃貸住宅市場の多様化、3公住宅の役割の変化、住宅のセーフティネット (2014.6.28).
- N-8 団地原論⑧: 社会潮流の変化と3公住宅団地の再編への取組みの実態 (田邊豪二(UR西日本支社)+江川直樹) ~ 少子高齢化、人口減、ストックの状況、建て替え・改善の実態 (2014.6.28).
- N-9 団地原論⑨⑩: まとめのディスカッションと講師・受講者による意見交換、交流会 (2014.7.05).
- N-10 団地再編①: 公共住宅政策の国際比較から (平山洋介) ~ 低所得者層、階層ミックス、コミュニティ、職業教育、米・英・仏など (2014.10.11).
- N-11 団地再編②: ヨーロッパにおける団地再編の空間的手法 (大坪明(武庫川女子大)+江川直樹) ~ 英、仏、独、減築、ミックス、緑地活用 (2014.10.11).
- N-12 団地再編③: ライフスタイルと暮らしのニーズの把握 (岡絵理子) ~ 高齢者、子育て層、新規来住者 (2014.10.18).
- N-13 団地再編④: 元気な暮らしの生み出し方 (岡絵理子) ~ 人と人のつながりデザイン、コミュニティデザイン (2014.10.18).
- N-14 団地再編⑤: 団地再編の考え方① 思いの編集と住環境 (星田逸郎+伴年晶(VANS)) ~ 暮らしの活性化、絆を生み出す、コミュニティのまとめ、住宅外機能の導入 (2014.11.01).

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

- N-15 団地再編⑥: 団地再編の考え方② 団地環境の評価と活かし方(井上洋司(背景計画研究所)+星田逸郎)～守り活かす要素の判定、微気候、空き家解消、住戸、住棟、空地改善、DIY 導入(2014.11.01).
- N-16 団地再編⑦: 団地環境再編のケーススタディ(江川直樹+田邊豪二(UR 西日本支社))～建て替え、ストック活用、制度の再編(2014.11.15).
- N-17 団地再編⑧: 団地環境再編のケーススタディとガイドライン(江川直樹)～目指すべき集住空間と再編のプロセス(2014.11.15).
- N-18 団地再編⑨⑩: まとめのディスカッションと講師・受講者による意見交換、交流会(2014.11.22).

<O. 報告書・パンフレット等>

- *12 O-1 関西大学地域再生センター団地再編プロジェクト, 「ダンチ de コンダテ in 男山団地 2015」(2016).
- *13 O-2 八幡市, 「男山地域再生基本計画」(2014).
- *13 O-3 八幡市, 「男山地域再生基本計画 よーい どん!!」(2014).
- *12 O-4 関西大学地域再生センター団地再編プロジェクト, 「ダンチ de コンダテ in 男山団地」(2014).
- *10 O-5 関西大学, 八幡市, UR 都市機構, 京都府, 「男山地域まちづくり連携協定『第 1 回年次報告会』」(2014).
- *9 O-6 八幡市, 「団地型分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討報告書」(2015).
- *10 O-7 関西大学, 八幡市, UR 都市機構, 京都府, 「男山地域まちづくり連携協定『第 2 回年次報告会』」(2015).

<P. 新聞記事・TV 報道、その他>

- *11 P-1 だんだんテラスでの取り組みについて, テレビ大阪「ニュースリアル KANSAI」, 2015.6.17 放送.
- *11 P-2 『『だんだん通信』好評、増部』, 京都新聞, 2015.5.29 付.
- *11 P-3 だんだんテラスでの取り組みについて, NHK「おはよう関西」, 2015.2.26 放送.
- *11 P-4 『『羨望』の団地、進む高齢化』, 読売新聞, 2015.2.12 付.
- *11 P-5 だんだんテラスでの取り組みについて, TBS「朝チャン」, 2015.2.12 放送.
- *11 P-6 まちの公共員・だんだんテラスでの取り組みについて, KBS 京都「京都ふらり」, 2015.1.8 放送.
- P-7 住み続けたい男山地域へ, けいはんタイムリー, 2015.1.1 付.
- *11 P-8 WEB サイト「男山団地 『UR×関西大学×八幡市』」, UR 都市機構, 2014.11.1 掲載.
http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama_danchi/kandai/
- P-9 だんだんテラスで開催した流しそうめんイベントについて, K-CAT「ほっとニュース」, 2014.9.1 放送.
- *11 P-10 「竹の工作教室 そうめん流し」, 京都新聞, 2014.8.30 付.
- P-11 「タイムズ 24 と関西大学、カーシェアリングによる団地再生の社会実験開始」, レスポンス(ニュースネットワーク), 2014.7.25 掲載.
<http://response.jp/article/2014/07/24/228445.html>
- P-12 「カーシェア利用促す実験 タイムズ 24・関大」, 日本経済新聞, 2014.7.25 付.
- *11 P-13 「男山の未来を考えるだんだんテラス」, 八幡市民児協だより, 2014.7.1 付.
- P-14 「重村氏らの作品が最優秀賞」, 建設工業新聞, 2014.6.27 付.
- P-15 「地域再生 若者が後押し」, 京都新聞, 2014.6.16 付.
- P-16 「団地再編のアイデア競う 子育てや高齢者の支援案に最優秀賞」, 毎日新聞, 2014.5.28 付.
- P-17 「UR 南花台団地再編設計コンペ 神奈川大最優秀」, 建通新聞, 2014.5.28 付.
- P-18 「UR 南花台団地再編設計コンペ最優秀賞決定」, 日刊建産速報, 2014.5.27 付.
- P-19 「最優秀賞など 4 点決まる UR 南花台の団地再編コンペ」, 日刊建設産業新聞, 2014.5.27 付.
- P-20 『『ニュータウン』再編アイデアを公開審査』, 産経新聞, 2014.5.27 付.
- P-21 「男山団地住民に情報誌 朝市や教室紹介」, 京都新聞, 2014.5.18 付.
- P-22 「集合住宅団地 再生の方策」, 公明新聞, 2014.3.15 付.
- *11 P-23 「だんだんテラスによろこそ」, まど, 2014.2.1 付.

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

	P-24 「日本初 UR 南花台団地を舞台に 団地再編提案設計コンペ 2013」, 日刊建産速報, 2013.12.24 付.
	P-25 「日本初 UR 南花台団地を舞台に 団地再編提案設計コンペ 2013」, 日刊建設産業新聞, 2013.12.24 付.
*11	P-26 「だんだんテラスオープン 地域住民の交流の場に」, けいはんタイムリー, 2013.12.1 付.
	P-27 「『団地再編住みよいまちへ 2012』展覧会・公園会の開催 関西大学・団地再編プロジェクトによる提案と公表」, 月刊ウエンディ, 2013,11.15 付.
*10	P-28 「男山団地再生を 八幡市関西大 UR が連携協定」, 京都新聞, 2013.10.26 付.
*10	P-29 「男山団地再生タッグ 八幡市関大 UR が協定」, 読売新聞, 2013.10.26 付.
*10	P-30 「男山に活力『住みたい・住み続けたい』地域へ」, 毎日新聞, 2013.10.26 付.
*10	P-31 「男山団地再生 関大の支援」, 産経新聞, 2013.10.26 付.
*10	P-32 「団地再生で関西大などと協定-京都府八幡市, 時事通信, 2013.10.25 付.
*10	P-33 「高齢化団地再生で連携」, 日本経済新聞, 2013.10.24 付.
*10	P-34 「UR・関大・八幡市協定書締結へ」, 建通新聞, 2013.10.24 付.
	P-35 「考えよう、男山地域の再生」, けいはんタイムリー, 2013.9.1 付.
	P-36 「男山再生へ意見飛び交う」, 京都新聞, 2013.8.5 付.
	P-37 「男山地域再生基本計画策定にむけて」, 広報八幡, 2013.8.1 付.
	P-38 「賃貸集合住宅団地における居住者による住戸改修実験-京都府男山団地 C2 号棟 305 号室の DIY 改修-」, 月刊ウエンディ, 2013.5.15 付.
	P-39 「団地再生研究で八幡市の男山団地に住む関西大大学院生」, 京都新聞, 2013.1.27 付.
	P-40 「男山団地イメチェン ぶち DIY 住民に提案へ」, 京都新聞, 2013.1.16 付.
	P-41 「ストックを活用し UR 団地再編を 関西大学が提案」, けいはんタイムリー, 2013.1.1 付.
	P-42 「団地再編プロジェクト住みよいまちづくりを目指して 2012」, ケーブルテレビ K-cat 「ほっとニュース」, 2012.12.18 放送.
	P-43 「団地再生の講演会」, 読売新聞, 2012.10.14 付.
	P-44 「団地再生 住んで研究」, 京都新聞, 2012.6.28 付.
	P-45 「lesje bouwen(レッスンを築く)」, De Telegraaf (2011.12.8).

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

「該当なし」

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

「該当なし」

<「中間評価時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

指摘事項① 「支出状況にかかわる書類が添付されていない。追加書面として、定型のものだけでなく、より詳細なものを提出すること」

指摘事項② 「社会的な連携に関する課題については、科学的な評価のみならず、社会的な外部評価を受けてほしい。」

指摘事項③ 「テーマと手法に解離がみられるような気がする。」

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

■指摘事項①「支出状況にかかわる書類が添付されていない。追加書面として、定型のものだけでなく、より詳細なものを提出すること」

中間報告時にある定型様式の「16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)」は、再度回答票に添付するとともに、その詳細について、追加報告した。

本研究プロジェクトは、実際の団地における実践的研究に発展展開し、研究者のみならず大勢の準研究員(大学院学生)や建築家、建築技術者との協働によるフィールドワークや改修整備等の実施を行っているため、交通費や報酬の割合が大きくなっている。中間報告指摘事項回答時点での支出内訳は、

- | | |
|-----------------------|-----|
| ① 消耗品、成果の印刷 | 17% |
| ② 交通費 | 16% |
| ③ 報酬(レクチュア、専門的作業への報酬) | 30% |
| ④ 人件費(特任研究員、PD、アルバイト) | 36% |

となっており、フィールド研究の特色を反映している。このことにより、すでに研究の成果で述べているように、短期間での男山団地での空き家の解消、世帯数の増加等の具体的な成果にもつながっており、研究費の支出の妥当性が伺える結果となっている。

■指摘事項②「社会的な連携に関する課題については、科学的な評価のみならず、社会的な外部評価を受けてほしい。」

各年度末に成果をとりまとめ、先端科学技術推進機構発行の『技苑』(Innovative Technology World)に発表しており、その際に併せてプロジェクト内で「自己(内部)評価会議」をそれぞれ実施した。

また、平成24(2012)年9月には、関西大学内の外部評価組織「外部資金審査・評価部会」において「研究プロジェクトの進捗状況評価」を受け、「内部評価会議」を実施している。[別紙資料05参照]

構想調書の計画では、本研究プロジェクトは、再編提案とそれらに対する住民や地域、事業主体からの検証を繰り返すなかで団地再編手法の技術開発研究を図ろうとするシミュレーション研究であったが、最初に提案の対象団地として取り上げた、京都府八幡市 UR 男山団地での研究・提案活動が、多くの関心、期待を集め、実践的研究活動に展開していった。そのため、行政(八幡市、京都府)、事業主体(UR 都市再生機構)との強固な連携体制、住民や地域との協働の可能性が大きく芽生え、この視点から、より実践的な具現化プロジェクトの実施、構想が可能となり、実践的、経験的研究活動を通しての検証や提案体制での研究活動を進める中で、申請時の計画どおり、平成24年度末に、2年間の研究成果と進捗状況に関する外部評価を受けた。[別紙資料06参照]

「外部評価委員会」は、平成25(2013)年3月11日及び28日に、当該分野に詳しい専門家委員3名に委嘱して実施した。委員は(1)元21世紀COEプログラム(首都大学東京)「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」(平成15年度採択)拠点リーダーの経歴を有する、首都大学東京都市環境学部教授(当時、現首都大学東京名誉教授)深尾精一氏、(2)元兵庫県まちづくり部長で、兵庫県住宅供給公社理事長(当時)の川端宏幸氏、(3)元UR都市再生機構九州支社長で(株)URサポート専務取締役、専務執行役員(当時：現代表取締役社長)の網野正親氏である。この3名から、実践的な団地再編手法の技術開発研究に相応しい研究活動を実行しているかの評価を受けた。

これら3名の外部評価委員は、学術的かつ科学的委員、社会的な実践領域に詳しい元行政委員、同じく元公的事業主体委員であり、科学的のみならず、社会的な連携に関する外部評価も受けていると考えている。もとより、建築学分野、特に住環境分野は、科学的側面と社会的側面を併せ持つ分野であり、特に留意して、研究活動に取り組んでいる。

外部評価では本研究の特質と期待に関して高い評価を受けたが、いただいた意見を反映し、誠実に研究活動を修正しつつ継続実施した。外部評価は、以降毎年度末に実施し、総合評価結果は下記のとおりであった。[別紙資料06参照]

平成24年度(研究2年度):中間評価時

4(=期待以上の成果)が2名、3(=期待どおりの成果)が1名であった。

平成25年度(研究3年度):中間評価指摘事項回答時

評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であった。

平成26年度(研究4年度)

4(=期待以上の成果)が2名、3(=期待どおりの成果)が1名であった。

平成27年度(研究最終評価)

評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であった。

以上が、外部評価、その後の経緯の詳細であり、科学的、社会的な外部評価を受けつつ、団地住民をはじめとする多くの関係者との協働により、本研究プロジェクトを進めた。指摘事項の趣旨を十分に考え、外部評価の意見を反映し、適切に軌道修正しつつ研究活動を行った結果、多くの成果につながった。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1101033

■指摘事項③「テーマと手法に解離がみられるような気がする。」点について

本プロジェクトは当初より以下の内容を研究により、明らかにすることを目的としている。

- ① “開かれた団地空間”へ再編するデザイン技法を明らかにする。
- ② 段階的に取り組むべき適正規模を明らかにする。
- ③ 導入される新たな機能やその配置方針を明らかにする。
- ④ 既存の住宅ストックや環境の評価システムを明らかにする。
- ⑤ 団地再編への公的支援、制度改革の方向を明らかにする。
- ⑥ 団地再編にかかる多様な主体間のコラボレーション・システムを明らかにする。

などである。

また、この研究の取り組みおよび成果について、ストックを生かした団地再編(再生・更新)は、団地だけでなく、まちづくり上の大きな課題であり、研究の成果は、研究者や専門家は言うに及ばず、広く住民や市民、行政職員、議員、次代を担う学生等の理解を得ることが重要であるとの考えをもち、研究活動や成果の一般へのわかりやすい方法での公表、社会ストック化に特に留意している。

実践的な団地再編(再生・更新)手法の技術開発研究に関する、テーマと手法の適切性に関しては、団地住民、地域住民、事業主体、行政をはじめとする多くの関係者からの賛同と協働、支援と意見交換を得て、本研究プロジェクトが進められていることその他、外部評価委員からも、その適切性に関する評価を得ている。以下は、平成25年度の外部評価の講評である。[別紙資料06参照]

【平成25年度】

項目1：本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？

- ・当初の計画以上に成果を挙げ、着実に研究が進展している。

項目2：特にすぐれている点

- ・多大な調査を行い、課題を整理し、実践的活動につなげるといふ、建築学に相応しいプロセスがしっかりと実行されている。

項目3：問題点・今後の課題

- ・昨年度の外部審査で指摘した公民連携については、八幡市における3者連携協定の成果を見た。

団地住民、地域住民、事業主体、行政をはじめとする多くの関係者からの賛同と協働や支援、意見交換を得て、本研究プロジェクトが進められていることその他、平成26年3月に実施した平成25年度の外部評価では、総合評価結果について、評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であったことから、テーマと手法は適切であると考えられたが、指摘事項の意味を常に念頭に置き、良く考えながら研究活動を継続実施したおかげで、最終外部評価の総合評価結果<評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)>を得たと考えている。

学術論文が少ない点に関しては、平成26年度9月に実施した関西大学内の外部評価組織「外部資金審査・評価部会」による「研究プロジェクトの進捗状況評価」の中で、本研究テーマの特質と研究内容の具体像から、学術論文評価に代わる具体的な研究活動の評価として高い成果評価を受け、また、外部評価委員の評価も同様であった。

以上、中間評価時点での指摘内容に関しては、誠実にその趣旨を十分に考え、反芻しながら研究活動を継続展開し、一層の研究成果をあげるよう努力した。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S11001033

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成23年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	15,000	5,000	10,000				
	研究費	35,947	18,519	15,998		0	0	1,430 企業等
平成24年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	44,079	17,754	10,905		3,200	0	12,220 市町村、企業等
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	54,201	20,361	9,950		5,950	0	17,940 市町村、企業等
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	53,727	19,451	9,076		6,350		18,850 市町村等
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	67,525	14,717	7,399		26,169		19,240 市町村等
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	15,000	5,000	10,000	0	0	0	0
	研究費	255,479	90,802	53,328	0	41,669	0	69,680
総計	270,479	95,802	63,328	0	41,669	0	69,680	

※平成27年度は予定額。

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
関西大学 学術フロンティア・コア	平成9年度	2,078.50m ²	26室	79人	620,000	294,500	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

法人番号	271014
プロジェクト番号	S11001033

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) なし				h			
(研究設備) 団地再編 シミュレーションシステム	平成23年度	1.加工部VLS6.60(30W) 2.入力部SIM-TypeBV3.0 3.出力部	1	848 h	15,000	10,000	私学助成
(情報処理関係設備) なし				h			

18 研究費の支出状況 (千円)

年度	平成	23	年度	積算内訳	
小科目	支出額		主な使途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出					
消耗品費	6,659		研究用物品	6,659	物品類(2,534)、ソフトウェア(619)、 図書資料(830)、器具類(2,676)
光熱水費	226		電気代	226	研究室電気代(226)
通信運搬費	92		小荷物運搬費	92	小荷物運搬費(92)
印刷製本費	126		印刷費	126	研究成果報告書(60)、文献印刷製本等(66)
旅費交通費	8,694		旅費・交通費	8,694	研究調査出張費(3,647)、準研究員交通費等(5,047)
賃借料	0			0	
報酬・委託料 (会議・会合費)	10,241 86		講演料・設備保守等 会議会合費	10,241 86	学外者講演料等(3,600)、電算業務委託費(1,455)、その他(5,186) 会議用食事代(86)
(その他の雑費)	1,789		宿泊費、論文投稿料	1,789	準研究員宿泊費等(1,784)、論文投稿料(5)
計	27,913			27,913	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	2,966		研究補助、 特別任用研究員	2,966	時給1,100円、年間時間数285時間、実人数1人(313) 月給379千円、7か月勤務、実人数1人(2,653)
教育研究経費支出	0			0	
計	2,966			2,966	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	898		70型タッチディスプレイ	898	70型タッチディスプレイ 1式
教育研究用機器備品	693		団地再編シミュレーションシステム アナログカメラ取付	693	団地再編シミュレーションシステム アナログカメラ取付
教育研究用機器備品	1,407		地盤パネル	1,407	各地区従前・従後地盤A1パネル 1式
図 書	0			0	
計	2,998			2,998	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	640		研究補助	640	学内1人、学外0人、外国0人
ポスト・ドクター	0			0	学内0人、学外0人、外国0人
研究支援推進経費	0			0	学内0人、学外0人、外国0人
計	640			640	学内1人、学外0人、外国0人、学振0人

法人番号	271014
プロジェクト番号	S11001033

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,929	研究用物品	3,929
光 熱 水 費	275	電気代	275
通信運搬費	162	運送料、郵券代	162
印刷製本費	1,662	印刷費	1,662
旅費交通費	1,996	出張旅費、交通費	1,996
賃借料	724	団地賃借料	724
報酬・委託料	6,993	作業委託費、講演料	6,993
(会議・会合費)	143	食事代	143
(諸会費)	40	登録料	40
(その他)	230	宿泊費、保険料、設備修繕費	230
計	16,154		16,154
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	8,785	事務補助、研究補助 特別任用研究員	8,785
教育研究経費支出	0		0
計	8,785		8,785
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	960	研究補助	960
ポスト・ドクター	2,760	共同研究者	2,760
研究支援推進経費	0		0
計	3,720		3,720
年 度 平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,311	研究用物品	3,311
光 熱 水 費	310	電気代	310
通信運搬費	72	運送料、郵券代	72
印刷製本費	1,312	印刷費	1,312
旅費交通費	2,144	交通費、出張旅費	2,144
賃借料	607	団地賃借料	607
報酬・委託料	7,455	作業委託費、講演料	7,455
(会議・会合費)	63	食事代	63
(諸会費)	104	登録料	104
(その他の雑費)	102	宿泊費	102
(設備修繕費)	1,077	団地室内修繕費	1,077
計	16,557		16,557
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	7,274	研究補助、事務補助、 特別任用研究員	7,274
教育研究経費支出			
計	7,274		7,274
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	960	研究補助	960
ポスト・ドクター	5,520	共同研究者	5,520
研究支援推進経費			
計	6,480		6,480

法人番号	271014
プロジェクト番号	S11001033

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,726	研究用物品	2,726
光 熱 水 費	242	電気代	242
通信運搬費	135	運送料、郵券代	135
印刷製本費	2,111	印刷費	2,111
旅費交通費	2,574	出張旅費、交通費	2,574
賃借料	692	団地賃借料	692
報酬・委託料	7,146	業務委託費、講演料、設備修繕	7,146
(会議・会合費)	109	会議に伴う食事代	109
(諸会費)	38	論文掲載費用	38
(その他の雑費)	155	研究員宿泊費	155
計	15,928		15,928
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	7,649	事務補助、研究補助 特別任用研究員	7,649
教育研究経費支出	0		0
計	7,649		7,649
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	960	研究補助	960
ポスト・ドクター	3,990	共同研究者	3,990
研究支援推進経費	0		0
計	4,950		4,950
年 度 平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	1,536	研究用物品	1,536
光 熱 水 費	265	電気代	265
通信運搬費	198	運送料、郵券代	198
印刷製本費	977	印刷費	977
旅費交通費	2,706	交通費、出張旅費	2,706
賃借料	1,262	団地賃借料	1,262
報酬・委託料	3,996	作業委託費、講演料	3,996
(会議・会合費)	61	食事代	61
(諸会費)	42	投稿料	42
(その他の雑費)	106	宿泊費	106
計	11,149		11,149
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,775	研究補助、事務補助	1,775
教育研究経費支出			
計	1,775		1,775
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	960	研究補助	960
ポスト・ドクター	8,232	共同研究者	8,232
研究支援推進経費			
計	9,192		9,192

学校法人名	学校法人 関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	集合住宅“団地”の再編(再生、更新)手法に関する技術開発研究		

平成 23 年度採択 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」 研究進捗状況報告書

別 紙 資 料

- 01- 研究メンバー、客員研究員、特任研究員、PD、RA、大学院生準研究員一覧
- 02- 外部の研究資金の導入状況
- 03- 男山地域まちづくり連携協定書(八幡市、UR都市機構、関西大学、京都府)
- 04- 研究活動・プロセスの概要
- 05- 内部評価資料(中間・事後)
- 06- 平成 24 年度～平成 27 年度 外部評価
- 07- (参考) 平成 25 年度団地再生における建築基準法 86 条(一団地認定)の
取り扱いに関する検討業務仕様書
- 08- シンポジウム、研究発表会、展覧会、だんだんカフェ、WS等の開催ポスター
- 09- 団地再編リーフレット Re-DANCHI leaflet 例

研究メンバー、客員研究員、特任研究員、PD、RA、大学院生準研究員一覧

【研究メンバー】平成 27 年度現在

	氏名	所属・職名
(共同研究機関等)	江川 直樹 代表	先端科学技術推進機構・地域再生センター長、理工学研究科・教授／建築家
	鳴海 邦碩	先端科学技術推進機構・地域再生センター・理工学研究科・客員教授
	岡 絵理子	先端科学技術推進機構・地域再生センター・理工学研究科・准教授
	橋寺 知子	先端科学技術推進機構・地域再生センター・理工学研究科・准教授
	高田 光雄	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻居住空間学・教授
	小玉 祐一郎	神戸芸術工科大学環境・建築デザイン学科・教授／建築家
	平山 洋介	神戸大学 発達科学部 人間環境学科・教授
	末包 伸吾	神戸大学大学院工学研究科・教授／建築家
	小浦 久子	神戸芸術工科大学大学院・芸術工学研究科・教授
	糟谷 佐紀	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科・准教授
	室崎 千重	奈良女子大学生生活環境学部・講師
	林 泰義	都市計画家・㈱計画技術研究所所長・特定非営利法人「玉川まちづくりハウス」運営委員
	藤本 昌也	建築家・㈱現代計画研究所会長
	安原 秀	建築家・元㈱ヘキサ・都住創代表
	星田 逸郎	建築家・㈱星田逸郎空間都市研究所代表
大坪 明	武庫川女子大学 生活環境学部・教授	

【客員研究員】平成 27 年度現在

氏名	所属・職名	氏名	所属・職名
角橋 徹也	まちづくり市民大学院・教授	藤岡 栄	京都府総務部自治振興課・参事
増永 理彦	神戸松蔭女子学院大学・教授、元UR都市機構	井上 洋司	ランドスケープデザイナー、株式会社背景計画研究所・代表取締役
菊田 純一	建築家・菊田建築計画研究所・代表	畑中 博	八幡市都市計画課・主幹
三谷 幸司	建築家・三谷都市建築設計室・代表	佐藤 健正	市浦ハウジング&プランニング・会長
谷川 順彦	兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課 住宅政策班 明舞団地再生担当	山本 茂	非営利活動法人 千里・住まいの学校 代表

【特任研究員・PD・RA】平成 27 年度現在

特任研究員	倉知 徹	関西大学先端科学技術推進機構・特任研究員
PD	宮崎 篤徳	関西大学先端科学技術推進機構・PD
RA	保持 尚志	関西大学大学院理工学研究科・博士後期課程

【特任研究員・PD・RA】平成 26 年度までの PD

PD	片岡 由香	愛媛大学・助教
----	-------	---------

【大学院生準研究員】

平成 27 年度準研究員		平成 26 年度までの準研究員	
関西大学大学院理工学研究科・博士後期課程	関西大学大学院理工学研究科・博士前期課程	関西大学大学院理工学研究科・博士前期課程（当時）・博士後期課程（当時）	
福本 優	岡本 悠志	山中 晃	石橋 宙明
	奥川 翔	中馬 啓太	今井 沙代
	河股 智矩	中野 圭介	大野 祥和
	福間 航	橋本 祐紀	徳永 真文
	山本 楓	高木 翔平	永井 竜太
	塚原 健司	因田 恭崇	鳴瀬 加奈子
	柴田 太郎	牧角 雄	村上 和弘
	銅田 匠馬	毛 程遠	山中 優
	大田 美奈子	熊崎 悠紀	川上 晋平
	奥野 智士		齊藤 愛
			水野 陽介
			佐々木 康人
			坂本 和哉
			増田 和起
			坂口 文彦
			中尾 礼太
			吉田 祐介
			吉浦 啓史
			辻村 修太郎
			芦田 康太郎
			植地 惇
			川辺 隼
			草田 将平
			近藤 拓也
			関谷 大志朗
			塗師木 伸介
			松浦 知子
			門田 晃明

別紙02

外部の研究資金の導入状況

【科学研究費補助金】

- (1) 「障害者の独立世帯形成における住宅条件」
糟谷佐紀、2015年4月1日～2018年3月31日(予定)、神戸学院大学、基盤研究(C)、1,950,000円
- (2) 「庭師とのコラボレーションによる環境配慮型住宅のローカルモデルの提案」
高田光雄、2014年4月1日～2016年3月31日(予定)、京都大学、挑戦的萌芽研究、2,860,000円
- (3) 「ポスト・クライシスの住宅供給システムに関する国際比較分析」
平山洋介、2014年4月1日～2017年3月31日(予定)、神戸大学、挑戦的萌芽研究、2,340,000円
- (4) 「地域のまちづくりと連携した市街地型公的住宅団地の再生に関する研究」
高田光雄、2012年4月1日～2016年3月31日(予定)、基盤研究(A)、34,970,000円
- (5) 「地球環境の持続可能性からみたりチャード・ノイトラの建築に関する建築意匠論的研究」
末包伸吾、2013年4月1日～2016年3月31日(予定)、基盤研究(C)、3,120,000円
- (6) 「東日本大震災からの住宅復興に関する被災者実態変化の追跡調査研究」
平山洋介、2013年4月1日～2016年3月31日(予定)、基盤研究(B)、13,780,000円
- (7) 「東日本大震災における被災要援護者の住環境に関する研究」
糟谷佐紀、2012年4月1日～2015年3月31日(予定)、基盤研究(C)、5,070,000円
- (8) 「生活課題解決型の住民活動による地域共助コミュニティの形成に関する研究」
室崎千重、2013年4月1日～2015年3月31日(予定)、若手研究(B)、1,690,000円
- (9) 「総合的計画管理のための景観-環境系アプローチによる空間計画の課題分析」
小浦久子、2011年4月28日～2014年3月31日(予定)、基盤研究(C)、3,900,000円

【受託研究】

- (1) 「「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業総合研究」
委託者:河内長野市、江川直樹、2015年度、24,369,000円
- (2) 「男山地域再生に係るコーディネート業務」
委託者:八幡市、江川直樹、2015年度、1,800,000円
- (3) 「「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業総合検討」
委託者:河内長野市、江川直樹、2014年度、2,000,000円
- (4) 「男山地域再生に係るコーディネート業務」
委託者:八幡市、江川直樹、2014年度、750,000円
- (5) 「(団地型)分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討委託」
委託者:八幡市、江川直樹、2014年度、3,600,000円
- (6) 「男山団地内における高齢者総合施設基本構想策定委託」
委託者:八幡市、江川直樹、2013年度、950,000円
- (7) 「男山地域再生基本計画策定」
委託者:八幡市、研究代表者:江川直樹、研究分担者:岡絵理子、鳴海邦碩、2013年度、5,000,000円
- (8) 「男山地域再生基本計画草案作成支援委託」
委託者:八幡市、研究代表者:江川直樹、研究分担者:岡絵理子、鳴海邦碩、2012年度、2,000,000円
- (9) 「男山地域再生・再編に関する住民意識調査研究」
委託者:八幡市、研究代表者:江川直樹、研究分担者:岡絵理子、鳴海邦碩、2012年度、1,200,000円

男山地域まちづくり連携協定書(八幡市・UR都市機構・関西大学・京都府) (2013年10月25日締結公表)

男山地域まちづくり連携協定書

男山地域は、日本住宅公団施行の土地区画整理事業により整備され、昭和47年の第1期入居以来40年以上が経過し、緑豊かな住宅地として成熟するとともに、世帯の高齢化も進んでいる状況にあります。

八幡市及び男山団地の所有・管理者である独立行政法人都市再生機構は、関西大学による「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」における男山地域・男山団地の再生に関する提案を踏まえて、関西大学とともに、男山地域のまちづくりに取り組んでいきます。

男山地域の将来を考えると、人口減少、少子高齢化の進行という日本の将来見通しと無縁ではなく、再び活力のある男山地域であり続けることを目指して、関係する三者が連携・協力してまちづくりに取り組むために、協定を締結します。

(目的)

第1条 本協定は、男山地域において八幡市(以下「甲」という。)、関西大学(以下「乙」という。)及び独立行政法人都市再生機構(以下「丙」という。)が「住みたい、住みつけたい、男山」を目指して、相互に連携・協力することに関し必要な事項を定めることを目的とします。

(連携・協力事項)

第2条 甲、乙及び丙は、次に掲げる事項について連携・協力します。

- (1) 次世代を育むまちづくりとして、子どもが豊かに育つために、地域で子育てを支えあい、ともに育ちあう、分かちあう環境づくりの導入・確立
- (2) 多世代が根を張るまちづくりとして、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられることを目指した「地域包括ケア」の確立
- (3) 地域に活力を呼び戻すまちづくりとして、地域及び団地が連携した新しい機能及び活動の導入・確立
- (4) 住民が主役となるまちづくりとして、地域の多様な活動主体の育成及び活動ステージの確保

(活動及び年次総括)

第3条 三者は、前条各号に掲げる事項について、三者が連携・協力して具体的な活動を推進するとともに、同事項全体の進捗状況等を確認するために、代表者及び部長クラスで構成する年次報告会を1年に1回程度開催するものとします。

(定めない事項等)

第4条 この協定に定めない事項及びこの協定に関して疑義が生じたときは、甲、乙及び丙が協議して定めるものとし、

本協定の締結の証として、本書を4通作成し、甲、乙及び丙並びに立会人記名押印の上それぞれ1通を保有するものとし、

平成25年10月25日

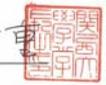
甲 八幡市長

堰口文郎



乙 関西大学学長

楠見晴重



丙 独立行政法人都市再生機構理事・西日本支社長

天西 誠



立会人 京都府知事

山田啓



別紙04

研究活動・プロセスの概要

□平成23年度（研究初年度）

- 01 団地再編関連事例等の既存調査、海外団地再編事例の調査分析、空間比較 53 団地（次年度に 15 団地追加）
- 02 模型製作・空間比較シミュレーション・システムの開発
- 03 海外団地再編事例の空間モデル比較
- 04 団地再編レクチュア（映像収録）の開催、web サイトでの公開～最終年度まで継続（現在 130 編 UP）
- 05 団地再編リーフレット発行、web サイトで公開～最終年度まで継続（現在 185 編 UP）
- 06 団地再編叢書刊行～最終年度まで継続（現在 12 編刊行）
- 07 実践フィールド団地の選定 case-01：京都府八幡市UR男山団地 case-02：西宮市浜甲子園4期エリア
- 08 KSDP 団地再編シンポジウム『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』の目指すもの（関西大学：2012.01.23）

研究初年度は、既存研究や関連分野の先進事例の調査分析、「団地再編レクチュアシリーズ」の開催、大学院学生と研究員、研究メンバーによる海外先進事例調査、先進事例の再編前後の空間比較モデル（模型）の作成、それらの成果を団地住民や関係者（事業者、行政）、学生、研究者を対象としてわかりやすく編集した「団地再編リーフレット」の発行、「団地再編叢書」の刊行、加えて、次年度の再編提案対象団地の選定を行った。レクチュアシリーズは以後も継続して実施、リーフレット、叢書の発行も、最終年度まで継続した。研究は当初計画通り、もしくは計画以上に進められた。

□平成24年度（研究2年度）

- 09（戦略的）勉強会の開催開始（関西大学、八幡市、京都府）
- 10 団地再編ガイドライン（トライアルー次案）の作成検討
- 11 男山団地内住戸居住実験（学生）開始
- 12 男山団地緑地樹木調査
- 13 男山団地空き住戸調査
- 14 男山団地住民それぞれの住まい歴調査～最終年度まで継続
- 15 男山地域再生・再編に関する住民意識調査研究（受託研究）
- 16 男山団地、地域住民の車利用実態調査
- 17 男山団地カーシェアリング利用意向調査
- 18 KSDP 団地再編提案の作成（case01 男山）
- 19 研究成果と男山団地再編提案の公表、KSDP 団地再編プロジェクト展覧会「団地再編・住みよいまちへ2012」（大阪市立住まい情報センター：2012.11.08-12、吹田市千里ニュータウンプラザ：12.05-09、八幡市文化会館：12.14-18）（東京新宿パークタワー：2013.03.25-27）
- 20 提案の検証（だんだんワークショップ、だんだんカフェ、だんだんギャラリー等）～継続実施
- 21 男山団地 Petit DIY 改修実験
- 22 男山地域再生基本計画草案作成支援委託（受託研究）
- 23 集住再生再編事業（団地型分譲住宅を考える）研究会開催
- 24 吹田市立博物館千里ニュータウン半世紀展 吹田市立博物館50周年記念講演「団地再生の夢」（吹田市立博物館：2012.10.13）
- 25 公共住宅セミナー「今後の公共ストックのあり方・団地再編」（大阪OMEビル：2012.11.5）
- 26 KSDP 団地再編提案（case-02 浜甲子園4期エリア）の作成、公表、検証（メンバー間）
- 27 研究発表会「団地再編への挑戦—団地の「まち」づくり」（関西大学：2012.07.14）
- 28 研究発表会「日本における集合住宅団地の再編方向を探る」（関西大学東京センター：2012.10.06）
- 29 KSDP 団地再編シンポジウム「ストック活用時代の大規模団地再編への視点と、住民参加による団地再生への視座」（関西大学：2013.01.23）<<http://ksdp.jimdo.com> vol.114>
- 30 団地再生シンポジウム講演「“コラボレーション”と“リアリティ”を探る—公共的な団地は地域全体の住生活資産」（東京ガス本社：2013.03.27）
- 31 第一回外部評価

研究2年度目は、当初計画に沿って、[case01]として選定した男山団地を対象に、各種調査と併行し再編提案を策定、海外事例等の研究成果と併せ、現地住民だけでなく広く一般公開展示し、課題の社会共有化と検証を目指した。提案は団地再生に取り組む関係者からの大きな関心を得た。提案の検証作業を通して、将来への持続的な団地環境への再編と、現住民の不満の解消、そのための環境再整備、それらを進める仕組み、制度等の再編整備を同時に進めることの必要性が確認できた。研究活動は、八幡市、京都府と課題の模索、認識の共有化を図りつつ進めることができた。中でも、大学院生による Petit DIY 改修実験は、住民自らが参加する家づくりとして、その後の団地環境再編への方向性の共有に大きな影響を与えた。再編提案[case02]浜甲子園団地4期エリア（西宮市）は、建て替えによる団地再編が進む団地の計画未定エリアを対象に、ストック活用型の提案を策定公表した。研究は当初計画を超えた実践を含んで進められ、外部評価を実施し意見の聴取を図った。

□平成 25 年度（研究 3 年度）

- 32 男山団地事業主体・UR 都市機構との協働開始（戦略的勉強会への参加開始）～継続実施
- 33 男山団地再編への提言を作成、公表
- 34 団地再編ガイドライン（トライアル二次案）の作成検討
- 35 男山団地中央センター再編提案の作成、公表
- 36 男山地域のまちづくりに関する連携協定の締結（2013.10.25）～継続・期限ナシ
- 37 365 日オープン住民コミュニティ拠点「だんだんテラス」の開設（2013.11.16）～継続運営
<https://www.facebook.com/dandanterrace>
- 38 「男山地域再生基本計画策定（八幡市と協働）」（受託研究）
- 39 （男山地域をモデルとする）団地型分譲住宅エリアの再編提案作成、公表
- 40 公的賃貸住宅団地の駐車場設置実態調査
- 41 駐車場附置義務に関する実態調査（大阪府下全自治体）
- 42 まちを元気にする人と仕組みの調査～次年度に継続
- 43 3 公住宅事業者連携勉強会の開催～継続実施
- 44 関西主要ニュータウンの現状と課題、再生に向けた取組の把握研究（その 1）～次年度に継続
- 45 団地再編コンペ（case-03 河内長野市 UR 南花台団地を対象エリア）の実施、KSDP 再編提案の作成、公表～次年度まで継続
- 46 「団地再生における建基法 86 条の取り扱いに関する検討会（UR 都市機構開催）」参加
- 47 健康福祉分野を中心とした男山地域再生プロジェクト（京都府、八幡市、関西大学、UR 都市機構）-絆ネット構築支援事業（事業主体：八幡市社会福祉協議会）開始～継続中
- 48 男山地域安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクト（京都府、八幡市、関西大学団地再編プロジェクト、UR 都市機構、京都府警⇒後に「だんだんテラスの会」）開始～継続中
- 49 男山団地内における高齢者総合施設基本構想策定委託（受託研究）
- 50 研究発表会「協働する学生のチカラ」（関西大学：2013.12.12）
- 51 KSDP 団地再編シンポジウム「地域をつなぐ」（関西大学：2014.01.23）
- 52 第二回外部評価

研究 3 年度目は、男山団地での再編提案に対して事業者からの一定の評価と期待感を得て、新たに UR 都市機構（ストック再生チーム）とも協働しつつ研究活動が展開できることとなった。秋には、八幡市、関西大学、UR 都市機構間で連携協定を締結（京都府立会い）し、365 日オープンの住民コミュニティ拠点「だんだんテラス」を団地内に開設した。さらに、団地を中心とした地域再生を図る「男山地域再生基本計画」を八幡市と協働で策定し、翌年から実施している。また、空き家の多い郊外型の典型団地として、[case03]南花台団地（河内長野市）を取り上げ、仮想の対象地とした団地再編コンペを全国規模で実施し、多くの参加を得て、団地再編への課題の認識と研究活動・方向性の社会共有化を目指した。[case04]桃山台（吹田市）は、形成されてきた公営住宅団地の屋外環境をストックとして生かす建て替えの提案で、行政計画のカウンタープランとして提案策定し、公表した。研究は当初計画を超える実践的な展開を見せ、外部評価を実施し意見の聴取を図った。

□平成 26 年度（研究 4 年度）

- 53 男山地域再生に係るコーディネート業務、地域再生コーディネーターの配置（受託研究）～継続実施
- 54 男山「だんだんテラスの会」の設立、住民主体の運営方策検討開始～継続実施
- 55 男山団地子育て支援住戸・階段室改修「ダンチ de コソダテ in 男山団地」実施（UR 都市機構と協働、2 月公募入居）～次年度も継続
- 56 男山団地子育て支援施設「おひさまテラス」開設、運営支援（UR 都市機構、八幡市と協働、地域住民団体により 12 月運営開始）
http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama_danchi/kandai/
- 57 男山団地「だんだんテラス」でのカーシェアリング社会実験を開始～継続中
- 58 男山団地 DIY ラボ開設、在共住者（居付き住戸）セルフリノベーション改修システム（原状回復義務免除）の検討開始～継続実施
- 59 「男山地域まちづくり連携協定第 1 回年次報告会」の開催（2014.11.27）
- 60 京都府公共員制度設置、男山地域で申請、採択（八幡市と協働）
- 61 「男山やってみよう会議（だんだんテラス、関西大学大学院生、団地住民、地域住民、八幡市が協働）」開始～継続実施
- 62 男山団地内における高齢者総合施設開設支援～継続中（平成 27 年度秋開設予定）
- 63 八幡市「（団地型）分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討委託（八幡市と協働）」（受託研究）
- 64 団地再編コンペ 2 次公開審査、作品展示（河内長野市：2015.05.25）
- 65 団地再編コンペ全作品集の発行
- 66 河内長野市 UR 南花台団地を中心とする地域再編：再生実践研究活動を開始、住民意向調査ワークショップを開始、「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合検討（大阪府、河内長野市、住民組織、民間企業等と協働）」（受託研究）～継続実施
<https://www.facebook.com/nankadai.kawachinagano>
- 67 KSDP 団地再編提案の作成（case-04 南千里桃山台公営住宅建替）、公表

- 68 団地再編専門家養成セミナーの開講（団地原論、団地再編 全 20 回）
- 69 KSDP 団地再編パネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」（関西大学：2014. 07. 12）
- 70 団地再編ガイドライン-3 の検討（団地再編専門家養成セミナーを通して）
- 71 団地再生シンポジウム パネルディスカッション「100 年続ける団地再生活動の本質を考える-団地再編推進の現状を踏まえて」（東京ガス本社：2014. 04. 18）
- 72 団地再編コンベンション「『団地再編』持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-」（大阪：2014. 07. 16）
- 73 公共住宅セミナー「『団地再編』持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-」（大阪：2014. 07. 17）
- 74 研究発表会「南花台スマートエイジング・シティモデル団地再生事業を巡って」（関西大学東京センター：2015. 01. 10）
- 75 KSDP 団地再編シンポジウム「団地と地域の再生-大学との連携を振り返って」（関西大学：2015. 01. 23）
- 76 第三回外部評価
- 77 団地再編先進事例追加調査（科研費、受託研究費で実施）

研究 4 年度目は、男山団地で、だんだんテラスの運営を進めつつ、UR 都市機構と協働して、現代的ニーズへの住戸改修の実施と公募、子育て支援施設の開設等（ダンチ de コソダテ in 男山団地）を実践し、一定の成果を得て、次年度以降に更なる試みが可能となった。それらの実践のための調査や検証は大学院生の修士論文となり、新たな試みを進めるための根拠となった。団地再編、地域再生を大学と協働する効果と意味、可能性といった点でも関係者間で多くのことが共有でき、年度末開催のシンポジウムでは、八幡市長より連携成果についての報告を得た。プロジェクトの研究成果を基に、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の行政、研究者等の参加を得て開催し、従前にはなかったテキストの発行（団地再編叢書 vol. 11）に繋げた。セミナー開催に併せて、団地再編パネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」を開催し、団地活性化・再生マネジメントに関する考察を深めた。[case03]南花台でも、「スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合検討」として、団地を中心とする地域の再生を狙った実践的研究活動を開始した。研究は当初計画を超える実践的な展開を見せ、外部評価を実施し意見の聴取を図った。

□平成 27 年度（最終年度）

- 78 男山団地平成 26 年度「ダンチ de コソダテ in 男山団地」の検証
- 79 男山団地平成 27 年度「ダンチ de コソダテ in 男山団地」新タイプと普及バージョンの実施（UR 都市機構と協働）
- 80 男山団地居付き住戸セルフリノベーション改修システムの実験実施（UR 都市機構と協働）
- 81 男山団地 A 地区における、屋内外の鉄部再塗装による居住者参加型団地改修整備手法の開発と実施（UR 都市機構と協働）
- 82 男山団地センター地区歩道橋の住民参加型改修整備実施（UR 都市機構と協働）
- 83 男山団地 1 階住戸のコンバージョン検討（UR 都市機構と協働）
- 84 男山団地緑道マルシェ（移動車両を活用）実験
- 85 男山団地外部空間パレットキオスク仮設空間整備実験
- 86 「南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合研究（大阪府、河内長野市、住民組織、UR 都市機構、地域企業、他民間企業等と協働）」（受託研究）～次年度以降も継続実施
 - ・南花台地区商業施設鉄部の再塗装による住民参加型改修整備「塗ってみよう会」実施
 - ・南花台地区商業施設内に住民コミュニティ拠点整備
 - ・南花台住民拠点の運営手法の検討（河内長野市、住民組織、民間企業等と協働）
 - ・南花台子育て・子育て環境整備プロジェクト検討（河内長野市、住民組織等と協働）
 - ・南花台空き家・空き地等ストック活用プロジェクト検討（河内長野市、住民組織、民間企業、UR 都市機構等と協働）
 - ・南花台生きがい就労プロジェクト検討（河内長野市、住民組織、科研費プロジェクト、民間企業等と協働）

<http://www.facebook.com/nankadai.kawachinagano>
- 87 第四回外部評価
- 88 「男山地域まちづくり連携協定第 2 回年次報告会」の開催（2015. 10. 30）
- 89 KSDP 団地再編プロジェクト・団地再編技術指針「ストック活用型団地再編への展望【前編】【後編】」の出版
- 90 KSDP 団地再編シンポジウム（総括）の開催
- 91 団地再編研究・連携実践・人材育成拠点の整備運営方策の検討

成果報告書（団地再編技術指針）の取りまとめと併行し、八幡市男山団地と河内長野市南花台地域において、団地再編、地域再生への実践的研究活動、実践の取り組みを継続展開している。男山団地では、連携協定締結時（平成 25 年末）に基本構想を策定した「地域包括ケア（高齢者関連）複合施設」が 11 月にオープンし運営を開始した。また、現代的ニーズへの住戸改修プログラムの継続実施、在居住者（居付き住民）による原状回復義務の不要なセルフリノベーションシステムのモデル実験が実施され、制度の再編を検討した。住戸内外の鉄部のサビや塗装のはがれの解消に向け、住民参加型の環境再整備を実施した。これらによって年度末には、（一部ではあるが）外部環境の面からも、進行している団地再編が目に見えるカタチとなって具現化した。南花台地区では、前年度の検討を受け、事業実施に向けた取組み「スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合研究」を開始、住民コミュニティ拠点の整備を始め多くの取り組みを、本プロジェクトが総合コーディネーター役となり、関係者協働で同時多発的に開始している。研究は当初計画を超える実践的な展開を見せ、これまでの研究活動を総括した外部評価を 7 月に実施し、併せて、男山団地での研究活動に関する現時点での行政及び事業主からの評価をまとめた。

[自己評価 (中間)] 「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に係る
研究プロジェクトの進捗状況チェックシート

(評価者)

プロジェクト名: 集合住宅“団地”の再編 (再生・更新)手法に関する技術開発研究	
研究期間: 平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	研究代表者(評価責任者): 江川 直樹
評価対象期間: 平成 23 年 4 月 ~ 平成 24 年 9 月	評価日: 平成 24 年 9 月 28 日

上記の評価対象期間における本研究プロジェクトの研究進捗状況等は、以下のとおりである。

1. 研究組織について

① 研究プロジェクトを効率的・効果的に遂行するための責任ある研究体制となっているか。

はい【状況について: 戦略基盤団地再生(KSDP)プロジェクト室に、特任研究員、PD、定時事務職員、RA、を配し、毎週連絡会議を開催し、学内研究員、準研究員が中心となり、学外メンバー、客員研究員と連携して協同で研究(技術開発)に励んでいる。

プロジェクト室の構成ー特任研究員: 倉知徹、PD: 宮崎篤徳、定時事務職員: 片岡由香、定時事務職員: 高岡淑恵、

RA: 保持尚志

プロジェクト代表: 江川直樹、副代表: 岡絵理子、監修: 鳴海邦碩 + その他の研究メンバー

客員研究員(下記 7.に記載)、準研究員(院生)、協力研究者(委託先)】

いいえ【理由と対応策】

② 研究者間・研究チーム間の調整・連携はとられているか。

はい【状況について: 分担研究というよりは協同研究なので、研究の推移に応じ、協働作業及び意見交換を図りながら連携している。】

いいえ【理由と対応策】

③ 研究支援体制は整っているか。

はい【状況について: 総合的に、本学研究支援課の支援を受けており、通常の事務的には、先端科学技術推進機構の支援を受けている。研究面では、様々な実務面に詳しい客員研究員(下記 7.参照)の協力、行政やUR等のサポートを受けている。また、具体的な提案の場所に関して、京都府、八幡市、UR 都市機構から多大な支援を受けている。

本研究成果の公表の主要な機会となる展覧会開催に際しては、都市住宅学会関西支部、大阪市住まい情報センター、吹田市、八幡市から支援・協力(会場提供等)を受けている。】

いいえ【理由と対応策】

④ 大学院学生・PD 等を活用し、若手研究者の育成を行っているか。

はい【状況について: 上述のように、特任研究員、PD、RA、準研究員 等を活用・協働し、若手研究者の育成を図っている。】

いいえ【理由と対応策】

⑤ 共同研究機関等との連携はとられているか。

はい【状況について: 学外メンバーとの協働、技術開発研究を支えるUR都市再生機構や行政(八幡市、京都府)との連携を図り、協働している。】

いいえ【理由と対応策】

2.研究施設・設備等の利用について

①研究施設の整備、プロジェクトに適合した装置設備の整備、装置・設備の利用はなされているか。

- はい【状況について： 導入したシミュレーションシステムを活用して、検証・提案・伝達等を行っている。】
いいえ【理由と対応策 】

3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について

①構想調書提出時(中間評価を終えた拠点では進捗状況報告書提出時)の計画と対比して、研究は進展しているか(達成度)

- はい【状況について： 本年度末までで、予定している2年間の研究内容は実施できる予定。】
いいえ【理由と対応策 】

②当初計画と差異が生じているか。

- 生じていない【状況について： 調査の対象地が増え、作業が増えたこと、居住者の動態調査が本年度 9 月以降にずれ込んでい
ることはあるが、基本的に差異は生じていない。】
生じている【理由と対応策 】

③克服すべき問題点は生じているか。

- 生じていない
生じている【理由と対応策 】

④今後の研究方針(最終年度の場合は、期間終了後の展望)は確立しているか。

- はい【方策について： 今のところ申請書の予定通りである。】
いいえ【理由と対応策 】

⑤構想調書に記載したメンバー全員の研究成果は公開されているか。

- はい【状況について： 分担研究というよりは協同研究であり、本年度 9 月までの研究成果は、後述のように、3 会場による展覧会
で公表するほか、各自の研究活動については個別に公表している。その他、団地再編リーフレットの作成、団地再編叢書な
どのほかに、各人適宜成果の公表を行っている。また、実務建築家等は、関連する自身の設計業務などで成果を社会化し
ている。】
いいえ【理由と対応策 】

4.評価体制について

①自己評価は実施しているか。

- はい【状況について 】
いいえ【理由と対応策： 実質一年間が終わったので、今回に併せて昨年度分を実施し、年度末に今年度分を実施する予定。】

②外部評価は実施しているか。

- はい【状況について 】
いいえ【理由と対応策： 現在 2 年目の半分である。申請書には本年度末に実施することになっているので、先端科学技術推進機
構のルールにのっとって、同様に実施したい。】

※3 年目及び 5 年目の年度当初のみ、外部評価結果の概要を添付してください。

③評価結果を反映しているか。

はい【状況について】

いいえ【理由と対応策: 該当せず、未実施のため】

5.外部の研究資金の導入状況について

①当該プロジェクトに関連する受託研究等、指定寄付、科研費等について獲得しているか。

はい【状況について】

●受託研究:

08「男山地域再生・再編に関する住民意識調査研究」、八幡市、江川直樹(代)、岡絵理子、鳴海邦碩、

2012.09(契約締結日)-2013.03.29、¥1,200,000 円

07「JR吹田駅前鉄骨長屋商店街の再生(活性)に関する研究」、NPO法人JR吹田駅周辺まちづくり協議会、岡絵理子

2012.08.23-2013.03.31、¥1,000,000 円

06「明舞団地再生展開事業福祉のまちづくり点検事業」、兵庫県、西垣千春(代)、糟谷佐紀、2012.06.01-2013.02.28、¥338,100 円

05「吹田操車場跡地まちづくりランドデザイン検討業務」、吹田市、江川直樹(代)、2012.04.24-2012.11.30、¥10,000,000 円

04「東日本大震災からの生活再建と住宅・都市復興」、三井物産環境基金、平山洋介(代)、2011.04.01-2012.09.30、¥5,591,000 円

03「利用者を理解した建築専門家育成のための仕組みづくりに関する実践的研究～日本と韓国を対象として～」、ユニバーサル財団、

趙政姫(代)、室崎千重、2011.10.01-2012.09.30、¥700,000 円

02「既存木造住宅での車いす操作性の評価に基づいた住環境整備のための簡易指標の構築」、(公財)大同生命厚生事業団、

室崎千重、2011.09.01-2012.10.31、¥300,000 円

01「良好なUR住宅団地の再生(浜甲子園団地第Ⅱ期に関する提案研究)」、株式会社 三弘建築事務所、江川直樹、

2011.08.02-2012.06.20、¥420,000 円

●科研費:

09「地域のまちづくりと連携した市街地型公的住宅団地の再生に関する研究」、高田光雄、2012.04.01～2016.03.31(予定)、研究分野:

都市計画・建築計画、研究種目:基盤研究(A)、研究機関:京都大学

08「東日本大震災における被災要援護者の住環境に関する研究」、糟谷佐紀、2012.04.01～2015.03.31(予定)、研究分野:都市計画・建

築計画、研究種目:基盤研究(C)、研究機関:神戸学院大学

07「持続可能な発展の重層的環境ガバナンス」、植田和弘(代)、高田光雄、2012.04.01～2013.03.31(予定)、研究分野:持続可能な発

展の重層的環境ガバナンス、研究種目:特定領域研究、研究機関:京都大学

06「総合的計画管理のための景観-環境系アプローチによる空間計画の課題分析」、小浦久子、2011.04.28～2014.03.31(予定)、研究分

野:都市計画・建築計画、研究種目:基盤研究(C)、研究機関:大阪大学

05「環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態をめぐる学術的研究」、野間晴雄(代)、岡絵理子、2010.04.01～2014.03.31(予

定)、研究分野:人文地理学、研究種目:基盤研究(A)、研究機関:関西大学

04「原風景ヒアリング法を用いた文化的景観における動的オーセンシティの評価法」、神吉紀世子(代)、小浦久子、2010.04.01～

2013.03.31(予定)、研究分野:都市計画・建築計画、研究種目:基盤研究(B)、研究機関:京都大学

03「タウンハウス団地の住み手の改変行為による生活景の評価と更新手法に関する研究」、三輪康一(代)、末包伸吾、2010.04.01～

2013.03.31(予定)、研究分野:都市計画・建築計画、研究種目:基盤研究(C)、研究機関:神戸大学

02「出産・育児・就労に関わる女性のライフコースと住宅条件」、平山洋介、2010.04.01～2013.03.31(予定)、研究分野:都市計画・建築計

画、研究種目:基盤研究(C)、研究機関:神戸大学

01「居住文化育成の視点からみた持続可能な都市・地域デザイン—関西圏を中心として—」、高田光雄、2006年度～2011年度、研究

分野:持続可能な発展の重層的環境ガバナンス研究種目:特定領域研究、研究機関:京都大学

いいえ【理由と対応策】

6.留意事項への対応について

①採択時の意見または留意事項への対応について

該当なし

7.特記事項

研究者の変更が生じた場合はその旨を記入

- 【 ・研究員の追加 大坪明(武庫川女子大学教授) 研究メンバー充実の為
・研究員の削除 柏木大輔(都市再生機構) 業務上の理由により ⇒UR都市再生機構との研究協力体制は継続している。
・客員研究員体制の充実
角橋 徹也 まちづくり市民大学院 教授
増永 理彦 神戸松蔭女子学院大学 教授
藤岡 栄 京都府 参事
真鍋 仁 八幡市 次長
久光 弘記 兵庫県 明舞団地再生係長
三谷 幸司 三谷都市建築設計室 代表
菊田 純一 菊田建築計画研究所 代表
佐藤 健正 株式会社市浦ハウジング&プランニング 会長 】
- ・準研究員との協働
平成 24 年 9 月現在、準研究員(本学大学院修士)が 18 名登録活動中

※用紙が足りない場合は適宜複写してください。

[自己評価審査結果(中間)] 外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 25 年 1 月 15 日

研究代表者
理工学研究科
江川 直樹 教授研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長
(戦略的研究基盤形成支援事業関係)
前田 裕

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 25 年度に中間評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援(進捗管理)の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要(3年目)」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

なお、今回は、専門的な研究内容よりも、共同研究としての組織的な取り組みが行われているかどうかという観点を中心に検討いたしました。

研究進捗状況報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

記

項目	コメント
1. 研究組織 について	1-④：(若手研究者)具体的に育成という観点から、どのような活動を行っているかについて記載できないでしょうか。
	1-⑤：(共同研究機関等との連携)どのような頻度で、どのような形(意見交換会、合同発表会など)で、連携を取っているのか、具体的に書く事は出来ないでしょうか。
	構想調書ではいくつかの研究課題・目標が明示されているが、それに基づいた研究班編制が行われているわけではないので、研究グループ内での有機性・共同性は読み取りがたい。研究代表者による「分担研究ではない」という文言は、そこを強調しているのだろう。その意味では、共同研究としての問題が顕在化しているわけではない。
	研究組織は多くの学外メンバーが参加しており、多方面から研究を遂行していると言える。また、特任研究員、PD、定時事務職員、RAも研究に参加しており、若手研究者の育成に力を注いでいると言える。
	おおむね妥当と考えます。 ④大学院学生… に関しましては、具体的な数字を示した方が良いと思います。 参加大学院生の数(修士、博士)、院生、PD、RA共に発表論文数など。
	適正と判断される。ただし、メンバー・グループの役割・関係と、組織の中でのメンバー・グループの位置づけを明らかにし、組織として共同研究を推進している様子を明確化

外部資金審査・評価部会からの意見等

	しておくことが望ましい。
2. 研究施設・設備等について	2-①：(導入したシミュレーションシステム) 導入したシステムの名称、設置場所、稼働時間などについても記載されてはいかがでしょうか。
	設備として唯一導入計画のあった団地再編シミュレーションシステムは、初年度から機能しているようなので、その意味では問題ない。これからどのような成果が上がったのかは、よくわからない。 学術フロンティアセンサーのスペースも、恒常的に稼働していると思われる。
	3年目の中間報告ではもう少し具体的な装置の概要とその成果例が必要と思われる。写真等を交えて説明してはどうか。
	具体的な内容がほしいです。(これですと、通り一辺倒) 何件くらいの撮影をして、どのくらいの時間使用しているのかなど。
	適正と判断される。 ただし、「シミュレーションシステムの活用による検証・提案・伝達」については、専門外の者にも理解できるよう、説明上の工夫が必要かもしれない。
3. 研究計画の進捗(達成)状況・研究成果等について	3-①：(「本年度末までに予定している研究内容は実施できる予定」という部分について) 可能な限り具体的に記述することができないでしょうか。
	3-④：(今後の研究方針) 今後の主要な計画なども記載してより具体性を出されてはいかがでしょうか。
	頻繁なレクチャー、その一部を動画配信するなど、積極的な外部発信が行われていることは評価できる。また研究目的からして、リーフレットを継続して刊行していることも有効であると判断できる。 ただ、当初の年次計画では、「団地再編技術指針(一次案)」が2年目にはできあがり、また2年目中に二次案へのバージョンアップがはかられることになっていたが、それはどうなっているのだろうか。
	報告書を見る限り、研究は順調にスタートしたものとする。 各メンバー・各グループが十分に成果を上げており、適正と判断される。 メンバー・グループが共同・連携して成果を上げた証拠も、連名で執筆された「技苑」に見られる。今後も引き続き、共同・連携の証拠が連名論文等として残ることが望ましい。 「3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要」においては、構成メンバーの誰が行ったものであるかを明記することによって、共同・連携の実態が見えるようにしておくことが望ましい。
4. 評価体制について	4-①：(自己評価) 反省会など自己評価に該当する会議は行われていないのでしょうか。
	4-②：(外部評価) 具体的な審査予定者のご所属・ご氏名などを記載することはできないでしょうか。
	はやく実施されたい。 現時点では問題なし。

外部資金審査・評価部会からの意見等

	<p>来年には、記述できるように予定通り進めてください。</p> <p>早急に自己評価を行い、その記録を具体的に残すことが望まれる。</p>
5. 外部の研究資金の導入状況について	<p>問題なし。</p> <p>研究機関：関西大学における科研費をもう少し導入できることを望む。</p> <p>外部資金が積極的に導入されているため、適正であると判断できる。 「本組織として」、あるいは「本組織を構成する複数のメンバー・グループが共同して」獲得した資金が一つでもあれば更によからう。</p>
6. 留意事項への対応について	<p>該当せず。</p>
7. 特記事項について	<p>客員研究員も充実し、全く問題ない。</p> <p>研究者の変更が生じた際には、当該研究者の組織の中での役割・位置づけを明確にするとともに、改めて変更後の組織の全体像が見えるようにしておくこと、また、それを構成メンバーが認識しておくことが望ましい。</p>
8. 総合所見	<p>内部評価、外部評価に関する記述を充実させる事は出来ないでしょうか。</p> <p>研究課題の性格からすると、進捗度合を明示的に記すためには工夫が必要と思われる。団地の分析やシュノーケルカメラを活用しての成果はあがっていると判断されるので、外部評価などからの視点を取り入れて、見える「カタチ」を出すことに留意されれば、大きな問題はない。</p> <p>昨今、70年代に出現した団地の再活性化が頻繁に取り上げられるようになり、国交省でもプロジェクトが立ち上がったように記憶しているが、そうした動きとのコラボレーションなどは企画・実施されてきたのだろうか。本研究課題に対する社会的・政策的関心が高まっている機会を逃してはいけません。</p> <p>研究報告も活発に行われており、研究開始1年半の段階として、順調に研究が進められていると判断する。</p> <p>おおむね妥当と考えます。</p> <p>組織を構成する各メンバー・各グループが精力的に研究を進めている。</p> <p>メンバー・グループの役割・関係と、組織の中でのメンバー・グループの位置づけを明かにしておき、組織として共同研究を推進している様子を明確化しておくことが望ましい。</p> <p>また、組織として共同研究を推進してきたことが分かるようにするために、メンバー・グループが共同・連携して成果を上げた証拠が、連名論文等として残すよう今後も努めてほしい。</p>

以上

[自己評価(事後)]

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に係る
研究プロジェクトの進展状況チェックシート

(評価者)

プロジェクト名:集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究	
研究期間:平成23年度～平成27年度	研究代表者(評価責任者):江川直樹
評価対象期間:平成24年10月～平成26年9月	評価日:平成26年9月30日

上記の評価対象期間における本研究プロジェクトの研究進捗状況等は、以下のとおりである。

1.研究組織について

①研究プロジェクトを効率的・効果的に遂行するための責任ある研究体制となっているか。

はい【状況について:本研究は、集住環境に経験や造詣の深い実務建築家、都市計画家、実践協働経験のある研究者16名(本学5名)による構成が特色である。研究代表者は、公的賃貸集合住宅団地や集住環境の再生プロジェクトに成果(学会賞等多数受賞)があり、大規模団地の課題に詳しいプロフェッサー・アーキテクトである。研究は、関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター内のKSDP 団地再編プロジェクトを研究拠点として、空間、コミュニティ、制度・マネジメントの3つの研究部会の主査を本学メンバー(空間は研究代表者)が務め、代表者がアーキテクトの特質を活かし総合化する。調査分析、提案、フィールドでの実践、検証、その他成果の公表等、3人の主査が協働し、代表者の責任で遂行する。拠点の運営は、研究代表者が特任研究員、PD、RA、大学院学生等を主導し、協働で行っている。】

 いいえ【理由と対応策

】

②研究者間・研究チーム間の調整・連携はとられているか。

はい【状況について:本研究は、大規模団地の持つ空間的、制度的基本課題と現状の状況課題から、持続的な集住環境への再構築に向けて、どのような方向性で、どの主体がどのように連携し、どのようなプロセスで再編していくべきかを探り、方向性を示す研究であり、総合的かつ実践的な研究である。具体のフィールドでの提案や検証等、多くの実務家の参加が必須で、16名の研究メンバー以外に、実務建築家や事業主体経験者、行政専門家で構成される客員研究員(9名)、その他PD等若手研究者や大学院学生といった大勢での協働で取り組んでいる。研究組織は、3つの領域に分かれた研究部会を構成し、研究メンバーが継続実施している個別の研究成果、知見を具体のフィールドでの再編提案、実践プロジェクト等の様々な局面で反映させ、検証等を経て総合化する。学外の研究メンバーも多く、そのため、調整・連携については様々な工夫を凝らしている。毎週、研究拠点で開催の連絡会議(2014年9月末時点で147回開催)議事録は、メーリングリストで即日伝達、事例研究や成果・提案公表等の団地再編レクチュアシリーズはUstreamで同時配信、HP上で常時視聴可能、レクチュア終了後には意見交換会を実施している。部会の開催も、場所、時間を適宜選択し、必要に応じて、特任研究員や研究メンバーが持ち回りで意見聴取、交換を行っている。特に、プロジェクトのHP上で成果の取り出しが行えるほか、メンバー限定エリアでは、資料や検討中の案の確認、取り出しや意見交換が行える。実践的な取り組みでの活動状況は、プロジェクトのHPの他、専用HPやfacebookでいつでも確認できるようにしている。】

 いいえ【理由と対応策

】

③研究支援体制は整っているか。

はい【状況について:プロジェクトは、研究費の事務的処理や納品管理、フィールド研究・実践のための学内起案、学内評価その他について、関西大学先端科学技術推進機構、および研究推進部、社会連携部の全面的な支援を得ている。その他、UR都市再生機構や行政からは積極的、かつ多大の支援・協力を得ている。平成24年度に

具体の団地[case01]として再編提案を行った男山団地では、基礎自治体である八幡市、及び京都府自治振興課と、平成24年度内に18回の勉強会を重ね、その後、継続的な実践プロジェクトに展開するために、25年には事業主体であるUR都市再生機構を交えた連携協議会を21回開催し、2013年10月25日に、京都府知事立会いの下、3者連携協定を締結し、現在、京都府を交えた4者連携で、数々の実践的プロジェクトを実施中である。平成25年度(～26年度)に実施の、団地再編 competition 2013(アイデア、計画・設計提案を求めるコンペ)は、大阪府河内長野市内のUR南花台団地を提案の舞台とし、UR都市再生機構、大阪府の協力を得て、河内長野市と共催で実施した。こちらも、現在、具体的実践プロジェクト実施に向け、河内長野市、UR都市再生機構との連携協定の締結に向け事務レベルで最終調整中である。さらに、各行政、公的企業から講演会・展覧会会場の提供、資料情報の提供、部会・勉強会・専門家養成セミナー(平成26年度実施)への出席等、多くの支援協力を得ている。平成26年7月25日からは、タイムズ24株式会社と協定を締結し、カーシェアリングの社会実験を、男山団地内に開設した、住民も集える研究拠点施設(だんだんテラス)で開始している。】

いいえ【理由と対応策

】

④大学院学生・PD等を活用し、若手研究者の育成を行っているか。

はい【状況について：特任研究員・PD・RA(計4名、平成26年6月から現在3名)、大学院学生(延べ36名)が、研究メンバー、実務家客員研究員の指導の下、協働し、調査やワークショップ等の現場フィールド、提案策定、模型製作、展覧会運営、公表物の作成、関係受託研究等に参加し、また、国際シンポジウムや関係諸学会への論文投稿等を行っている。さらに、拠点運営を研究代表者の指導の下、協働している。平成26年6月からは、本プロジェクトでの成果が評価され、PD一名が愛媛大学助教として転出した。】

いいえ【理由と対応策

】

⑤共同研究機関等との連携はとられているか。

はい【状況について：上記③で述べたように、具体的なフィールドを対象として、UR都市機構や基礎自治体と実践的プロジェクトを連携体制で実施中である。平成25年11月からは<2.研究施設・設備等の利用について>にあるように、UR男山団地内のフィールド研究拠点施設の賃料は減免を、光熱費は八幡市の支援支出を受けている。さらに、<5. 外部の研究資金の導入状況について>にあるように、八幡市とは、研究プロジェクトに関連する内容の受託研究を連携して実施している。河内長野市からも、受託研究が予定されており、現在事務的手続きを行っている。UR都市再生機構では、<3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について>にあるように、再編提案で指摘している建築基準法86条(一団地認定)に関する現実的な検討業務「団地再生における建基法86条の取扱いに関する検討会」を平成25年度に実施、本研究メンバーの2名が座長、委員として参加し、課題とシミュレーションを取りまとめた。後述の団地再編専門家養成セミナーには、近畿圏の若手行政職員や研究者が参加している。】

いいえ【理由と対応策

】

2.研究施設・設備等の利用について

①研究施設の整備、プロジェクトに適合した装置設備の整備、装置・設備の利用はなされているか。

はい【状況について：KSDP 団地再編プロジェクト室として、関西大学先端科学技術推進機構学術フロントア・コアのF41室(39.00㎡)、F42室(78.00㎡)を使用している。F41室は模型製作、図面作成室として主に使用し、F42室は、特任研究員、PD、RAが常駐している。PD等調整会議、大学院生準研究員会議、研究代表者・関係メンバー等が参加するKSDP連絡会議は毎週ここで開催している。レクチャや部会の会場、会議は、同じく先端科学技術推進機構の会議室(4室)を頻繁に使用している。また、実践的フィールド研究活動拠点として、京都府八幡市内のUR都市再生機構男山団地内の、C2-402室(46.08㎡)を居住実験及び現地研究拠点として平成24年7月より25年10月迄使用、11月からは住民も集える研究拠点施設(だんだんテラス)として男山中央センター内の、B47-104室を使

用している。研究活動拠点であるUR都市再生機構男山団地内のC2-402 室および男山中央センター内のB47-104 室の家賃については、行政(八幡市・京都府)及びURとの連携活動でもあるため、一定の減免措置を受けている。<C2-402 室賃借料 月額:45,600 円、B47-104 室賃借料 月額:47,040 円> B47-104 室は、公共が借りる場合と同等の措置として賃借料は半額、光熱費は八幡市が負担支出となっている。

研究設備として、団地再編シミュレーション・システム(模型作成のためのレーザーカッターおよび模型及び実映像をシミュレーションして空間比較を行うシュノーケルカメラ・システム装置)の導入(15,000 千円)を図った。特にシュノーケルカメラ・システムに関して、目的に即した改造(路地状の狭い道路空間からの視界の確保、アナログカメラとデジタルカメラの併用・切り替式)(693 千円)を行った。併せて、変更前後の空間変化が理解しやすい画像比較ソフトの開発を行い、提案とその公表に用いている。導入した本システムは、提案検討及び提案公表のための模型作成、及び模型による空間の検証、住民への説明などに繰り返し使用している。システムが整備された初年度 12 月以降の34 か月間(その間、プロジェクト室は 655 日稼働)で、146 日 573 時間稼働している。

その他、シミュレーション映像用の大型ディスプレイとして、70 型タッチパネル(898 千円)を補足的に使用しているが、シミュレーション・システムとしてだけでなく、グーグルなどの現場映像を共有しつつ提案策定を進める際や、その他会議中のホワイトボード的利用など、多様な用途に使用している。地盤パネル(1,407 千円)については、模型の土台を、運搬・展示のできるパネルと一体で作成し、使用している。】

□いいえ【理由と対応策

】

3.研究計画の進捗(達成)状況、これまでの研究成果等について

①構想調書提出時(中間評価を終えた拠点では進捗状況報告書提出時)の計画と対比して、研究は進展しているか(達成度)

☑はい【状況について: 研究は順調に進展している。初年度の海外事例調査、継続実施している事例研究や具体の団地を対象とした再編提案、検証ワークショップ、団地住民生活意向調査、深層意識に迫る団地住民ヒアリング、提案から検証を経ての提言、ガイドライン試案などの「空間」「コミュニティ」「公共政策・マネジメント」を総合する研究成果は、115 回(昨年秋の中間報告時 97 回)のレクチュアシリーズ(Ustream で同時配信、プロジェクト HP で映像をストック化、常時視聴可能)、153 編(中間報告時 138 編)の団地再編リーフレット(HP でダウンロードが可能)、団地再編叢書 8 編(中間報告時 5 編)、関西・関東での数度の展覧会や講演会、シンポジウム、研究発表会、雑誌掲載などで、関係専門家だけでなく、団地住民、市民などに広く公表し、課題の社会共有化を図っている。

研究 2 年度目に再編提案を行ったUR男山団地[case01]では、中間報告時に予定していた通り、八幡市・UR都市機構・関西大学間で、3者連携協定(京都府が立会)を締結(2013.10.25)し、京都府も交えた 4 者連携で、男山団地を舞台に、継続的な共同研究、研究成果の実践的展開(と検証作業)が進んでいる。特に、連携協定後開設した、365 日オープン住民コミュニティ拠点施設「だんだんテラス」では、団地再編に向けての様々な活動が展開され、全国からも注目されて視察団体も増えている。UR都市機構では、再編提案で指摘している建築基準法 86 条(一団地認定)に関する現実的な検討業務「団地再生における建基法 86 条の取扱いに関する検討会」を平成 25 年度後半に、中間報告時に予定していた通り実施、本研究メンバーの 2 名が座長、委員として参加し、課題とシミュレーションを取りまとめた。その後、平成 26 年度 4 月以降、神戸市、大阪府、全国建築審査会協議会会長へのヒアリング、意見交換を行い、報告書が完成、現在、オープン公表に向けてUR本社と調整中である。一方、UR 男山団地では、平成 26 年度、八幡市より関西大学(本プロジェクト)に、「団地型分譲住宅の再生に関する支援方策の検討」(受託研究)が発注され、関係する検討作業として、プロジェクトで提案したような、一団地の解体とそれに伴う小規模な単位ごとの連担建築物設計制度への再編のシミュレーション計画の検討を行っている。本研究プロジェクトの研究成果の発展的具體化として期待され、平成 25 年度に八幡市より発注された「男山地域再生基本計画の策定」(受託研究)も、住生活基本計画その他の関連計画、行政関連部局との整合化、議会説明も終わり、平成 26 年度 4 月に公表され、具体的な取り組みが多面で展開している。なお、この計画策定は、一般財団法人地域総合整備財団<ふるさと財団>が実施した、平成 26 年度大学連携型まちなか再生支援事業(補助金)による補助金を得て実施され、現地での

中間報告会、最終の全国報告会での報告の他、報告書も作成されており、同事業団のまちなか再生ポータルサイトのHP上で公開されている。「プロデューサー(関西大学本研究プロジェクト代表)を計画立案に入れるという、この事業の仕組みが端的に表現されている良い事例。コンサルタントに発注しても計画そのものは作れるが、地域の新しい動きや行政の階層をしっかりと結び付けて仕組化するの、プロデューサーが入る大きな意味合い。」として、本研究プロジェクトが狙っている団地および地域再編へのプロセスプランニング研究の成果が評価されている。

具体的な再編提案は、対象としたUR団地では、当初計画以上に、さらに、中間報告時以上に実践的研究活動、実践プロジェクトの具現化へと展開している(研究成果の概要を参照されたい)。また、当初計画にはなかった、公的事業主体毎の枠を超え、UR・公社・公営間の連携に関する研究が開始されていることも特筆される。

中間報告時に予定していた、団地再編 competition 2013 (平成 25 年～26 年)も予定通り実施し、想定を超える反響を得て、今年度夏に実施の公開シンポジウムには多くの参加者を得、新聞各紙でも詳細に報告報道された。提案作品集も刊行され、行政団体をはじめとする多くの関心者に配布した。その後、提案の舞台とした、河内長野市南花台地区での事業(「スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業)実施に向け、大阪府と河内長野市が連携協定を締結、今後は、関西大学と河内長野市等との連携協定を含め、本研究プロジェクトメンバーも参加し、プロジェクト代表が継続的な総合調整検討役を担うこととなっており、八幡市男山地域とは異なる状況下での、団地を中心とした地域再編プロジェクトの実践検討活動が展開されることになった。

PD、RA、博士・修士の学生については、中間報告時時点よりさらに広範に、広く団地住民や関係者間の協議に参画させ、また、調査やワークショップ等の現場フィールド、提案策定、展覧会運営、公表物の作成、(後述の)団地再編専門家養成セミナーのテキスト作成補助、関係受託研究に参加させて、そこで得られた知見を国際シンポジウムや関係諸学会への論文投稿、さらに提案策定・実践に協働させることにより、社会的経験に富んだ人材育成を図っている。(平成 26 年 6 月には、本プロジェクトでの研究活動が評価され、1 名のPDが愛媛大学助教に転出した。)併せて、協働する行政や関係機関の職員に対して、この分野に関する人材育成を図っているが、これまでの研究成果を活かし、平成 26 年度には、近畿圏の行政、関連コンサル、大学の、若手職員、若手研究者を主対象として、「団地再編専門家養成セミナー(無料:全 20 回)」を実施している。

いいえ【理由配布された。と対応策】

②当初計画と差異が生じているか。

生じていない

生じている【理由と対応策】

③克服すべき問題点は生じているか。

生じていない

生じている【理由と対応策】

④今後の研究方針(最終年度の場合は、期間終了後の展望)は確立しているか。

はい【方策について: 研究活動は、当初の予定通り、いや、それ以上に当初計画になかった実践的プロジェクトも加わって進展しており、当初計画の研究成果(団地再編技術指針)の公表出版に際し、5 年間の研究成果、提案、実践的研究活動、団地再編専門家養成セミナーテキスト、等のすべてを、最終年度中に出版刊行するべく計画している。また、プロジェクト期間終了後も、連携協定等に基づき、研究の具体的フィールドとなった男山、南花台等での具体的実践活動を継続する予定である。一方、外部評価委員からも、プラットフォーム(団地再編の具体的支援、人材育成)となる「団地再編研究所」の設立が期待されているが、この間継続してきたレクチュアシリーズ、研究発表会、シンポジウムへの多くの参加研究者や実務経験者、実践者、聴講者、および、巡回展や講演会への参加研

究者や講演者、視聴講者、関係事業者や行政関係者、さらには、関わっている団地の住民、自治会、地域関係者、事業主、行政等による多くの人材ネットワークがすでに形成されており、再編提案設計コンペや、団地再編(再生・更新)を考える大学間のネットワーク形成等により、さらにこれを強化しつつ、研究の成果と課題提案、課題共有と併せ、本研究活動の拠点化へのフレームを構想していきたい。】

いいえ【理由と対応策

】

⑤構想調書に記載したメンバー全員の研究成果は公開されているか。

はい【状況について： 本研究は、大規模団地の持つ空間的、制度的基本課題と現状の状況課題から、持続的な集住環境への再構築に向けて、どのような方向性で、どの主体がどのように連携し、どのようなプロセスで再編していくべきかを探り、方向性を示す研究であり、総合的かつ実践的な研究である。研究者個人の学会論文等の研究成果以外にも、共同論文、合同論文、実践的研究プロジェクトの研究の実施、団地再編レクチュア、団地再編リーフレット、団地再編叢書、成果展覧会、シンポジウム、パネルディスカッション、団地再編 competition2013 作品集、団地再編専門家養成セミナー、専門雑誌・新聞への公表、一般雑誌・新聞等への公表等、団地住民や地域住民、行政関係者、研究者、学生等に幅広く、わかりやすい方法で成果を公表している。研究活動は、研究メンバーや客員研究員、準研究員(大学院生)、関係行政やUR都市機構等の協働で行っているが、本研究の成果は、学会論文の数ではなく、社会的かつ具体的な実践活動そのものでもあり、成果の公表に関してはそういった視点で幅広く行っている。この間の、この課題に対する社会的関心の高まりは、先に述べたネットワークの広がりや課題認識・および課題解決の方向性に関する認識の共有化の高まりにあると実感しており、この研究プロジェクトの果たした社会的役割は大きい。また、今後の継続的な社会的展開への期待も大きいことを実感している。そういった意味からも、研究の成果は、具体的なプロジェクト、地域での、具体的な再編活動の実施に関する、連携協定の締結や具体的実践活動の実施・継続であり、研究のためだけの連携ではないことを付しておきたい。】

いいえ【理由と対応策

】

4.評価体制について

①自己評価は実施しているか。

はい【状況について： 各年度末に成果をとりまとめ、『技苑』(Innovative Technology World)に発表しており、その際に併せてプロジェクト内で「自己(内部)評価会議」をそれぞれ実施した。また、2012年9月には、関西大学内の「研究推進委員会 外部資金審査・評価部会」において「研究プロジェクトの進捗状況評価」を実施、それを受け「内部評価会議」を実施した。さらに、次項で述べる外部評価委員会後に、主査会議を開催し、指摘事項や意見交換の反映を図っている。】

いいえ【理由と対応策

】

②外部評価は実施しているか。

はい【状況について： 構想調書に記載の通り、本研究プロジェクトは、シミュレーション提案とそれらに対する住民や地域、事業主体からの検証を繰り返すなかで団地再編手法の技術開発研究を図ろうとするものであった。最初に提案の対象団地として取り上げた、京都府八幡市UR男山団地での研究・提案活動は、多くの関心、期待を集め、その後、実践的研究活動に展開していった。そのため、行政(八幡市、京都府)、事業主体(UR都市再生機構)との強固な連携体制、住民や地域との協働の可能性が大きく芽生え、この視点から、より実践的な具現化プロジェクトの実施、構想が可能となった。そういった実践的、経験的研究活動を通しての検証や提案体制での研究活動を進める中で、申請時の計画どおり、平成24年度末に、2年間の研究成果と進捗状況に関する最初の外部評価を受けた。

「外部評価委員会」は、平成 25(2013)年3月 11 日及び 28 日に、当該分野に詳しい専門家委員3名に委嘱して実施した。評価委員からは、実践的な団地再編手法の技術開発研究に相応しい研究活動を実行しているかの評価を受けた。外部評価委員は、平成 24 年度の総合評価結果は、4(=期待以上の成果)が 2 名、3(=期待どおりの成果)が 1 名であった。平成 26 年 3 月 28 日には、平成 25 年度までの3年間を対象とする外部評価を受けた。研究の継続的な視点を鑑み、平成 24 年度と同じ評価委員に委嘱し実施した。平成 24 年度の外部評価指摘事項の実現や、新たな研究活動の開始が評価を受け、平成 25 年度の総合評価結果について、評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であった。

なお、後述の、6. ②中間評価時の留意事項について(中間評価を終えた拠点のみ) (該当有) に、外部評価について詳細を記述している。

いいえ【理由と対応策】

※3 年目及び 5 年目の年度当初のみ、外部評価結果の概要を添付してください。

③評価結果を反映しているか。

はい【状況について： 上記記載のとおり。】

いいえ【理由と対応策】

5.外部の研究資金の導入状況について

①当該プロジェクトに関連する受託研究等、指定寄付、科研費等について獲得しているか。

はい【状況について： 科学研究費補助金 12 件 74,433,000 円、研究助成 1 件 1,422,850 円、受託研究 12 件 21,302,500 円 合計 97,158,350 円】

いいえ【理由と対応策】

6.留意事項への対応について

該当なし

②中間評価時の留意事項について(中間評価を終えた拠点のみ) (該当有)

はい【対応内容:

【委員1の所見】 目的に謳われている住環境の再生が具体的な個々の団地で如何に現実化していくのか、その成果の実現が待たれる。

前述の八幡市男山団地を中心とする男山地域での連携協定(2013 年 10 月 25 日締結)、南花台団地を中心とする南花台地域での連携協定(2014 年度計画中)により、具体的なプロジェクトが進行中であり、本年度中にもそのいくつかは具現化される。したがって、そのプロセス(多様な主体間のコラボレーション・システム等)の研究も実践をベースに進んでいる。

【委員4の所見】論文は多いがアカデミックであるかどうかは分からない。

本研究は、大規模団地の持つ空間的、制度的基本課題と現状の状況課題から、持続的な集住環境への再構築に向けて、どのような方向性で、どの主体がどのように連携し、どのようなプロセス(多様な主体間のコラボレーション・システム等)で再編していくべきかを探り、方向性を示す研究であり、ハードな建築技術の開発研究ではなく、制度再編やプロセス手法構築といった計画学的実践研究である。とりあげている建築基準法 86 条「一団地制度」の改変等は、実践的制度再編の研究であり、すでに、行政や国への提案等により、あるいは男山団地において具体的な再編行為が実施されようとしており、アカデミックな論文に代わる大きな成果が社会的に結実しようとしている。また、疲弊しつつあるコミュニティの再生に関しては、「だんだんテラス」の開設・活動等によってその具体的な手法を提案し実践しており、この点でも、アカデミックな論文に代わる大きな成果がすでに結実しつつある。後述の追加指摘事項に対する項目でも述べているが、平成 25 年度の外部評価では、「多大な調査を行い、課題を整理し、

実践的活動につなげるといふ、建築学に相応しいプロセスがしっかりと実行されている。」と高い評価を得ており、実践的研究活動を通じて、大学の果たすべき社会的役割を提案し、実践している研究である。

また、この研究の取り組みおよび成果について、ストックを生かした団地再編(再生・更新)は、団地だけでなく、まちづくり上の大きな課題であり、研究の成果は、研究者や専門家は言うに及ばず、広く住民や市民、行政職員、議員、次代を担う学生等の理解を得ることが重要であるとの考えをもち、研究活動や成果の一般へのわかりやすい方法での公表、社会ストック化に特に留意している。団地再編レクチュア(HPで視聴可能)、団地再編リーフレット、団地再編叢書は今後、大量に団地再編の取り組みの具現化が予測される中、多くの主体者、関係者にとって貴重で有益な参考資料となることを確信している。

さらに、5年間の研究活動、検証を重ねた実践的な提案、実現したプロジェクトとそのプロセス記録、団地再編技術指針(ガイドライン)を含む団地再編専門家養成セミナーテキスト、等を総括した研究活動の成果を、最終年度中に出版公表することとしている。

平成 26 年 10 月 16 日に実施される、平成 26 年度UR技術・研究報告会(主催:UR都市機構)において、八幡市男山団地での実践的取り組みを、特別講演として報告する。

【追加書面調査の指摘事項】

口社会的な連携に関する課題については、科学的な評価のみならず、社会的な外部評価を受けてほしい。

当初より、本研究プロジェクトは、シミュレーション提案とそれらに対する住民や地域、事業主体からの検証を繰り返すなかで団地再編手法の技術開発研究を図ろうとするものであった。最初に提案の対象団地として取り上げた、京都府八幡市UR男山団地での研究・提案活動が、多くの関心、期待を集め、実践的研究活動に展開していった。そのため、行政(八幡市、京都府)、事業主体(UR都市再生機構)との強固な連携体制、住民や地域との協働の可能性が大きく芽生え、この視点から、より実践的な具現化プロジェクトの実施、構想が可能となり、実践的、経験的研究活動を通しての検証や提案体制での研究活動を進める中で、申請時の計画どおり、平成 24 年度末に、2 年間の研究成果と進捗状況に関する外部評価を受けた。

「外部評価委員会」は、平成 25(2013)年3月 11 日及び 28 日に、当該分野に詳しい専門家委員3名に委嘱して実施した。委員は(1)元 21 世紀COEプログラム(首都大学東京)「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」(平成 15 年度採択)拠点リーダーの経歴を有する、首都大学東京都市環境学部教授(当時)深尾精一氏、(2)元兵庫県土整備部まちづくり部長で、兵庫県住宅供給公社理事長の川端宏幸氏、(3)元UR都市機構九州支社長で(株)URサポート専務取締役、専務執行役員の網野正親氏である。この3名から、実践的な団地再編手法の技術開発研究に相応しい研究活動を実行しているかの評価を受けた。これら3名の外部評価委員は、学術的かつ科学的委員、社会的な実践領域に詳しい元行政委員、同じく元公的事業主体委員であり、科学的のみならず、社会的な連携に関する外部評価も受けていると考えている。もとより、建築学分野、特に住環境分野は、科学的側面と社会的側面を併せ持つ分野であり、特に留意して、研究活動に取り組んでいる。

委員による主な意見は以下のとおりである。

【平成 24 年度】

○項目 1:本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか?

・現段階では、当初の研究計画がしっかりと実行されている。事例収集とその発信については当初の計画以上に進んでいる。ケーススタディ団地の選定も適切に行われているがこれからが正念場だろう。

○項目 2:特にすぐれている点

・世界の団地再編事例の収集分析、再編提案団地の選定などの視点が明確。模型の作成、シミュレーションソフト等住民との意思疎通ツールとして有効。実務経験者を含む豊富な研究者によるレクチュアシリーズ、リーフレット、及びプロフィールシートの作成は優れている。空間再編、環境配慮、居住者参加など幅広い視点からの指針作成に期待する。

・建築基準法 86 条に係る問題点の指摘など、従来見過ごされがちであったことに焦点を当て、その問題解決に様々な観点からアプローチを試みていることは高く評価できる。

○項目 3:問題点・今後の課題

・本問題の解決のためには従来の学問分野を超えた取り組みが必要である。UR都市再生機構や公社などの事業主体と連携して研究を進めることが必要であるが、さらに大きな社会システムの変革への努力が必要であろう。

○項目 4:期待される研究成果

・本プロジェクトは団地再編の研究に止まらず、住民、事業者、行政が情報を共有し、目標に向けて一体となった取り組みが期待できる。豊富な事例と再編前後の比較ツールが充実しており、ワークショップ等において住民の理解が得やすい。各種研究成果や再編事例、各分野の専門家等を登録し、再編の支援と人材育成を継続して実施する、プラットフォームとなる〈団地再編研究所〉の設立を期待する。等の評価と期待を受けた。平成 24 年度の総合評価結果は、4(=期待以上の成果)が 2 名、3(=期待どおりの成果)が 1 名であった。

一方、研究グループや研究体制およびプロジェクトの実現に向けてのスケジュールの再設定についての指摘を受けた。この外部評価を真摯に受けとめ、研究メンバー間で意見交換と次年度の目標の設定、修正点の確認と再整理を行った。外部評価委員からの科学的評価、社会的評価に基づく指摘事項には、平成 25 年度に実施を計画していた事項も多く、スムーズな展開を図ることができた。

外部評価のコメントで特に優れている点として挙げられていた、建築基準法の 86 条一団地の指摘に関しては、UR都市機構が、再編提案で指摘している建築基準法 86 条(一団地認定)に関する現実的な検討業務「団地再生における建基法 86 条の取扱いに関する検討会」を平成 25 年度に実施、研究代表者と外部共同研究者(座長として参加)の 2 名が参加し、課題とシミュレーションを取りまとめた。後、平成 26 年度に、神戸市、大阪府、全国建築審査会協議会会長へのヒアリング、意見交換を行い、報告書が完成、現在、オープン公表に向けてUR本社と調整中である。

平成 25(2013)年 10 月には、八幡市、UR都市機構、関西大学間で、男山団地を拠点とする男山地域の再生に関する連携協定が締結された。京都府の大きな支援も約束され、平成 24(2012)年度初めに開始した八幡市との勉強会が、その後京都府の参加、平成 25(2013)年度にはUR都市再生機構の参加も得て、団地再編へのラウンドテーブル、プラットフォーム拠点へと進展した。また、平成 25(2013)年度には、八幡市から団地を拠点とする男山地域の再生基本計画の策定が本プロジェクトに委託(受託研究)され、その中で示されたいくつかの企画が具体化に向け、現在、進行中である。

平成 24 年度策定の男山団地再編提案、男山団地住民全員と地域住民に対して実施した「住民の住まいに関する意向調査」、調査内容の公表と提案の検証を目的として、団地住民や地域住民、行政、事業主体とのワークショップのなかで、多くの住民の第一の不満が、日常的に気楽に寄れる場の欠如であったことを受け、平成 25 年 11 月には、住民が自由に集えるコミュニティ拠点〈だんだんテラス〉(=住民も集える研究拠点施設)を、団地内の空き店舗を利用して開設し、365 日毎日開いている拠点として運営している。現在は本プロジェクトを協働する準研究員(大学院生)も積極的に関わって運営しているが、次年度からは住民主体に移行するべく、団地住民や自治会、行政や事業者職員も加わった任意団体「だんだんテラスの会」を創設し、そのプロセス研究を実践的に実施している。UR都市機構、八幡市との連携事業でもあり、家賃を半額としている他、光熱費については八幡市から援助を受けていることはすでに述べたとおりである。

なお、住民や地域、行政、事業主体とのワークショップは、中間報告時までの 8 か月間で 16 回開催し、その後も継続して実施している。現在では、それぞれの主体間で自由に意見交換するワークショップへと進展しており、多くの参加者を得ている。このほかにも、団地住民や地域と協働する様々なプロジェクトが進行中であり、団地再編のための実践的なプロセス研究が進んでいる。外部評価で指摘を受けた、UR都市再生機構、公営、公社間の連携を模索した研究会も発足し、団地を超えた様々な地域再編(再生・更新)への取り組みとの連携も始まっている。

同じく外部評価でも期待を受けている、現団地住民による、原状回復義務のない自住户改修システムの開発も、予定通り、本年度実施を開始している。住民の不満の第二が、住戸内設備の老朽化や結露であり、高齢者や住み

続けたい住民、新しく入居したい住民にとって、疲弊しつつある団地の、豊かな人生を過ごせる場への再編を考える上で最も重要な課題であると考えている。

○全国規模に広がる団地再編・地域への関心

本研究は、具体的な団地における再編(再生・更新)提案を策定する中から、再編手法に関する技術開発研究を行うものであるが、平成 25(2013)年度に<提案ケース3>として取り上げた大阪府河内長野市の南花台団地では、本プロジェクトからの提案にとどまらず、全国規模の団地再編(提案)コンペティションを、河内長野市との共催で実施し、全国から172件の応募登録を得、団地再編の考え方、捉え方を広め、この問題に対する関心の広がりを実感できた。平成 26 年3月の一次審査を経て、5月 25 日に開催した、8作品による最終公開プレゼンテーション審査では、100 名を超える参加者や、一般紙、専門紙・業界紙の取材・掲載が相次いだ。その後も河内長野市役所で作品の公開展示を継続した。7月には、本プロジェクトからの提案と、コンペでの優秀提案を併せ、作品集の発行、作品公開展示や一般向けのシンポジウム(7月 16 日)、公共事業者向けの公共住宅セミナー(7月 17 日)を開催し、300 名ほどの参加者を得て、広く具現化に向けた議論を公表した。

さらに南花台地区でも、大阪府および関係機関との協働で、来年度からの事業(スマートエイジング・シティ事業)実施に向けた実践活動が、本プロジェクト関連の受託研究として今年度、実施される。

上記の研究の進展をもとに、本プロジェクトでは、研究メンバーが主体となり、平成 26 年度5月から、これまでの研究成果と最終の取りまとめを視野に入れ、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の公的団地の再編に関わる若手職員や研究者を対象として実施している。7月までの 10 回を団地原論シリーズ、10月からの 10 回を団地再編シリーズとして開講している。セミナーのテキストは、団地再編叢書で広く刊行予定である。

平成 26 年 3 月 28 日には、平成 25 年度までの3年間を対象とする外部評価を受けた。研究の継続的な視点を鑑み、平成 24 年度と同じ評価委員に委嘱し実施した。平成 24 年度の外部評価指摘事項の実現や、新たな研究活動の開始が評価を受け、平成 25 年度の総合評価結果について、評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であった。

上記が外部評価、その後の経緯の詳細であり、科学的、社会的な外部評価を受けつつ、団地住民をはじめとする多くの関係者との協働により、本研究プロジェクトを進めている。】

□テーマと手法に解離が見られるような気がする。

○テーマと手法の適切性

本プロジェクトは当初より以下の内容を研究により、明らかにすることを目的としている。

- ① “開かれた団地空間”へ再編するデザイン技法を明らかにする。
- ② 段階的に取り組むべき適正規模を明らかにする。
- ③ 導入される新たな機能やその配置方針を明らかにする。
- ④ 既存の住宅ストックや環境の評価システムを明らかにする。
- ⑤ 団地再編への公的支援、制度改革の方向を明らかにする。
- ⑥ 団地再編にかかる多様な主体間のコラボレーション・システムを明らかにする。

などである。

また、この研究の取り組みおよび成果について、ストックを生かした団地再編(再生・更新)は、団地だけでなく、まちづくり上の大きな課題であり、研究の成果は、研究者や専門家は言うに及ばず、広く住民や市民、行政職員、議員、次代を担う学生等の理解を得ることが重要であるとの考えをもち、研究活動や成果の一般へのわかりやすい方法での公表、社会ストック化に特に留意している。

実践的な団地再編(再生・更新)手法の技術開発研究に関する、テーマと手法の適切性に関しては、団地住民、地域住民、事業主体、行政をはじめとする多くの関係者からの賛同と協働、支援を得て、本研究プロジェクトが進められていること、外部評価委員からも、その適切性に関する評価を得ている。以下は、平成 25 年度の外部評価の講評である。

【平成 25 年度】

○項目 1:本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？

・当初の計画以上に成果を挙げ、着実に研究が進展している。

○項目 2:特にすぐれている点

・多大な調査を行い、課題を整理し、実践的活動につなげるという、建築学に相応しいプロセスがしっかりと実行されている。

○項目 3:問題点・今後の課題

・昨年度の外部審査で指摘した公民連携については、八幡市における 3 者連携協定の成果を見た。

・さらに広域的な枠組みとして関西全体で、UR、府県市、公社、さらに関係する大学、NPO、まちづくり協議会で情報共有、相互連携を図るプラットフォームの設立が課題である。(当面、URの主体的な働きかけを期待する。)

団地住民、地域住民、事業主体、行政をはじめとする多くの関係者からの賛同と協働や支援を得て、本研究プロジェクトが進められていることその他、平成 26 年3月に実施した平成 25 年度の外部評価では、総合評価結果について、評価委員3名全員が、4(=期待以上の成果)であったことからも、テーマと手法は適切であると考えられる。

関西大学戦略的研究基盤 団地再編プロジェクトにおける活動状況についてはウェブサイトにおいて公開している。

URL:<http://ksdp.jimdo.com/> 】

いいえ

7.特記事項

研究者の変更が生じた場合はその旨を記入

【 ・研究員の追加(平成 23 年 4 月 1 日) 大坪明(武庫川女子大学教授) 研究メンバー充実の為

・研究員の削除(平成 24 年 4 月 1 日) 柏木大輔(都市再生機構) 業務上の理由により

⇒以後、UR都市機構との研究協力体制はより強固に継続している。男山地域の再生に関しては、平成 25 年 10 月 25 日に、京都府知事立会いの下、八幡市、関西大学、UR都市機構間で連携協定を締結。】

※用紙が足りない場合は適宜複写してください。

別紙05-4

[自己評価審査結果 (事後)] 外部資金審査・評価部会からの意見等

平成 26 年 12 月 22 日

研究代表者

先端科学技術推進機構

理工学研究科

江川 直樹 教授

研究推進委員会 外部資金審査・評価部会長

(戦略的研究基盤形成支援事業関係)

前田 裕

研究代表者の先生におかれましては、ご多用中、種々ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

貴プロジェクトにおかれましては、平成 27 年度に事後評価を迎えることとなりますので、学内における研究プロジェクト支援（進捗管理）の一環として「進捗状況チェックシート」及び「研究成果の概要（5年目）」をご提出いただきました。

外部資金審査・評価部会において、研究の進捗状況について検討させていただきました結果、各委員から以下のようなご意見を頂きましたので、ご報告申し上げます。

なお、今回も、専門的な研究内容よりも、共同研究としての組織的な取組みが行われているかどうかという観点を中心に検討いたしました。

研究成果報告書作成に際して、これらの意見をもとに、ご対応いただければ幸いです。

記

項目	コメント
1. 研究組織 について	十分な実践型研究になっており、十分な成果が挙げられている。
	年齢的（若手研究者から他大学の教授）にも分野的（大学関係者から自治体関係者）にも幅広い共同研究者を有し、積極的に研究が遂行されている。
	学内外の多様な組織からのメンバーが有機的に連携し、それぞれの役割を果たして特色のある組織を形成していると推定される。
2. 研究施設・設備等について	十分利用されており、問題ない。
	学内・学外施設設備とも研究を遂行するために活用されている。特に学外の施設を研究の場として利用し、その利用料の補助を自治体から受けていることは、研究の重要性を反映していると言え、評価が高い。
	適切な利用状況であると推定できる。
3. 研究計画の進捗（達成）状況・研究成果等について	報告書、論文などのリストからも明らかなようにメンバーの研究者たちが実践を意識して、良く活動していることが窺える。大変好ましい。
	研究は予定通り遂行されており、研究成果の公表も活発に行われている。
	計画通りの進捗と思われる。とくに本プロジェクトでは、HP を通しての情報の公開が優れていると評価できる。研究終了後も継続的な検討がなされる基盤が確立されていると

外部資金審査・評価部会からの意見等

	思われる。人材育成の面でも申し分ない。
4. 評価体制 について	適正な評価体制が組み込まれている。
	内部の検証、外部評価の受信ともおこなわれており、PDCA サイクルを十分に実施している。
	必要十分な評価がなされていると評価できる。
5. 外部の研究資金の導入状況について	関連して、科研費など多くの資金を得て、大変好ましい。
	外部資金の導入について、全構成員で考えると大きな問題はないが、学内研究者の科研の代表者としての採択状況、申請状況は十分とは言い難い。
	良好と言える。
6. 留意事項への対応について	適切に対応されている。なおここでの成果はアカデミックというより実践重視であり、過度にアカデミック的側面を求めるべきでないと考えます。
	留意事項に対し真摯に受け止めて確実に成果を上げていると言える。また、審査員がわかりにくいことを明確に説明されている。
	留意事項を受け止め、適切な対応がなされている。
7. 特記事項について	問題なし
8. 総合所見	非常に大きな成果が挙げられており、研究者各位の尽力に敬意を表す。
	研究は自治体等と共同でしっかりと計画的に行われている。このプロジェクトで行われた手法が、日本全国の団地の老朽化問題を抱える多くの自治体に普及していけば、社会的に大きな貢献をすることになるので、さらなる発展を期待する。
	関西大学が拠点となり、様々な組織を巻き込んだ幅広い実践的な活動が着実に進められている。とくに成果公表が迅速適切に行われている点は高く評価できる。今後も継続的な発展に期待ができる。

以上

別紙06-1

平成 24 年度 外部評価 —平成 25 年 3 月 11 日、28 日に外部評価委員会実施—

平成24年度外部評価表「集合住宅”団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」

委員名	項目	評価記号	コメント
深尾精一 首都大学東京 都市環境学部教授(当時) 元21世紀COEプログラム(首都大学東京) 「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」(平成15年度採択) 拠点リーダー 元日本建築学会副会長 2001年度 日本建築学会賞論文賞受賞 1996年度 日本建築学会作品選奨 工学博士(東京大学)	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 現段階では当初の研究計画がしっかりと実行されている。事例収集とその発信については当初の計画以上に進んでいる。ケーススタディ団地の選定も適切行われているがこれからが正念場だろう。
	2	4	・特にすぐれている点 建築基準法86条に係る問題点の指摘など、従来見過ごされがちであったことに焦点を当て、その課題解決にさまざまな観点からアプローチを試みていることは高く評価できる。
	3	4	・問題点・今後の課題 本課題の解決のためには従来の学問分野を超えた取り組みが必要である。都市再生機構や公社などの事業主体と連携して研究を進めることが必要であるが、さらに大きな社会システムの変革への努力が必要であろう。
	評価日付 25.3.12	【総合評価】	3
川端宏幸 兵庫県住宅供給公社理事長 元兵庫県 まちづくり部長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 研究体制がツリー型の組織構造でなく、また、研究のフロー図がない。
	2	4	・特にすぐれている点 世界の団地再編事例の収集分析、再編提案団地の選定などの視点が明確。模型の作成、シミュレーションソフトなど住民との意思疎通ツールとして有効。実務経験者を含む豊富な研究者によるレクチャアシリーズ、リーフレット、及びプロフィールシートの作成。空間再編、環境配慮、居住者参加など幅広い視点からの指針に期待。
	3	4	・問題点・今後の課題 住民、事業主体、研究者間で情報共有、意見交換をする「まちづくり委員会(仮称)」の設置。自治会等各種団体の活動を全体でマネジメントするエリアマネジメントの提案。当面サポートする中間支援組織が必要。ボランティア活動を発展させ、継続的なまちづくり活動を持続するコミュニティビジネスの創造。学生シェアハウス、空き店舗活用等。各団地の再生の研究や取り組みを行っている関西の大学との連携。UR、府県市、公社間の連携。
	評価日付 25.3.28	【総合評価】	4
網野正観 ㈱URサポート専務取締役 専務執行役員 都市再生業務本部長(当時) ㈱URサポート代表取締役社長(現在) 元UR都市機構九州支社長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 学内・学外の研究者、客員研究員及び準研究員(大学院生)による充実した研究実施体制となっている。準研究員(大学院生)を海外調査に派遣するなど、団地再編の人材育成に意欲的である。総合的に見て、研究活動は着実に進展していると考えられる。
	2	4	・特にすぐれている点 研究成果のHP上でのストック化、シンポジウム・巡回展の開催、団地再編叢書の発行など積極的かつ効果的に研究成果を公開している。男山団地を対象とした再編提案に関連して、地元八幡市との強固な協力関係を構築し、さらにURを加えた3者間の協力協定締結を予定する所まで、展開を図っている。
	3	4	・問題点・今後の課題 3つの分野ごとの研究グループを編成しつつ「協働研究」を行うための研究の進め方について再整理し、目標設定およびスケジュール設定を行うべきである。団地再編叢書、団地再編ガイドライン等の研究成果の実用性を高めるために、公的事業主体(UR、地方公共団体等)ごとに異なる状況・意向への理解を深める必要がある。
	評価日付 25.3.29	【総合評価】	4

[評価項目について]	
それぞれの評価項目は以下の通りです	
1	研究組織(研究の実施体制)の適切性
2	研究プロジェクトの進捗状況・研究成果
3	その他
総合評価	

[評価記号について]	
それぞれの評価項目の<評価記号>欄は下記の1~4を用いて記入されています	
4	研究活動設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があがっている
3	設定された目的は概ね達成され、期待通りの成果があがっている
2	設定された目的はある程度達成されている
1	設定された目的は十分には達成されていない

別紙06-2

平成 25 年度 外部評価 —平成 26 年 3 月 28 日に外部評価委員会実施—

平成25年度外部評価表「集合住宅”団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」

委員名	項目	評価 記号	コメント
深尾精一 元首都大学東京 都市環境学部教授 元21世紀COEプログラム(首都大学東京) 「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成」(平成15年度採択) 拠点リーダー 元日本建築学会副会長 2001年度 日本建築学会賞論文賞受賞 1996年度 日本建築学会作品選奨 工学博士(東京大学)	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 当初の計画以上に成果を挙げ、着実に研究が進展している。
	2	4	・特にすぐれている点 多大な調査を行い、課題を整理し、実践的活動につなげるという、建築学に相応しいプロセスがしっかりと実行されている。
	3	4	・問題点・今後の課題 団地の再編という、個別解が求められる課題に対し、アウトプットとして想定しているガイドラインを適用性の高いものとして作成するには、従来のガイドラインとは異なる工夫が必要であろう。
	評価日付 26.3.28	【総合 評価】	4
川端宏幸 兵庫県住宅供給公社理事長 元兵庫県 まちづくり部長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 本プロジェクトで提案している「玉突き型プロジェクト」はわかるが、最後の着地点を目指す全体像の見える化と、山山団地等での事例を踏まえた実践的な提言を期待する。
	2	4	・特にすぐれている点 だんだんカフェ、ワークショップを経て、開設された「だんだんテラス」は、一定の成果であり、その運営が住民主体に移行することにより、まちづくりの拠点となる可能性がある。
	3	4	・問題点・今後の課題 昨年度の外部審査で指摘した公民連携については、八幡市における3者連携協定の成果を見た。さらに、広域的な枠組みとして関西全体で、UR、府県市、公社、さらには関係する大学、NPO、まちづくり協議会で情報共有、相互連携を図るプラットフォームの設立が課題。(当面、URの主体的な働きかけを期待する。)
	評価日付 26.3.28	【総合 評価】	4
網野正親 ㈱URサポート代表取締役社長 R都市機構九州支社長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 団地再編に対する基礎的な研究は、着実に継続され蓄積がなされている。山山団地をフィールドにする様々な調査、提案が市、UR、大学3者の連携協定に発展し、新たな展開を生み出している。総合的に見て、研究活動は着実に進展している。
	2	4	・特にすぐれている点 山山団地における取組みは、関係者間の連携により団地再編に係る具体的なプロジェクトが連鎖的に展開する状況を作り出し、研究を実践的なレベルに引き上げている。研究成果のHP上でのストック化、シンポジウム・巡回展の開催、団地再編叢書の発行、3者連携協定テイクの公表など積極的かつ効果的に研究成果を公表している。
	3	4	・問題点・今後の課題 多岐にわたる研究成果が蓄積され今後も並行して実施されるため、集大成に向けて、研究の全体像を共有し、適切にスケジュール管理を行うためのツールが必要である。本研究に基づく最終的な提案の実効性を高めるために、団地再編の主要なプレーヤーとなる公的事業主体の状況、方針等について認識を深めることが望まれる。
	評価日付 26.03.28	【総合 評価】	4

[評価項目について]	
それぞれの評価項目は以下の通りです	
1	研究組織(研究の実施体制)の適切性
2	研究プロジェクトの進捗状況・研究成果
3	その他
総合評価	

[評価記号について]	
それぞれの評価項目の<評価記号>欄は下記の1~4を用いて記入されています	
4	研究活動設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があがっている
3	設定された目的は概ね達成され、期待通りの成果があがっている
2	設定された目的はある程度達成されている
1	設定された目的は十分には達成されていない

平成26年度 外部評価
—平成27年3月16日に外部評価委員会実施—

平成26年度外部評価表「集合住宅」団地の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究

委員名	項目	評価 記号	コメント
深尾精一 元首都大学東京 都市環境学部教授 元21世紀COEプログラム(首都大学東京) 「巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育 成」(平成15年度採択) 拠点リーダー 元日本建築学会副会長 2001年度 日本建築学会賞論文賞受賞 1996年度 日本建築学会作品選奨 工学博士(東京大学)	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 当初の計画から軌道修正されているが、実践型研究プロジェクトとして、着実に進展しており、期待以上の成果を上げている。若手の研究者の育成についても、ある程度の成果を上げていると評価できる。
	2	3	・特にすぐれている点 大学院生などをプロジェクトに積極的に参加させ、様々な団地活性化プログラムを実行に移していることは高く評価できる。また、事業主体や公共団体との連携も、大学を中心としたプロジェクトとしては、特筆に値する。
	3	(3)	・問題点・今後の課題 現時点でのプロジェクトのまとめ方が、活動内容の列挙が中心となっており、研究の「成果」が示されていない。活動によって様々な知見が得られていると考えられるので、他の研究者が参照できるような形にまとめるべきである。
	【総合 評価】	3	・期待される研究成果 団地の再編に係る課題は、UR、公社、公営といった事業主体の違いによって様々である。セミナー資料などとして作成されているようであるので、それらを研究成果としてまとめて欲しい。また、団地再編の大きな目標と、だんだんテラスなどの実践活用との関係を明確にしていたいただきたい。
評価日付 H27.3.16			
川端宏幸 兵庫県住宅供給公社理事長 元兵庫県 まちづくり部長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ ○研究プロジェクトの全体像の明示 全体像は研究活動概要見取り図で分かるが、以前から指摘しているようにフローチャート(各研究のツリー構造)が必要である。 当初、課題に掲げていた「空間」「コミュニティ」「公共政策・マネジメント」の3つの柱別の研究成果が明確ではない(相互に重なり合い、相乗効果が発揮されることは確かだが)、少なくとも、それぞれからの研究成果が求められる。 受託研究は外部委託しているとのことだが、例えば市から受託の「男山地域再生基本計画」は男山団地再編提案とどう関連し、活かされているのか、それぞれの役割分担と相互に活用した部分を研究成果公表の祭り明かにする必要がある。 ○分かりやすく実践的な団地再編ガイドライン 男山団地等の事例を踏まえた団地再編ガイドラインの普遍化したものが最終的な団地再編技術指針となると思われるが、建築基準法86条への対応や賃料間のコミュニティ形成等の課題への提言を期待する。
	2	4	・特にすぐれている点 ○住民主体のまちづくりへの取り組み 本プロジェクトから始まった「だんだんテラス」の運営主体の意向を目指す「だんだんテラスの会」、「ダンスdeソナタ」をサポートする「おひさまテラスの会」などの住民組織が育成されつつあり、これらを拠点とした住民主体のまちづくりが期待できる。 ○専門家の養成の取り組み 自治体、大学院生等が受講した「団地再編専門家養成セミナー」は、テキスト化に止まらず、その受講生の輪がさらに広がり、相互に連携した団地再編への取り組みが期待される。
	3	4	・問題点・今後の課題 ○UR、府県市、公社間の連携 以前から指摘しているように、広域的な団地再編の枠組みとして関西全体で、UR、府県市、公社、さらには関係する大学、NPO、まちづくり協議会で情報共有、相互連携を図るプラットフォームの設立が課題である。そのため上記の養成セミナーの受講者が輪を広げるとともに、本プロジェクトの成果を踏まえたUR(関西圏の3公の約半数の住宅を管理)の主導的な取り組みを期待する。
	【総合 評価】	4	・期待される研究成果 ○DIYによる取り組みの成果 DIYによる多様な住まい方の提案と付加価値を高める研究・活動を通じて、公共住宅のあり方(公共財としてのスケルトン)と原状回復義務を免除規定の見直しの提言を期待する。 ○公共員制度の普遍化 京都府の「公共員制度」は、新たな公と民を橋渡しする支援制度として普遍化が望まれる。 ○シミュレーション・システムによるプレゼン 再編前後の住民等へのプレゼンツールとして開発されたシミュレーション・システムを今後取り組まれる様々な団地再編のツールとして提供していただきたい。
評価日付 H27.3.19			
網野正親 様URサポート代表取締役社長 元UR都市機構九州支社長	1	3	・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 本プロジェクトの大きな特徴は、当初想定されていた再編提案・検証の枠を超えて、実践レベルでの数多くの研究活動を展開している点である。男山団地では市、URとの連携協定に基づいて実践的コラボレーションが連鎖的に展開されており、また、南花台団地でも提案競技を契機として、大阪府、市等との連携による新たな事業の試みが始められている。 総合的に見て、本プロジェクトは当初の研究計画を上回る内容で進展している。
	2	4	・特にすぐれている点 ①男山団地、南花台団地での実践的研究活動への展開は、団地(事業主体、住民)と地域(行政、市民)を結びつける“学”の役割を具体的に示す好事例となっている。 ②団地再編レクチャー・リーフレット等の公表、シンポジウム・巡回展の開催、団地再編叢書の発行、男山団地での3者連携協定締結後の公表、団地再編専門家養成セミナーなど、積極的かつ効果的な研究成果の公開が行われている。
	3	4	・問題点・今後の課題 だんだんテラスは、本プロジェクトにとって象徴的な研究活動であり、確実に継承されることに重要な意義がある。新たな運営主体の育成、補助金の確保、学生の継続参加の仕組みづくりなどによって、本プロジェクト終了までに確実に継承の目途をつけることが今後の課題と考えられる。
	【総合 評価】	4	・期待される研究成果 ①男山団地および南花台団地における実践的研究活動によって得られる成果 ②本研究の蓄積を反映して策定される実用性の高い団地再編ガイドライン ③本研究プロセスを通じて実現される団地再編に係る人材の育成(本プロジェクトに参加した学生、専門家養成セミナー受講生など) ④本プロジェクトの研究成果を発展的に継承する拠点形成
評価日付 H27.3.27			

[評価項目について]
それぞれの評価項目は以下の通りです

1	研究組織(研究の実施体制)の適切性
2	研究プロジェクトの進捗状況・研究成果
3	その他

総合評価

[評価記号について]
それぞれの評価項目の<評価記号>欄は下記の1~4を用いて記入されています

4	研究活動設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があがっている
3	設定された目的は概ね達成され、期待通りの成果があがっている
2	設定された目的はある程度達成されている
1	設定された目的は十分には達成されていない

別紙06-4

平成 27 年度 外部評価
—平成 27 年 7 月 7 日に外部評価委員会実施—

外部評価表 「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」

委員名	項目	評価 記号	項目に関する コメント	コメント
網野 正観 (株式会社URサポート 代表取締役 社長)	1	4		・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 本プロジェクトの大きな特徴は、当初想定されていた再編提案・検証の枠を超えて、実践レベルでの数多くの研究活動を展開している点である。男山団地では八幡市、URとの連携協定に基づき、京都府も含めた実践的コラボレーションが連鎖的に展開されており、また、南花台団地でも提案協議を契機として大阪府、河内長野市等との連携による新たな事業の試みが始められている。 総合的に見て、本プロジェクトは当初の研究計画を上回る内容で進展している。
	2	4		・特にすぐれている点 ①男山団地、南花台団地での実践的研究活動への展開によって、優れた実践体験の場を作り出し、個々の課題ごとに成果を積み重ねることにより、団地(事業主体、住民)と地域(行政、市民)を結びつける“学”の役割を目に見える形で示す好事例となっている。 ②団地再編レクチャー・リーフレット等の公表、シンポジウム・巡回展の開催、団地再編叢書の発行、男山団地での3者連携協定締結の公表、団地再編専門家養成セミナーなど、積極的かつ効果的な研究成果の公開が行われている。また、新聞、テレビを通じた情報発信も活発に行われている。
	3	4		・問題点・今後の課題 多くの連携主体とともに実施している実践的研究活動には、男山団地のだんだんテラスなど本研究プロジェクト終了以降も継続的に実施すべきものがあり、確実に継承の目処を付けることが今後の課題と考えられる。
	【総合 評価】 27.7.17	4		・期待される研究成果 ①男山団地および南花台団地における実践的研究活動によって得られる成果 ②本研究の蓄積を反映した実用性の高い団地再編ガイドラインの策定および出版 ③本研究プロセスを通じて実現される団地再編に係る人材の育成(本プロジェクトに参加した学生、専門家養成セミナーの受講生など) ④本プロジェクトの研究成果を発展的に継承する拠点形成
深尾 精一 (首都大学東京 名誉教授)	1	4-		・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ 研究の初期の段階から研究経過について説明を受けているが、当初の計画に対して、研究の進展とともに、適切に軌道修正を行い、着実に成果を上げている。
	2	4		・特にすぐれている点 自治体である八幡市と、事業主体であるUR都市機構と連携協定を結んでいるが実効性のあるものとなっており、公共集合住宅団地の再編という課題に対し、理想的な体制となっている。
	3	(3)		・問題点・今後の課題 研究のリーダーと大学院生等の若手研究者との協働研究活動は評価できるが、今後、研究基盤を継続性のあるものとするためには、中堅の研究者の育成が不可欠である。
	【総合 評価】 27.7.7	4		・期待される研究成果 団地の住民を巻き込んだ実践的なソフト面での研究が着実に進められているが、ハード面の研究である具体的な建築物の改修・再編に関して、具体的な成果が示されることを期待する。
川端 宏幸 (兵庫県住宅供給公社 元理事長)	1	4		・本プロジェクトは、当初の計画に沿って着実に進展しているか？ ○研究プロジェクトの全体像の明示 今回初めて、本資料第2章で「空間・デザイン」「マネジメント」「コミュニティ」の立場から研究成果が述べられ、一定、それぞれの役割が明確となった。 その中で、「だんだんテラス」についての江川先生と岡先生の記述に重複部分があるように感じられる。多少の重複はやむを得ないが、仕組みについては江川先生、コミュニティについては岡先生というように整理された方がよいと思われる。 次章、第3章の「研究活動の詳細」に期待する。 ○団地再編技術指針(ガイドライン)の構成 プロジェクトのプロセスそのものがガイドラインとなることは、理解できるが、各プロセスにおいて、専門家養成セミナーテキストやリーフレットのどの項が参考になるのか明示していただきたい。
	2	4		・特にすぐれている点 ○地域包括ケア複合施設の開設 子育て支援施設として「おひさまテラス」の開設とともに、このたび高齢者支援施設として「地域包括ケア複合施設」が中央センターに隣接して開設されるに当たり、その誘致や駐車スペースの機能改変等、事業者、住民、大学、行政の一体となった取組は傾聴に値する。ぜひ、リーフレットに取り入れていただきたい。
	3	3		・問題点・今後の課題 ○高齢者への配慮 これまで、報告いただいた範囲では、団地内の高低差や住棟内のバリアフリーへの対応の記載が十分ではないように感じられる。団地内の高低差の解消やスロープ、エレベーターの設置、住戸内の手すりの設置や段差の解消、緊急時コールボタンの設置等の対応についても記載いただきたい。 ○建築基準法86条の検討 UR都市機構が検討会を開催しているとのことだが、団地再編セミナーのテキストを見る範囲では、簡略された記述にとどまっている。斜線制限、容積率、賃分一体の団地等の具体的な課題について、一般論として隘路打開策を示唆いただきたい。 ○連携実践・人材育成拠点の形成 この男山団地の取組で生まれた学生、住民、自治体等の人材育成が継続されることは、南花台や泉北NT、明舞団地等他の団地の再生にも不可欠である。是非、人材育成の担保となる拠点形成を成し遂げていただきたい。
	【総合 評価】 27.7.20	4		・期待される研究成果 記載なし

【評価項目について】
それぞれの評価項目は以下の通りです

1	研究組織(研究の実施体制)の適切性
2	研究プロジェクトの進捗状況・研究成果
3	その他

総合評価

【評価記号について】
それぞれの評価項目の<評価記号>欄は下記の1~4を用いて記入されています

4	研究活動設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があがっている
3	設定された目的は概ね達成され、期待通りの成果があがっている
2	設定された目的はある程度達成されている
1	設定された目的は十分には達成されていない

別紙07

平成 25 年度団地再生における建築基準法 86 条（一団地認定）の取り扱いに関する検討業務 業務仕様書

〔1〕業務目的

都市再生機構の賃貸住宅団地のうち、高度成長期の後半（昭和 40 年代）に開発・建設された郊外住宅団地については、大規模な団地で、建築基準法 86 条（一団地認定）により建設されているものが多い。そのような団地は、今後、より顕在化する人口減少・少子高齢化に伴う、各地域における住宅地のコンパクト化へ向けて、スマートシュリンクの拠点住宅地となるべく住宅地を支える諸機能の拠点化を目指すべきところである。

そのためには、新たな住宅市街地像へ向けて、ハードな住宅地空間の改変のみならず、住宅地を支える多様なサービスのハブとなり、各時点での住宅地のニーズに応じて多様に変化しえる可変性も備えた新たな住宅地の運営を目指すことになる。

戦後の住宅地形成の計画手法は、完成形ありきの計画手法であったが、時間軸において多様性と可変性を備えた新たな住宅地計画を支える計画手法を目指して、建築基準法 86 条（一団地認定）に期待する方向と具体的内容を検討する。

〔2〕履行期間

契約締結日の翌日から平成 26 年 3 月 31 日まで。

〔3〕業務内容

(1) 団地の再生における建築基準法 86 条（一団地認定）の課題整理

- ・住宅団地における建築基準法 86 条（一団地認定）の課題、特定行政庁の運用実態等について、都市再生機構が実施した平成 17 年度、18 年度、20 年度に取りまとめた調査報告書を基に、(2) ①②の視点等をもって課題の整理を行う。

(2) 団地の再生における建築基準法 86 条の限定的な取扱いの検討

① 団地再生のケースに応じた考察

- ・建築物の一部の滅失及び建築による場合（建替えを伴う場合）
- ・団地の一部を新たな住宅地（戸建住宅地）に再生する場合
- ・建築物を一部新規に建築する場合（空閑地利用の場合）
- ・既存建築の増築・改修による場合（リノベーションの場合）
 - ・賃貸と分譲が併存する団地において、信託を活用するなど新たな所有・利用形態による団地の再構築の場合 など。

なお、西日本支社の具体的団地再生のケースに当てはめて考察するものとし、団地の選定にあたっては、都市再生機構の調査職員と協議すること。

② 以下の建築基準法 86 条の限定的な取扱いの着眼点から考察

- ・現存し継続する建築物に対する手続きの在り方
- ・シュリンクする市街地、縮小・変貌する団地に対応した手続きの在り方
- ・時間経過において逐次進捗・変容する再生に対応する手続きの分割化の在り方
- ・分譲管理組合（土地の資産単位）を一単位とする手続きの在り方

③ 多様性と可変性を備えた新たな住宅地計画を支える計画手法と建築基準法 86 条の限定的な取扱いの提案（①と同じ団地再生の具体的事例を挙げて、提案すること。）

(3) 有識者による検討会の開催

- ・学識経験者等（UR と協議の上決定）6 名程度の検討会の運営補助（会議資料作成、議事録作成、報告書作成、委員への事務対応等）
- ・履行期間中 3 回程度開催。
- ・各検討会開催前に UR 事務局と 3 回程度作成資料等について協議する。

(4) 検討結果をもとにした地方公共団体建築主事等との意見交換、ヒアリング

- ・大阪府、京都府、兵庫県、大阪市、堺市、京都市、神戸市を想定。

別紙08

シンポジウム、研究発表会、展覧会、だんだんカフェ、WS等の開催ポスター
一覧表

番号	カテゴリー	開催年	開催月日	タイトル等
1	シンポジウム	2012	1月23-24日	第16回先端科学技術シンポジウム 戦略基盤団地再編プロジェクト
2	シンポジウム	2012	7月14日	地域再生センター研究発表会『団地再編への挑戦-団地の「まち」づくり-』
3	シンポジウム	2012	10月6日	地域再生センター研究発表会（東京フォーラム）
4	シンポジウム	2012	11月8-12日	団地再編・住みよいまちへ2012
5	シンポジウム	2012	12月5-9日・14-18日	団地再編・住みよいまちへ2012 in 千里、八幡
6	シンポジウム	2013	1月29-30日	第17回先端科学技術シンポジウム 戦略基盤団地再編プロジェクト
7	シンポジウム	2013	3月25-27日	団地再編・住みよいまちへ2012 in 東京
8	シンポジウム	2013	11月1日-12月25日	団地再編コンペティション
9	シンポジウム	2014	1月23-24日	第18回先端科学技術シンポジウム 戦略基盤団地再編プロジェクト
10	シンポジウム	2014	5月25日	団地再編コンペティション・2次審査・展示会
11	シンポジウム	2014	7月12日	近代の集合住宅団地は何を目指したか?
12	シンポジウム	2014	7月16日	団地再編・持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-
13	シンポジウム	2014	7月17日	団地再編・持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-
14	シンポジウム	2015	1月10日	関西大学地域再生センター研究発表会
15	シンポジウム	2015	1月22-23日	第19回先端科学技術シンポジウム 戦略基盤団地再編プロジェクト
16	セミナー	2014	3月1日	関西大学団地再編専門家養成セミナー
17	地域イベント	2013	3月15日、18日	だんだんカフェ 第1.2回
18	地域イベント	2013	4月7日	だんだんカフェ 第3.4回
19	地域イベント	2013	4月19日	だんだんカフェ 第5.6回
20	地域イベント	2013	5月13-21日	だんだんギャラリー・カフェ
21	地域イベント	2013	5月25日	だんだんカフェ 第7.8回
22	地域イベント	2013	7月2日	体験版だんだんカフェ
23	地域イベント	2013	10月6日	だんだんワークショップ 第1回
24	地域イベント	2013	11月16日	だんだんテラスオープニング大作戦
25	地域イベント	2014	1月19日	だんだんワークショップ 第2回
26	地域イベント	2014	10月26日	南花台 ○○ワークショップ 第1回
27	地域イベント	2014	11月25日・12月10日	南花台 ○○ワークショップ 第2.3回
28	地域イベント	2015	1月17日	南花台 ○○ワークショップ 第4回
29	地域イベント	2015	2月22日	南花台 ○○ワークショップ 第5回
30	地域イベント	2015	3月7日	南花台スマートエイジングシティキックオフミーティング
31	地域イベント	2015	4月25日	南花台 ○○ワークショップ 2015年度 第1回
32	地域イベント	2015	7月4日	第1回南花台の未来を考える住民集会 南花台みんなの拠点を考える
33	地域イベント	2015	8月8日・9月19日	第2回・第3回南花台の未来を考える住民集会 みんなの拠点でなにをやってみよう?
34	パンフレット	2015	-	ダンチ de コソダテ in 男山団地
35	地域イベント	2015	10月3日	第4回南花台の未来を考える住民集会 みんなの拠点でさあやってみよう!!
36	地域イベント	2015	11月21日・12月5日	第5回・第6回南花台の未来を考える住民集会 みんなの拠点をどう使っていく?
37	地域イベント	2015	1月9日	第7回南花台の未来を考える住民集会 みんなの拠点を使ってみよう!!
38	地域イベント	2015	2月20日	第8回南花台の未来を考える住民集会 みんなの拠点を使ってみよう!! Part2
39	地域イベント	2015	3月12日	咲つく南花台「ふりかえりだよ」全員集合

団地再編リーフレット Re-DANCHI leaflet 例

イギリス・マンチェスター ヒューム地区の団地再生

001

ヒューム地区はマンチェスター市の中心部にあり、1950年代後半から1960年代前半にかけて大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。

ヒューム地区の再生

1. ヒューム地区の再生の背景

2. ヒューム地区の再生の計画

3. ヒューム地区の再生の実施

4. ヒューム地区の再生の効果

5. ヒューム地区の再生の課題

ヒューム地区の再生

6. ヒューム地区の再生の展望

7. ヒューム地区の再生のまとめ

8. ヒューム地区の再生の参考文献

9. ヒューム地区の再生のお問い合わせ先

ヒューム地区の再生

10. ヒューム地区の再生のまとめ

11. ヒューム地区の再生の参考文献

12. ヒューム地区の再生のお問い合わせ先

オランダ・アムステルダム ヘルマニア地区の団地再生

003

ヘルマニア地区はアムステルダムの中心部にあり、1960年代後半から1970年代前半にかけて大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。

ヘルマニア地区の再生

1. ヘルマニア地区の再生の背景

2. ヘルマニア地区の再生の計画

3. ヘルマニア地区の再生の実施

4. ヘルマニア地区の再生の効果

5. ヘルマニア地区の再生の課題

ヘルマニア地区の再生

6. ヘルマニア地区の再生の展望

7. ヘルマニア地区の再生のまとめ

8. ヘルマニア地区の再生の参考文献

9. ヘルマニア地区の再生のお問い合わせ先

ヘルマニア地区の再生

10. ヘルマニア地区の再生のまとめ

11. ヘルマニア地区の再生の参考文献

12. ヘルマニア地区の再生のお問い合わせ先

ベルリンの世界遺産 近代集合住宅群を築く

006

ベルリンの世界遺産地区は、1990年代後半から2000年代前半にかけて大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。

ベルリンの世界遺産 近代集合住宅群を築く

1. ベルリンの世界遺産地区の再生の背景

2. ベルリンの世界遺産地区の再生の計画

3. ベルリンの世界遺産地区の再生の実施

4. ベルリンの世界遺産地区の再生の効果

5. ベルリンの世界遺産地区の再生の課題

ロンドン・チャークヒル地区の再生 (拳法と現状)

049

チャークヒル地区はロンドンの中心部にあり、1960年代後半から1970年代前半にかけて大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。

チャークヒル地区の再生

6. チャークヒル地区の再生の展望

7. チャークヒル地区の再生のまとめ

8. チャークヒル地区の再生の参考文献

9. チャークヒル地区の再生のお問い合わせ先

再生現場を空間計画の立場から確認して (Montbelaard-Bethencourt)

062

モンベラール地区はアムステルダムの中心部にあり、1960年代後半から1970年代前半にかけて大規模な団地開発が行われた。この地区は、戦後復興の一環として、大規模な団地開発が行われた。

モンベラール地区の再生

1. モンベラール地区の再生の背景

2. モンベラール地区の再生の計画

3. モンベラール地区の再生の実施

4. モンベラール地区の再生の効果

5. モンベラール地区の再生の課題

モンベラール地区の再生

6. モンベラール地区の再生の展望

7. モンベラール地区の再生のまとめ

8. モンベラール地区の再生の参考文献

9. モンベラール地区の再生のお問い合わせ先

モンベラール地区の再生

10. モンベラール地区の再生のまとめ

11. モンベラール地区の再生の参考文献

12. モンベラール地区の再生のお問い合わせ先